



# Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)

---

Sun Microsystems, Inc.  
901 San Antonio Road  
Palo Alto, CA 94303  
U.S.A. 650-960-1300

Part Number 806-7195-10  
2001 年 2 月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. 901 San Antonio Road, Palo Alto, California 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部分は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョーベイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, AnswerBook, AnswerBook2, SunStore, docs.sun.com, Java, JDK, Solaris Web Start, JumpStart, AdminTools, NFS, JavaSpaces, DiskSuite, OpenWindows, XView, JavaSpaces, DeskSet, SunScreen, Solstice AdminSuite, Solstice AutoClient, HotJava, Solaris Management Console は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Netscape は、米国およびその他の諸国の Netscape Communications Corporation 社の登録商標です。Netscape Communicator は、Netscape Communications Corporation 社の商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社で開発されたソフトウェアです。(Copyright OMRON Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.)

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK8」は株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK8」にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政省が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DiSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 8 (Intel Platform Edition) 1/01 Release Notes Update

Part No: 806-6618-10

Revision A



# 目次

---

はじめに	21
<b>1. Solaris 8 1/01 の製品構成</b>	<b>27</b>
製品の種類と出荷形態	27
Solaris 8 1/01 の構成	27
Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD (Intel 版)	28
Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel 版)	28
Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel 版)	28
Solaris 8 1/01 LANGUAGES CD (Intel 版)	29
Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスク	29
Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (英語 + ヨーロッパ言語版)	30
Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版)	30
Solaris 8 メディア一覧 (Contents of Solaris 8 Media)	30
Solaris 8 インストールの手引き (Solaris 8 Start Here)	31
Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版) (Solaris 8 (Intel Platform Edition) 1/01 Installation Release Notes)	31
Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)	32
Binary Code License (Terms & Conditions)	32
<b>2. 日本語環境のインストール</b>	<b>33</b>

カスタマサポートへの連絡	33
必要なメモリー	34
必要なスワップ領域	34
必要なディスク容量	35
Solaris 8 1/01 CD のソフトウェア容量	35
Solaris DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量	36
日本語環境の選択	38
デフォルトロケールの選択	38
インストールするロケールの選択	40
Solaris 8 1/01 ソフトウェアのインストール	41
日本語環境のインストール	41
対話式インストール	42
カスタム JumpStart	45
Solaris Web Start 3.0	45
Solaris Web Start 3.0 CLI インストール	47
Solaris 8 1/01 へのアップグレード	47
インストールサーバーの作成方法	49
<b>3. インストールに関する注意事項とバグ情報</b>	<b>53</b>
システム認識に関するバグ情報	54
システム認識ツールが、異なるサブネット上にあるネームサーバーの 検証に失敗する (バグ ID: 4265363)	54
Solaris 8 のインストールを開始する前に知っておく必要がある注意事項とバグ情 報	54
ロケール選択機構の変更	55
Athlon プロセッサ搭載機種で Device Configuration Assistant フロッ ピーディスクからのブートに失敗する (バグ ID: 4344312)	55
symhis1、mega、cpqncr などのディスクコントローラドライバがイン ストールされているシステムに、8G バイトを超えるパーティション を作成できない	56

Solaris 8 オペレーティング環境へアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS を最新のものに更新する必要がある 57

BIOS バージョン GG.06.13 を使って Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない 57

PCI-IDE システム上で DMA が無効になる 58

kdmconfig で USB Mouse が PS/2 Mouse として認識される (バグ ID: 4312993) 58

64M バイトメモリーのシステムが、ネットワーク接続時に停止する (バグ ID: 4394591) 59

## Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報 60

Solaris Web Start インストールにおいて必要なパーティション 60

ネットワークゲートウェイシステム上でシステム認識中に使用する代替ネットワークインタフェースを指定できない (バグ ID: 4302896) 61

IA BOOT パーティションからブートする時に cpio エラーメッセージが出力される (バグ ID: 4327051) 62

INSTALLATION CD からのブート時に警告メッセージが表示される場合がある (バグ ID: 4391205) 62

Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の AnswerBook ドキュメントをインストールする方法 63

Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD の挿入について 63

Live Upgrade のインストール画面の表示 64

Solaris Web Start 3.0 におけるウィンドウシステムの構成に関する注意事項 64

## 対話式インストールに関する注意事項とバグ情報 65

ddi: net: x86 ネットワークブートは、特定のタイプの一次ネットワークインタフェース上でしか動作しない (バグ ID: 1146863) 65

x86BOOT パーティションの設定を解除できない (バグ ID: 4367779) 65

インストールの進捗を示すスケール表示が不正確 (バグ ID: 1266156) 66

ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127) 66

[日本語環境のみ] CD による対話式インストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項 67

[日本語環境のみ] 日本語端末からの tip(1) 接続によるインストールで、インストール画面が英語で表示される (バグ ID: 4313411) 68

[日本語環境のみ] 不要な文字が表示される場合がある (バグ ID: 4305860、4396803) 68

カスタム JumpStart インストールに関するバグ情報 68

カスタム JumpStart は Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD と LANGUAGES CD をインストールしない (バグ ID: 4304912) 69

アップグレードに関する注意事項とバグ情報 70

Solaris 8 1/01 へのアップグレードインストールの範囲 70

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD を使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 8 1/01 にアップグレードできない 70

Priority Paging 機能と Solaris 8 キャッシュアーキテクチャ 70

x86BOOT fdisk パーティションを持つ Solaris 8 より前のシステムをアップグレードすると、ファイルシステムの再配置時にバックアップファイルの復元に失敗する (バグ ID: 4367334) 71

対話式インストールによるアップグレードでのロケール選択 71

[日本語環境のみ] 「日本語 Solaris 2.5.1 PC 漢字コード開発キット」が入ったシステムからのアップグレード 72

[日本語環境のみ] cs00 に関するアップグレード時の注意事項 72

ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078) 73

WBEM データ消失防止のための JavaSpaces データストアのアップグレード (バグ ID: 4365035) 73

DiskSuite でデータが失われる可能性がある (バグ ID: 4121281) 74

Solaris 2.5.1 で再配置した CDE が、Solaris 8 へのアップグレード後に残る (バグ ID: 4260819) 75

WBEM 1.0 がインストールされている Solaris 7 オペレーティング環境から Solaris 8 にアップグレードすると、WBEM 2.0 が動作しない (バグ ID: 4274920) 76

アップグレード時に SUNweeudt のインストールが部分的に失敗する (バグ ID: 4304305) 77

アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535) 78

Solaris 2.6 5/98 からのアップグレード後、リブート時に pdwa に関するエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4200789) 78

Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris DOCUMENTATION CD をアップグレードすると、同じコレクションが複数表示される (バグ ID: 4343499) 79

[日本語環境のみ] アップグレード後のログファイル中に警告メッセージ no longer a symbolic link が出力されることがある (バグ ID: 4279768) 80

インストール全般に関する注意事項とバグ情報 80

SunScreen 3.1 Lite のサポートについて 80

日本語、フランス語、中国語 (簡体字) ロケールで SunScreen をインストールすると、不要な文字がメッセージ中に表示される (バグ ID: 4336336) 81

Solaris Product Registry を使用して SunScreen をアンインストールすると、パッケージの削除に失敗する (バグ ID: 4336957) 81

スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394) 81

[日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される 82

[日本語環境のみ] Solaris 8 でサポートされる日本語入力システム 82

[日本語環境のみ] 日本語 106/109 キーボードに関する注意事項 83

[日本語環境のみ] ブート時に周辺デバイスの設定不備を告げるメッセージが表示される 83

[日本語環境のみ] 日本語キーボード入力 84

英語および日本語以外のロケールに関するバグ情報 85

フランス語およびドイツ語のカスタム画面の文字が翻訳されていない (バグ ID: 4368056) 85

無効な言語オプション Russia (KOI8-R) がある (バグ ID: 4342970) 85

トルコ語ロケールで対話式インストールができない (バグ ID: 4359095) 85

ヨーロッパ言語ロケールのシステムをアップグレードすると、ログにエラーメッセージが出力されることがある (バグ ID: 4230247、4225787) 86

スウェーデン語ロケール: インストール中に英語のダイアログボックスが表示される (バグID: 4300655) 86

フランス語およびイタリア語のインストールウィザードで、CD タイトルが {0} と表示される (バグ ID: 4302549) 87

de\_AT.ISO8859-15 ロケールおよび fr\_BE.ISO8859-15 ロケールで、対話式 GUI インストール (suninstall) が失敗する (バグ ID: 4305420) 87

ドイツ語ロケール: Web Start Kiosk でプロキシを設定するダイアログの「OK」ボタンおよび「Cancel」ボタンが「Undefined」と表示される (バグ ID: 4306260) 87

#### 4. 実行時の注意事項とバグ情報 89

セキュリティに関するバグ情報 90

"here-documents" に対して csh が推測可能な tmpfiles を作成する (バグ ID: 4384080) 90

ディスクレスクライアントに関するバグ情報 90

マルチホームサーバー上に、smdiskless を使用してディスクレスクライアントを作成できない (バグ ID: 4390236) 90

GUI 全般 93

[日本語環境のみ] ja および ja\_JP.PCK ロケールにおけるフォントサイズに関する注意事項 93

[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールとフォントに関する注意事項 93

[日本語環境のみ] Solaris CDE アプリケーションと ja\_JP.UTF-8 ロケールのフォントに関する注意事項 95

[日本語環境のみ] DPS 上でのユーザー定義文字のアウトラインフォント指定に関する注意事項 96

共通デスクトップ環境 (CDE) 97

Solaris 8 オペレーティング環境で Motif プログラムをコンパイルする時に問題が発生する 97

ボリュームマネージャが CD-ROM のマウントに失敗することがある (バグ ID: 4355643) 97

PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435) 98



国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814) 98

PDA Sync のオンラインヘルプ内での操作が無効になる (バグ ID: 4260411) 99

dtmail で不在返信メッセージを作製すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110) 99

SmartCard Console 1.0 のヘルプの情報に誤りがある (バグ ID: 4386225) 100

[日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケール および ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項 100

[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールでは、カレンダー (dtcm) から印刷できない (バグ ID: 4092495) 101

[日本語環境のみ] メールプログラムで、日本語をキーワードとして検索できない (バグ ID: 1263296) 102

[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565) 102

[日本語環境のみ] メールプログラムのツールバーボタンに不要なメニューが表示される (バグ ID: 4064006) 102

[日本語環境のみ] 日本語名のファイルが添付されたメールを転送する際、ファイル名が復号化されないで表示される (バグ ID: 4305194) 102

[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールで本文に韓国語等の他言語を含むメールを送信する場合の注意事項 103

[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールでウィンドウリスト (sdtwinlst) およびグラフィカル・ワークスペース・マネージャ (sdtgwm) を使用する際の注意事項 103

## OpenWindows 103

OpenWindows のアプリケーション起動時の注意事項 103

ファイルマネージャがフロッピーディスクのマウントに失敗する (バグ ID: 4329368) 104

アイコンエディタが強制的に終了することがある (バグ ID: 4298474) 105

アーカイブライブラリ 106

[日本語環境のみ] 日本語 OpenWindows の起動とロケールの制限事項 106

- [日本語環境のみ] ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8、ja\_JP.eucJP  
ロケールに関する注意事項 106
- [日本語環境のみ] 日本語 OpenWindows 初期画面のヘルプ  
ビューア 107
- [日本語環境のみ] pageview に関する注意事項 107
- [日本語環境のみ] mp コマンドで印刷する場合の制限事項 107
- [日本語環境のみ] EUC コードセット 3 の使用上の制限事項 108
- [日本語環境のみ] minm12、minm14、k14 ではボールドフォントを正しく  
表示できない (バグ ID: 1173970、1176300) 108
- [日本語環境のみ] 日本語ビットマップフォント 108
- [日本語環境のみ] XView ツールキットの制限事項 109
- [日本語環境のみ] XView ツールキットで Meta キー、左側ファンクショ  
ンキーが動作しない (バグ ID: 1118887、1148490) 109
- [日本語環境のみ] OLIT ツールキットの制限事項 109
- [日本語環境のみ] OLIT ツールキットで Meta キーが動作しない (バグ  
ID: 1170802) 109
- [日本語環境のみ] ワークスペースのプロパティウインドウ 110
- [日本語環境のみ] ファイルマネージャの制限事項 110
- [日本語環境のみ] メールツールの制限事項 110
- [日本語環境のみ] dtmail から送られた日本語テキストのアタッチメン  
トを表示できない (バグ ID: 4071688) 110
- [日本語環境のみ] MIME 形式の日本語メールを印刷できない (バグ ID:  
1193169) 111
- [日本語環境のみ] 「変更内容を保存」を行うと MIME 形式の日本語  
メールが文字化けする (バグ ID: 1216748) 111
- システム管理 112
  - [日本語環境のみ] ディスクレスクライアンのデフォルトロケール 112
  - [日本語環境のみ] Solaris 2.6 または Solaris 7 のディスクレスクライ  
アを、日本語環境で使用できない (バグ ID: 4384102) 112
  - smossservice および smdiskless で、無効なユーザー名またはパ  
スワードが指定されていてもエラーが出力されない (バグ ID: 4394572)  
112

OS サービスを SUNWCXall 以外のクラスタで追加すると、sun4u ディスクレスクライアントをブートできない (バグ ID: 4361615) 113

OS サーバーが IA の場合、OS サービスを SUNWCXall 以外のクラスタで追加すると、sun4m ディスクレスクライアントのブート時にエラーが表示される (バグ ID: 4364739) 113

Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092) 113

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の sun4u OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885) 114

Solaris 7 の OS サービスを追加すると upgrade\_log にエラーメッセージが出力される (バグ ID: 4362280) 114

[日本語環境のみ] smossservice で無効な mediapath に対するエラーメッセージの一部が文字化けする (バグ ID: 4383045) 115

rcm\_daemon からのエラーメッセージ (バグ ID: 4386436) 115

WBEM でデータを追加しようとする時 CIM\_ERR\_LOW\_ON\_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409) 115

Solaris\_FileSystem インスタンスが要求された時に CIMOM (Common Information Model Object Manager) がクラッシュする (バグ ID: 4301275) 116

[日本語環境のみ] ja および ja\_JP.PCK で Solaris Product Registry を起動すると、「Solaris 8 システムソフトウェア」という文字列が正しく表示されない (バグ ID: 4378201) 117

CD (ボリューム管理あり) を選択しても、ソフトウェア情報を認識できない (バグ ID: 4032417) 118

[日本語環境のみ] admintool で日本語を含むホームディレクトリを持つユーザーを登録できない (バグ ID: 1223141) 118

ソフトウェアパッケージを追加するときに、ディレクトリパスの指定時に admintool がコアダンプすることがある 118

[日本語環境のみ] admintool でソフトウェアの追加・削除を行う時に起動されるウィンドウで、日本語文字が表示されない (バグ ID: 1224697) 118

admintool でソフトウェア情報が更新されない (バグ ID: 4024598) 119

ソフトウェアパッケージを追加する場合、CD の読み込み中に admintool がコアダンプすることがある (バグ ID: 4304720) 119

オペレーティングシステム、ネットワーク 119

- [日本語環境のみ] ja\_JP.eucJP ロケールに関する注意事項 119
- [日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケールと ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項 120
- [日本語環境のみ] 日本語環境の設定 121
- [日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールデータベースに関する注意事項 122
- [日本語環境のみ] libjapanese に関する注意事項 123
- [日本語環境のみ] jisconv(3x) インタフェースの制限事項 123
- [日本語環境のみ] ワイド文字 (wchar\_t) の制限 124
- [日本語環境のみ] ネットワーク上の混在環境における日本語テキストの注意事項 124
- [日本語環境のみ] 日本語ファイル名の印刷に関する注意事項 124
- [日本語環境のみ] jpostprint におけるコードポイント 0x21 - 0x7e 部分のフォントに関する注意事項 124
- [日本語環境のみ] マニュアルページ、および nroff、troff 形式の出力を /usr/xpg4/bin/more でうまく表示できない (バグ ID: 1225024) 125
- Solaris 外字ツール (sdtudctool) 125
  - [日本語環境のみ] sdtudctool の制限事項と注意事項 125
  - [日本語環境のみ] ビットマップからアウトラインが正しく生成できない場合がある (バグ ID: 4007396) 127
  - [日本語環境のみ] アウトラインモードの編集で参照画面からコピーなどを行うと、ビットマップイメージが太くなる (バグ ID: 4176763) 127
  - [日本語環境のみ] ボタンを初期化できない場合、起動に失敗する (バグ ID: 4273154) 128
    - 「ファイル」メニューの「保存」がグレー表示されているために、ユーザー定義文字をファイルに保存できない場合がある (バグ ID: 4307286) 128
  - [日本語環境のみ] ja\_JP.eucJP ロケールで、ユーザー定義文字を辞書に登録できない (バグID: 4309914) 128
    - sdtudc\_extract にて Windows 外字フォントファイルからユーザー定義文字を取り出す場合、空き領域部分にもユーザー定義文字を取り出してしまう (バグ ID: 4320088) 129
  - [日本語環境のみ] フォント管理を使用して CID/Type1 フォントをインストールする際の注意事項 129

[日本語環境のみ] フォント管理で CID フォントをインストールした場合の制限事項 (バグ ID: 4009292) 130

[日本語環境のみ] フォント管理でインストールした TrueType フォントを DPS で使用できない (バグ ID: 4030803) 130

[日本語環境のみ] CID フォントを X から利用した場合にサイズが正しくない (バグ ID: 4067265) 131

[日本語環境のみ] PCK でエンコードされた TrueType フォントに関する注意事項 (バグ ID: 4066981、4066982) 131

日本語入力全般 (XIM を含む) 131

[日本語環境のみ] ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項 132

[日本語環境のみ] XIM のステータス文字列 133

[日本語環境のみ] imDisplayInClient 使用時の XView アプリケーションの問題 (バグ ID: 1124457、1124459) 134

[日本語環境のみ] XIMP\_FE\_TYPE1 で入力した文字がわずかに失われることがある (バグ ID: 1172824) 134

[日本語環境のみ] ステータス表示が正確でない (バグ ID: 1180785) 135

[日本語環境のみ] 入力サーバー (htt) の属性変更 135

[日本語環境のみ] htt の起動 135

[日本語環境のみ] 日本語入力システム設定後に再びログインしても、希望する日本語入力システムが利用できない 135

[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールで ATOK12 を使用するように設定しても、複数の言語入力の設定になる (バグ ID: 4304743) 136

[日本語環境のみ] Wnn6 の同時接続クライアント数 137

[日本語環境のみ] Wnn6 で、同じカタカナが変換候補として 2 回表示されることがある (バグ ID: 4040987) 137

[日本語環境のみ] Wnn6 設定ユーティリティで「変換 ON」のキーの割り当てを設定できない (バグ ID: 4043377) 137

[日本語環境のみ] Wnn6 設定ユーティリティの「学習/変換/表示モード」の設定画面で「次候補一覧の位置」に「カーソル」または「中央」を設定した場合、候補一覧ウィンドウはマウスポインタの位置に表示される 138

[日本語環境のみ] ATOK8 風入力スタイルでは、通常の候補一覧ウィンドウは縦または横一列で表示される 138

[日本語環境のみ] 壊れた辞書を指定すると jserver がコアダンプする (バグ ID: 4038938) 138

[日本語環境のみ] Solaris CDE 上の ATOK8 で、カラーマップを使い果たすとプリエディット・ステータスが見えなくなる (バグ ID: 1239350) 138

[日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールでの ATOK8 の利用 139

[日本語環境のみ] Solaris CDE 環境において、ATOK8 で <Shift> + <Esc>、<Alt> + <Space> が機能しない 139

[日本語環境のみ] ATOK8 を Solaris CDE 環境で使う際、カーソルキーを使用すると入力が反映されないことがある (バグ ID: 4113801) 139

[日本語環境のみ] cs00 で、Ctrl-N によって次候補を連続表示すると、同じ候補が表示されることがある (バグ ID: 1101391) 140

[日本語環境のみ] cs00 ユーザー辞書ツールに対して、Solaris CDE のセッション保存機能が働かない 141

[日本語環境のみ] cs00 使用時に、Meta-A (Again キー)、Meta-Z (Undo キー) が動作しない 141

[日本語環境のみ] cs00 でコードを区切って区点入力をする、アプリケーションへの入力が停止する 141

[日本語環境のみ] udicm コマンドは、mshow コマンドで -e または -s オプションに何も指定しないとコアダンプする (バグ ID: 1232152) 141

[日本語環境のみ] mdicm コマンドでメイン辞書を空にするとコアダンプする (バグ ID: 1209956) 142

[日本語環境のみ] cs00 の部首入力を取り消し、次に漢字候補一覧を表示させると、部首の一覧が表示されてしまう (バグ ID: 1257579) 142

[日本語環境のみ] OpenWindows 上で候補一覧ウィンドウ表示中にキーが効かなくなる (バグ ID: 4039587) 142

[日本語環境のみ] 複数言語入力環境で cs00 (日本語入力) を使用する場合のバグおよび制限事項 143

#### ATOK12 144

[日本語環境のみ] ATOK12 がサポートするウインドウ環境 144

[日本語環境のみ] 修飾キーをロックしていると、ATOK パレットのメニューが表示されない (バグ ID: 4270090) 144

[日本語環境のみ] ATOK12 の一部のコマンド行ユーティリティに関するマニュアルページが提供されていない 144

[日本語環境のみ] 辞書ユーティリティの使用する単語ファイルのコードセット	146
[日本語環境のみ] 辞書ユーティリティを使ってユーザー定義文字を辞書に登録できない (バグ ID: 4360487)	146
[日本語環境のみ] コード入力と記号入力日本語 EUC に基づいた区点を指定しても、ユーザー定義文字を正しく入力できない (バグ ID: 4339055)	147
[日本語環境のみ] Java 2 クライアントから ATOK12 を使用する場合の制限事項とバグ情報	147
ハードウェア構成	149
システムが複数の USB デバイスを持つ場合、ブート時にメモリーが不足するとパニックが発生する (バグ ID: 4359440)	149
ハードウェアのサポート	150
sd: メディアが存在しないときに出力される警告メッセージは無効 (バグ ID: 4338963)	150
Java	150
Java Plug-in のサポート	150
UTF-8 ロケールで Java 2 アプリケーションを実行する時に警告メッセージが表示される (バグ ID: 4254198)	151
[日本語環境のみ] アプレット上での日本語入力が正しく動作しないことがある (バグ ID: 4052171)	151
パフォーマンス	151
PCI-IDE システム上で DMA が無効になる	152
AnswerBook2	153
ab2admin コマンドの実行に成功しても、断続的に command failed と表示される (バグ ID: 4242577)	153
ab2cd スクリプトから誤ったエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4256516)	153
UTF-8 ロケールで ab2cd を起動すると、エラーメッセージが表示され、ヘルプライブラリしか表示されない (バグ ID: 4308667)	154
Netscape Communicator 4.75 (日本語版)	154
[日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)	154

[日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー & ペーストできない (バグ ID: 4197428) 154

Netscape Communicator 4.75 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571) 155

英語以外のロケールに関するバグ情報 155

ヘルプシステムに古いファイルが存在する (バグ ID: 4339515) 155

ヨーロッパ言語のロケールで、Solaris Management Console (SMC) のツールボックスに表示されないツールがある (バグ ID: 4391812) 155

コンテキストヘルプの一部が表示されない (バグ ID: 4391781、4389039) 156

UTF-8 ロケールで Euro にアクセスできない (バグ ID: 4363812) 156

UTF-8 ロケールで Java アプリケーションを起動する時に警告メッセージが表示される (バグ ID: 4342801) 156

ISO8859-1 以外のロケールにおけるフォントダウンローダでの印刷 157

共通デスクトップ環境 (CDE) で一部のギリシア文字が利用できない (バグ ID: 4179411) 157

すべての部分ロケールで、カレンダー・マネージャ中の拡張文字を印刷できない (バグ ID: 4285729) 157

アラビア語と UTF-8 ロケールの英語との間で、テキストをカット & ペーストできない (バグ ID: 4287746) 157

ヨーロッパ言語のロケールで、CDE の Extras ドロップダウンメニューを使用できない (バグ ID: 4298547) 158

日本語およびアジア各国語の UTF-8 ロケールで CTL がサポートされていない (バグ ID: 4300239) 158

アプリケーションの画面の一部が英語で表示される (バグ ID: 4301212) 158

ギリシア語ロケールの Solstice AdminTools で、ユーザーを追加、削除、変更できない (バグ ID: 4302983) 158

イタリア語ロケールで、フォントダウンローダの「Add」ボタンと「Cancel」ボタンが正しく表示されない (バグ ID: 4303549) 159

Sun アラビア語キーボードの文字と Microsoft アラビア語キーボードの文字が互換でない (バグ ID: 4303879) 159

SEAM アプリケーションにおいて、英語のメッセージが表示される (バグ ID: 4306619) 160



ギリシア語ロケールおよび UTF-8 ロケールで、ユーロ通貨記号が正しくサポートされていない (バグ ID: 4306958、4305075) 160

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314) 161

その他 161

バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない 161

**5. 機能に関する情報 163**

ディスクレスクライアントのサポート 163

PIM カーネルのサポート 163

実行時検索パスの構成 164

[日本語環境のみ] コード変換 (iconv) 164

[日本語環境のみ] 日本語入力システム ATOK12 166

**6. サポート中止に関する情報 167**

Solaris 8 でサポートを中止した製品 167

HotJava ブラウザ 167

Solaris Java Development Kit: JNI 1.0 インタフェース 167

Solstice AdminSuite 2.3/AutoClient 2.1 168

F3 フォントテクノロジー 168

XGL 168

派生型 `paddr_t` 168

ユーザーアカウントデータのアプリケーションプログラミングインタフェース (API) に対する変更 168

`sysidnis(1M)` システム認識プログラム 169

コンソールサブシステム 169

ビデオカード 170

`sdtudc_extract_ps` 170

将来のリリースでサポートを中止する予定の製品 171

`sendmail` ユーティリティ 171

AnswerBook2 サーバー 171

GMT zoneinfo タイムゾーン 171  
Solstice AdminTools 173  
Solstice Enterprise Agents 173  
XIL 173  
LDAP クライアントライブラリ 174  
JDK 1.1.x および JRE 1.1.x 174  
SUNWrdm パッケージ 174  
crash(1M) ユーティリティ 175  
Kerberos バージョン 4 クライアント 175  
adb(1) マップ修飾子とウォッチポイント構文 175  
OpenWindows ツールキット (開発者向き) 176  
OpenWindows 環境 (一般ユーザー向き) 176  
フェデレーテッドネーミングサービス (FNS) / XFN のライブラリとコマンド 176  
Solaris ipcs(1) コマンド 176  
sendmail -AutoRebuildAliases 177  
devconfig 177  
デバイスのサポートとドライバソフトウェア 177  
Intel 486 システム 178  
[日本語環境のみ] japanese ロケール 178  
[日本語環境のみ] libjapanese.a 178  
[日本語環境のみ] 日本語入力システム ATOK8 179  
[日本語環境のみ] 日本語入力システム cs00 179

**7. マニュアルに関する情報 181**

マニュアルの訂正・補足と注意事項 182

『Solaris 8 のソフトウェア開発 (追補)』の「ネットワークデバイス用のドライバ」 (バグ ID: 4398700) 182

英語以外の言語用の新機能リスト (バグ ID: 4389948) 182

『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』の関連マニュアルの名前 182

『CDE User's Guide』(AnswerBook2) (バグ ID: 4356456) 183

AnswerBook2 Help Collection 183

マニュアルページ usbprn (7D) (バグ ID: 4347481) 183

『Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)』『man pages section 7: Device and Network Interfaces』の adp (7D) と cadp (7D) 『Solaris 8 オペレーティング環境の概要』 183

『Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)』 184

『Solaris 8 のインストール (上級編)』(バグ ID: 4327931) 185

[日本語環境のみ] 『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』 185

[日本語環境のみ] 『日本語入力システムの概要とセットアップ』(バグ ID: 4363792) 186

[日本語環境のみ] 『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』(バグ ID: 4362189) 186

[日本語環境のみ] セクション 3x の日本語マニュアルページが表示されない (バグ ID: 4274297) 186

[日本語環境のみ] contrast の日本語マニュアルページが提供されている (バグ ID: 4314213) 188

[日本語環境のみ] dtpower の日本語マニュアルページが表示されない (バグ ID: 4318868) 189

smdiskless のマニュアルページ (バグ ID: 4384483) 189

## 8. CERT 勧告 195

### A. パッチリスト (Intel 版) 201

パッチリスト 201



## はじめに

---

本書『Solaris™ 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』は、Solaris 8 1/01 をご使用になるにあたって最初に読んでいただくマニュアルです。Solaris 8 1/01 オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報や、既知の問題点について説明します。

---

注 - 本書では、「IA」という用語は、Intel 32 ビットのプロセッサアーキテクチャを意味します。これには、Pentium、Pentium Pro、Pentium II、Pentium II Xeon、Celeron、Pentium III、Pentium III Xeon の各プロセッサ、および AMD、Cyrix が提供する互換マイクロプロセッサチップが含まれます。

---

---

## 対象読者

本書は、Solaris に関する知識を持つ方、現在習得中の方を対象に、Solaris 8 1/01 ソフトウェアをインストールして使用するために必要な情報を提供します。

---

## 内容の紹介

本書は、Solaris 8 1/01 オペレーティング環境ソフトウェアに関する以下の情報を提供します。

第 1 章では、Solaris 8 1/01 製品に含まれている CD、マニュアル、カードなどについて説明しています。

第 2 章では、Solaris 8 1/01 をインストールするために必要なメモリーやディスクの容量、日本語環境のインストールについての概要を説明しています。この章の内容を理解してから、インストールを開始してください。

第 3 章では、インストールに関する注意事項とバグについて説明しています。この章の内容を理解してからインストールを開始してください。

第 4 章では、Solaris 8 1/01 実行時の注意事項とバグについて説明しています。

第 5 章では、Solaris 8 1/01 の機能について、該当マニュアルに記載できなかった情報について説明しています。

第 6 章では、サポートを終了するソフトウェア機能またはハードウェアについて説明しています。

第 7 章では、Solaris 8 1/01 のマニュアル中の記述に関する、補足事項や訂正事項を説明しています。

第 8 章では、CERT 勧告のリストを記載しています。

付録 A では、Solaris 8 1/01 に適用されたパッチとその修正内容のリストを記載しています。

Solaris のほかに付属のソフトウェアをインストールする場合は、付属ソフトウェアに含まれている最新リリース情報を参照して、そのソフトウェアに関する注意事項とバグ情報を確認してください。

---

## 関連マニュアル

Solaris をインストールする際は、本書の内容を理解した上で、次のマニュアルをご利用ください。

- 『Solaris 8 インストールの手引き』
- 『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』
- 『Solaris 8 のインストール (上級編)』
- 『Solaris 8 のインストール (追補)』
- 『Solaris 8 1/01 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』
- 『Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)』

- 以下の各『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』
  - Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) の「Solaris 8 1/01 Release Documents Collection - Japanese」に含まれているもの
  - 印刷マニュアル (インストールに関するバグと注意事項のみが記載されている)
  - <http://docs.sun.com> に掲載されている「Solaris 8 1/01 Update Collection - Japanese」に含まれているもの (上記 2 冊の情報 + 最新情報が記載されている)
- 『Solaris 8 のシステム管理 (追補)』

Solaris のマニュアルは、このリリースに含まれている Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD で提供されています。

ハードウェア構成によっては、インストール時に別途作業が必要になることがあります。その場合は、各ハードウェアのメーカーから提供されるインストール手順の補足資料を参照してください。

---

## Solaris ハードウェア検証プログラム

Solaris ハードウェア検証プログラムに関する情報は、<http://soldc.sun.com/support/certify/> をご覧ください。Solaris の次期リリースまでにハードウェア互換リストが変更されることがあります。最新のハードウェア互換リストは、上記の Web サイトに提供されます。

---

## Sun のマニュアルの注文方法

専門書を扱うインターネットの書店 [Fatbrain.com](http://Fatbrain.com) から、米国 Sun Microsystems™, Inc. (以降、Sun™ とします) のマニュアルをご注文いただけます。

マニュアルのリストと注文方法については、<http://www1.fatbrain.com/documentation/sun> の Sun Documentation Center をご覧ください。

## Sun のオンラインマニュアル

<http://docs.sun.com> では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<code>AaBbCc123</code>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。



表 P-1 表記上の規則 続く

字体または記号	意味	例
[ ]	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

ただし AnswerBook2™ では、ユーザーが入力する文字と画面上のコンピュータ出力は区別して表示されません。

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は2つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

## Solaris 8 1/01 の製品構成

---

この章では、Solaris 8 1/01 に含まれている CD および印刷マニュアルについて説明します。

---

### 製品の種類と出荷形態

Solaris 8 1/01 は、英語版製品と、「Multilingual」と呼ばれる複数言語 (英語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語) 版製品の 2 種類で提供されます。日本語が含まれている本製品は「Multilingual」製品です。

---

### Solaris 8 1/01 の構成

Solaris 8 1/01 の構成について、概要を説明します。

## Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD (Intel 版)



この CD には、Solaris Web Start 3.0 インストールプログラムが含まれています。  
Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris ソフトウェアおよび同梱の CD に含まれる  
その他のソフトウェアをインストールする場合に使用します。

## Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 8 1/01 オペレーティング環境 (「コアシステムサポート」と「エンドユーザーシステムサポート」のソフトウェアグループ)
- 従来のインストールプログラム

## Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD (Intel 版)



この CD には、主に次のソフトウェアが含まれています。

- Solaris 8 1/01 オペレーティング環境 (「開発者システムサポート」、「全体ディストリビューション」、「全体ディストリビューションと OEM サポート」のソフトウェアグループ)
- アーリーアクセス・ソフトウェア (DiskSuite 4.2.1、Live Upgrade 1.0、Appcert 2.1、SunScreen 3.1 Lite)

DiskSuite 4.2.1 のユーザーインターフェースは日本語 (ja ロケール) に対応していますが、その他のソフトウェアのユーザーインターフェースは英語のみです。

## Solaris 8 1/01 LANGUAGES CD (Intel 版)



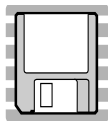
この CD には、Solaris オペレーティング環境で英語以外の言語を使用する際に必要なソフトウェアが含まれています。

---

注 - Solaris 8 1/01 でサポートされているすべてのロケールの基本機能 (言語の入力、出力、印刷、データ処理) をサポートするソフトウェア (部分ロケールと呼ぶ) は、SOFTWARE CD に含まれています。LANGUAGES CD には、各言語用のユーザーインターフェースの翻訳および追加ソフトウェアが含まれています。

---

## Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスク



このフロッピーディスクは、IA システム (Pentium プロセッサなどを搭載したシステム) のブートに使用します。

## **Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (英語 + ヨーロッパ言語版)**



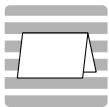
この CD には、AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと、英語およびヨーロッパ言語のオンライン文書コレクションが含まれています。

## **Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版)**



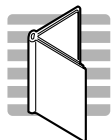
この CD には、AnswerBook2 文書サーバーソフトウェアと、日本語およびその他のアジア言語のオンライン文書コレクションが含まれています。

## **Solaris 8 メディア一覧 (Contents of Solaris 8 Media)**



Solaris 8 1/01 の内容について各国語で記述されているカードです。メディアフォルダのポケットに入っています。

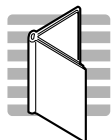
## **Solaris 8 インストールの手引き (Solaris 8 Start Here)**



インストールを始めるにあたって参照するマニュアルです。従来の対話式インストールを行うか、または Solaris Web Start インストールを行うかを選択し、それぞれを使用してインストールを行う手順が説明してあります。また、マニュアルの注文方法や Web ブラウザでの参照方法についても説明しています。

インストールに際しては、本書の第 2 章および第 3 章も必ずお読みください。

## **Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版) (Solaris 8 (Intel Platform Edition) 1/01 Installation Release Notes)**



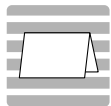
インストールに関する特に重要なバグ情報や注意事項が記載されています。5 種類の言語 (英語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語、日本語) で提供されています。

## Binary Code License (ソフトウェア使用許諾契約書)



ソフトウェア使用の許諾について記述されています。

## Binary Code License (Terms & Conditions)



上記の「ソフトウェア使用許諾契約書」に対する補足条項が含まれています。



## 日本語環境のインストール

この章では、Solaris 8 1/01 をインストールするために必要なメモリーおよびディスクの容量、日本語環境のインストールについて説明します。

以下に、Solaris 8 1/01 で提供されるインストール方法を簡単に説明します。

インストール方法	説明
対話式インストール JumpStart™ カスタム JumpStart	Solaris オペレーティング環境をインストールする (Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれている)
Solaris Web Start 3.0	Solaris オペレーティング環境およびそれ以外のソフトウェアを一度にインストールする (Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれている)
Solaris Web Start 2.1.0	Solaris オペレーティング環境がインストールされているシステムに、ソフトウェアを追加インストールする (各ソフトウェア CD に含まれている <code>installer(1M)</code> )

## カスタマサポートへの連絡

サポートに関連する問題については、ご購入先にお問い合わせください。また、Sun に関する情報については、以下の Web ページをご覧ください。

- <http://access1.sun.com>

- <http://www.sun.com>
- <http://www.sun.co.jp> (サン・マイクロシステムズ株式会社)

---

## 必要なメモリー

Solaris CDE や OpenWindows™ などの日本語デスクトップ環境を使用する場合には、最低 64M バイト以上の物理メモリーを確保することをお勧めします。

また、Solaris Web Start 3.0 によるインストールを行うには、64M バイト以上の物理メモリーが必要です。

---

## 必要なスワップ領域

日本語デスクトップ環境を使用する場合には、実メモリーとスワップ領域の合計が少なくとも 256M バイトになるように、スワップ領域を確保することをお勧めします。

Solaris Web Start 3.0 によるインストールでは、インストールプログラムを起動後、Solaris Installer が使用するスワップスライスとサイズを指定する必要があります。ここで指定したスワップは、ファイルシステムの配置でスワップに設定され、変更することはできません。つまり、インストール後のシステムのスワップとして使用されます。

Solaris Web Start 3.0 のデフォルトのスワップサイズは、512M バイトです。最小スワップサイズは、デフォルトよりも小さい値ですが、システムによって異なります。デフォルトのスワップサイズを確保することを推奨します。

---

注 - 将来、Solaris 8 のシステムを Solaris Web Start を使用してアップグレードする可能性がある場合は、ファイルシステムの配置においてスワップサイズを 512M バイト (Solaris Web Start のデフォルトのスワップサイズ) 以上確保することをお勧めします。Solaris Web Start 3.0 によるアップグレードが可能なシステムの要件については、47ページの「Solaris 8 1/01 へのアップグレード」を参照してください。

---

---

## 必要なディスク容量

Solaris 8 1/01 の日本語環境と DOCUMENTATION CD をインストールする場合に必要なディスク容量について説明します。

日本語環境と DOCUMENTATION CD をシステムにインストールするには、インストールするソフトウェアとディスクの構成に応じてファイルシステムを構築する必要があります。

Solaris Web Start 3.0 (Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれている) を使うと、Solaris オペレーティング環境および同梱のその他のソフトウェアをインストールするためのファイルシステムが自動的に配置され、これらのソフトウェアを一度に容易にインストールすることができます。

一方、対話式インストール<sup>1</sup>は、Solaris オペレーティング環境だけをインストールするように設計されているので、同梱のその他のソフトウェア容量も考慮したファイルシステムの自動配置を行うことはできません。

同梱のソフトウェアもインストールする場合は、それらのソフトウェア容量を考慮して、手作業でファイルシステムを構成する必要があります。そして、Solaris オペレーティング環境のインストール終了後に、同梱の各ソフトウェア CD に含まれている Solaris Web Start 2.1.0 (installer)、または各ソフトウェアのインストール手順に従って、同梱のソフトウェアをインストールしてください。

## Solaris 8 1/01 CD のソフトウェア容量

次の表に、Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD、Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD、Solaris 8 1/01 LANGUAGES CD に含まれる日本語ロケール

(ja、ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8) のパッケージをインストールするために必要なディスク容量を示します。Solaris 8 より、ファイルシステムの自動配置でデフォルトとして選択される領域は、ルート (/) とスワップ (swap) だけになりました。記載されている値は、このデフォルトのファイルシステムでインストールする場合にルートファイルシステムに必要な推奨値 (括弧内は最小値) で、スワップ領域に必要な容量は含まれていません。インストールする日本語ロケールが 1 つの場合には、この表の値よりもおよそ 30M バイトほど少ない容量で済みます。

---

1. システムが Solaris Web Start 3.0 を実行するための要件を満たしていない場合や、細かいインストール設定を行いたい場合などは、対話式インストールを行ってください。

なお、対話式インストールで「ソフトウェアの選択」画面に実際に表示される各ソフトウェアグループの値は、スワップ領域を含んだ値です。この値は、インストールするシステムのディスクやメモリーのサイズによって異なります。

表 2-1 Solaris 8 1/01 (Intel 版) のソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ソフトウェアグループ	ルート (/) ファイルシステム ja、PCK、UTF-8 全部
全体ディストリビューションと OEM サポート	1075 (910)
全体ディストリビューション	1075 (910)
開発者システムサポート	1036 (879)
エンドユーザーシステムサポート	706 (605)

## Solaris DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量

次の表に、アジア言語版の DOCUMENTATION CD に含まれている、日本語 AnswerBook2 パッケージとその容量を示します (その他のアジア言語のパッケージは省略)。これらのパッケージは、デフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-2 Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量 (日本語版)  
(単位: M バイト)

パッケージ	AnswerBook 名	必要な容量の概算値
SUNWamaja	Solaris 8 Reference Manual Collection - Japanese	17
SUNWjaadm	Solaris 8 System Administrator Collection - Japanese	19
SUNWjabe	Solaris 8 User Collection - Japanese	17
SUNWjabsd	Solaris 8 Software Developer Collection - Japanese	10
SUNWjdad	Solaris Common Desktop Environment Developer Collection - Japanese	7
SUNWjinab	Solaris 8 Installation Collection - Japanese	8

表 2-2 Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量 (日本語版) (単位 : M バイト) 続く

パッケージ	AnswerBook 名	必要な容量の概算値
SUNWjopen	OpenBoot Collection - Japanese	3
SUNWjorn	Solaris 8 1/01 Release Documents Collection - Japanese	2
SUNWjsup3	Solaris 8 1/01 Update Collection - Japanese	2

注 - 日本語版には、Solaris 8 1/01 英語版に含まれるマニュアルの翻訳版と併せて、日本語固有のマニュアルが含まれています。

次の表に、英語 + ヨーロッパ言語版の DOCUMENTATION CD に含まれている、英語 AnswerBook2 パッケージとその容量を示します (ヨーロッパ言語のパッケージは省略)。これらのパッケージは、デフォルトで /opt にインストールされます。

表 2-3 Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD のソフトウェア容量 (英語版) (単位 : M バイト)

パッケージ	AnswerBook 名	必要な容量の概算値
[英語]		
SUNWadm	Solaris 8 System Administration Collection	18
SUNWabe	Solaris 8 User Collection	15
SUNWabsdk *	Solaris 8 Software Developer Collection	14
SUNWakcs *	KCMS AnswerBook	2
SUNWaman *	Solaris 8 Reference Manual Collection	82
SUNWdtad	Solaris Common Desktop Environment Developer Collection	8
SUNWinab	Solaris 8 Installation Collection	7
SUNWolrn	Solaris 8 1/01 Release Documents Collection	1
SUNWopen *	OpenBoot Collection	4
SUNWsup3	Solaris 8 1/01 Update Collection	2

\* 印が付いているパッケージは、日本語に翻訳されていないマニュアルが含まれています。それらのマニュアルをインストールする場合には、英語 + ヨーロッパ言語版の DOCUMENTATION CD からインストールしてください。

次の表に、AnswerBook2 文書サーバー (以降「文書サーバー」とします) を構成するパッケージ SUNWab2r、SUNWab2s、SUNWab2u をインストールするのに必要な容量を示します。文書サーバーについての詳細は、Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) に含まれる README\_ja.html を参照してください。

表 2-4 文書サーバーのソフトウェア容量 (単位: M バイト)

ディレクトリ	必要な容量の概算値
/	0.3
/usr	33

## 日本語環境の選択

Solaris 8 1/01 のインストール中に行うことができる、日本語環境の選択について説明します。日本語環境の選択では、「デフォルトロケール」と「インストールするロケール」の 2 つを選択します。インストール手順の詳細は、41 ページの「Solaris 8 1/01 ソフトウェアのインストール」を参照してください。

Solaris 8 1/01 は、次に示すように 3 種類の文字エンコーディングに対応した 4 つの日本語ロケールをサポートしています。

- EUC をサポートする ja および ja\_JP.eucJP ロケール
- PCK (PC 漢字コード) をサポートする ja\_JP.PCK ロケール (シフト JIS と同等)
- Unicode の UTF-8 をサポートする ja\_JP.UTF-8 ロケール

## デフォルトロケールの選択

インストール後のシステムのデフォルトロケールを選択します (具体的には、`/etc/default/init` ファイル内に LANG 環境変数が定義されます)。

日本語環境をインストールする場合に、システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールを選択しなければならないわけではありませんが、日本語ロケールを選

択することを推奨します。システムのデフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていると、たとえば、システムログイン時の LANG の設定を、ユーザーごとに環境設定ファイルで定義しなくても済むようになります。また、dtlogin の言語設定で、デフォルトで日本語ロケールが設定されます。

#### ■ GUI (グラフィカル・ユーザーインターフェース) インストールの場合

日本語環境でインストールするには、最初に言語を選択するプロンプトが表示されるので、「Japanese」を選択します。次に、日本語ロケール「Japanese EUC (ja)」、「Japanese PC Kanji (ja\_JP.PCK)」、「Japanese UTF-8 (ja\_JP.UTF-8)」のいずれかを選択してください。どれを選択するかわからない場合は、「Japanese EUC (ja)」を選択してください。ここで選択したロケールが、システムのデフォルトロケールになります。

ここでの設定は、以後起動されるインストール画面の表示言語も決定します。

#### ■ CUI (キャラクタ・ユーザーインターフェース) インストールの場合

GUI インストールの場合と同様に、言語とロケールを選択するプロンプトが表示されます。ここで選択したロケールが、システムのデフォルトロケールになります。インストール画面は英語による表示だけです。<sup>2</sup>

システムのデフォルトロケールを、インストール後に設定または変更する場合には、`/etc/default/init` ファイルでの LANG 環境変数の設定を次のようにしてから、システムを再起動します。

---

ja ロケールに設定	LANG=ja
ja_JP.PCK ロケールに設定	LANG=ja_JP.PCK
ja_JP.UTF-8 ロケールに設定	LANG=ja_JP.UTF-8
c ロケールに設定	LANG= の行を削除、または LANG=C

---

インストール前に、このデフォルトロケールをあらかじめ設定しておくことも可能です。この事前設定をしておくと、GUI インストール時にもロケール設定画面が表示されません。この設定は、カスタム JumpStart による自動インストールの場合など、意図的にロケール設定画面を表示させたくない場合に有効です。<sup>3</sup>

#### ■ Solaris Web Start 3.0 インストールの場合

---

2. グラフィカルモニターを装備していないシステムの場合は、自動的に CUI インストールが起動します。また、「Bypass Configuration」を選択して明示的に周辺デバイスの設定を省略した場合にも、CUI インストールになります。

3. デフォルトロケールの事前設定を行う方法には、「ネームサービスに事前に定義しておく方法」と「sysidcfg ファイルを使用する方法」の 2 通りがあります。詳しくは、『Solaris 8 のインストール (上級編)』を参照してください。

最初にインストール画面の表示言語を選択するプロンプトが表示されるので、日本語環境でインストールするには、「Japanese」を選択してください。システムのデフォルトロケールは、「システムのロケール選択」画面で設定します。

## インストールするロケールの選択

インストールしたいロケールを選択すると、ロケールに依存するソフトウェアパッケージがインストールされます。日本語環境をインストールするには、必ず日本語パッケージ (JFP) をインストールする必要があります。

Solaris 8 では、ja ロケール環境、ja\_JP.PCK ロケール環境、ja\_JP.UTF-8 ロケール環境、そしてそれらの任意の混在環境をインストールすることが可能です。

### ■ 対話式インストールの場合

「地域の選択」画面で、インストールする日本語ロケールを「アジア」地域から選択します。この画面では、あらかじめ選択したシステムのデフォルトロケールが自動的に選択された状態になっています。

たとえば、ja と ja\_JP.PCK の両ロケール環境をインストールするには、ja と ja\_JP.PCK の両方を選択します。

### ■ Solaris Web Start 3.0 インストールの場合

「ソフトウェアのロケール選択」画面で、インストールする日本語ロケールを選択します。ここで選択したロケールのパッケージが、Solaris ソフトウェアおよびインストールする同梱ソフトウェアの各々からインストールされます。この画面では、インストール画面の表示言語で「Japanese」を選択した場合、「Japanese EUC (ja)」が自動的に選択された状態になっています。たとえば、ja\_JP.UTF-8 ロケール環境のみをインストールするには、選択されている「Japanese EUC (ja)」を選択解除して、「Japanese UTF-8 (ja\_JP.UTF-8)」を選択します。

### ■ カスタム JumpStart インストールの場合

カスタム JumpStart インストールが参照するプロファイルに locale キーワードを追加します。<sup>4</sup>

次に、ja と ja\_JP.PCK の両ロケール環境をインストールする場合のプロファイルの例を示します。

---

4. locale キーワードは、JFP パッケージのインストールに影響しますが、システムのデフォルトロケールを決定するものではありません。



キーワード	値
install_type	initial_install
system_type	standalone
partitioning	default
cluster	SUNWCuser
locale	ja
locale	ja_JP.PCK

なお、このようにプロファイル中で locale キーワードを明示的に定義しない場合でも、デフォルトロケールとして日本語ロケールが設定されていれば、そのロケール環境が自動的にインストールされます。ただし、複数の日本語ロケール環境をインストールする場合は、プロファイルで指定する必要があります。

## Solaris 8 1/01 ソフトウェアのインストール

Solaris 8 1/01 の日本語環境をインストールする方法とインストールサーバーを作成する方法について、概要を簡単に説明します。

インストールに関する詳細は、「Solaris 8 Installation Collection」および「Solaris 8 1/01 Update Collection」にあるマニュアルを参照してください。

Solaris 8 でサポートされているハードウェアについては、『Solaris 8 1/01 ハードウェア互換リスト』を参照してください。

Solaris 8 1/01 のインストールを始める前に、必ずシステムのバックアップをとってください。ファイルシステムのバックアップについての詳細は、『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』を参照してください。

### 日本語環境のインストール

Solaris 8 1/01 ソフトウェアをインストールするには、次のいずれかを使用します。

- 対話式インストール
- JumpStart、カスタム JumpStart
- Solaris Web Start 3.0

Solaris 8 1/01 でサポートされている日本語環境のインストールは、次の表のとおりです。

	CD を使用		インストールサーバーを使用 <sup>1</sup>	
	初期	アップグレード	初期	アップグレード
対話式インストール	○	○	○	○
カスタム JumpStart	○ <sup>2</sup>	○ <sup>3</sup>	○	○
Solaris Web Start 3.0	○	○ <sup>3,4</sup>	○	○ <sup>3,4</sup>

1. サーバーを構築する方法については、49ページの「インストールサーバーの作成方法」を参照してください。
2. 45ページの「カスタム JumpStart」を参照してください。
3. 47ページの「Solaris 8 1/01 へのアップグレード」を参照してください。
4. Solaris 8 からのアップグレードのみがサポートされています。

次に、それぞれのインストールについて説明します。以降の説明では、便宜上「Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD」を「OS1 CD」、「Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD」を「OS2 CD」、「Solaris 8 1/01 LANGUAGES CD」を「LANG CD」と表記します。

## 対話式インストール

CD を使用してインストールする方法を説明します。

1. **OS1 CD** からブートします。
2. 次のような画面が表示されるので、「4」を入力します。

```

Select a Language
0. English
1. French
2. German
3. Italian
4. Japanese
5. Korean
6. Simplified Chinese

```

(続く)

```
7. Spanish
8. Swedish
9. Traditional Chinese

Please make a choice (0 - 9), or press h or ? for help:
```

3. 日本語ロケールの選択画面が表示されるので、ロケールを選択します。

```
Select a Locale
0. Japanese EUC (ja)
1. Japanese PC Kanji (ja_JP.PCK)
2. Japanese UTF-8 (ja_JP.UTF-8)
3. Go Back to Previous Screen

Please make a choice (0 - 3), or press h or ? for help:
```

GUI インストールの場合：ここで選択したロケールがシステムのデフォルトロケールになります。対話式インストール画面の表示言語は日本語になります。

CUI インストールの場合：ここで選択したロケールがシステムのデフォルトロケールになります。インストール画面の表示言語は英語になります。

4. インストール画面に従って設定を行います。

5. 「地域の選択」画面で、インストールしたい日本語ロケールを「アジア」地域から選択します。

ファイルシステムの自動配置画面では、ここで選択したロケールのパッケージがインストールできるようにディスク容量が割り当てられます。

---

注 - 将来、Solaris 8 1/01 のシステムを Solaris Web Start を使用してアップグレードする可能性がある場合は、ファイルシステムの配置においてスワップサイズを 512M バイト (Solaris Web Start のデフォルトのスワップサイズ) 以上確保することをお勧めします。

---

6. インストール画面に従って設定を行います。

7. 「プロファイル」画面で「インストール開始」を選択後、「自動リブート」または「手動リブート」のいずれかを選択し、**OS1 CD** のインストールを開始します。
8. **OS1 CD** のインストールが完了すると、前述の手順で「自動リブート」を選択した場合は、システムが自動的にリブートします。「手動リブート」を選択した場合は、手動でシステムをリブートします。

---

注 - CD による対話式インストールでは、OS1 CD のインストールが完了した時点でシステムをリブートする必要があります。システムをリブートすると、次の CD のインストールが起動します。

---

9. システムがリブートすると、**CDE** が自動的に起動し、インストール画面が表示されます。メッセージに従って **OS2 CD** を挿入し、インストールを続けます。

---

注 - OS2 CD の挿入は、「開発者システムサポート」以上のソフトウェアグループを選択した場合のみ要求されます。

---

---

注 - 「コアシステムサポート」ソフトウェアグループを選択した場合は、LANG CD の挿入は要求されません。詳細は、67ページの「[日本語環境のみ] CD による対話式インストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項」を参照してください。

---

10. **OS2 CD** のインストールが終了すると、**LANG CD** を挿入するように要求するメッセージが表示されます。ここで、**LANG CD** を挿入します。

11. **LANG CD** のインストールが終了したら、以下のログファイルを確認します。

```
/var/sadm/system/logs/install_log  
/var/sadm/system/logs/begin.log  
/var/sadm/system/logs/finish.log  
/var/sadm/install/logs/Solaris_8_Localization_CD_install.A*  
/var/sadm/install/logs/Solaris_8_Japanese_Localization_CD_install.B*  
/var/sadm/install/logs/Solaris_8_Software_2_install.A*  
/var/sadm/install/logs/Solaris_8_Software_2_install.B*
```

12. システムをリブートします。

## カスタム JumpStart

カスタム JumpStart で日本語ロケールのパッケージをインストールするには、インストールサーバーを使用してインストールを行なってください。インストールサーバーの作成については、49ページの「インストールサーバーの作成方法」を参照してください。

プロファイルには、日本語ロケールのパッケージをインストールできるファイルシステムを指定する必要があります。ディスク容量についての詳細は、35ページの「必要なディスク容量」を参照してください。カスタム JumpStart についての詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』を参照してください。

CD を使用する場合、JumpStart は OS1 CD のみのインストールを行います。OS2 CD、LANG CD のインストールは行いません。JumpStart で OS1 CD のインストールを行なった後に、Solaris Web Start 2.1.0 を使用して OS2 CD、LANG CD をインストールすることは可能です。詳細は、69ページの「カスタム JumpStart は Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD と LANGUAGES CD をインストールしない (バグ ID: 4304912)」を参照してください。

---

注 - 将来、Solaris 8 1/01 のシステムを Solaris Web Start を使用してアップグレードする可能性がある場合は、ファイルシステムの配置においてスワップサイズを 512M バイト (Solaris Web Start のデフォルトのスワップサイズ) 以上確保することをお勧めします。

---

## Solaris Web Start 3.0

ここでは、一般的なシステムに日本語環境をインストールする手順を説明します。

Solaris Web Start 3.0 についての詳細は、『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』を参照してください。

1. **INSTALLATION (Multilingual) CD** からブートします。
2. 次のような画面が表示されたら、言語を選択します。ここで選択した言語が、インストール画面の表示言語に設定されます。インストール画面の表示言語を日本語にするには、「6」を入力します。

The Solaris Installer can be run in English,  
or any of the following languages:

(続く)

```
1) English      6) Japanese
2) German       7) Korean
3) Spanish      8) Swedish
4) French       9) Simplified_Chinese
5) Italian      10) Traditional_Chinese

Select the language you want to use to run the installer:
```

3. メッセージに従って、ルートディスクを選択します。
4. スワップを設定します。スワップのサイズは、デフォルトサイズ (512M バイト) を指定することを推奨します。ここで選択したスワップは、ファイルシステムの配置でスワップに設定され、変更することはできません。
5. 設定が完了すると、ミニルートがローカルディスクにコピーされ、コピーが完了すると、システムが自動的にリブートします。
6. 「ようこそ」画面が表示されたら「次へ」をクリックし、インストール画面に従って設定を続けます。
7. 「ソフトウェアのロケール選択」画面で、インストールしたい日本語ロケールを選択します。ここで選択したロケールのパッケージが、**Solaris** ソフトウェアおよびインストールする同梱ソフトウェアの各々からインストールされます。
8. 「システムのロケール選択」画面で、システムのデフォルトロケールを選択します。
9. 「製品の選択」画面で、インストールしたい製品を選択します。
10. 「追加製品の指定」画面で、追加したい製品があればその製品を指定します。
11. インストール画面に従って設定を続け、インストールを開始します。
12. メッセージに従って **CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入し、インストールを続けます。

13. すべてのインストールが終了したら、メッセージに従ってシステムをリブートします。

14. 以下のログファイルを確認します。

```
/var/sadm/system/logs/install_log  
/var/sadm/system/logs/disk0_install.log  
/var/sadm/system/logs/cd0_install.log  
/var/sadm/system/logs/webstart_launch.log*
```

同梱の CD をインストールした場合は、/var/sadm/install/logs の配下のログファイルも確認します。たとえば、次のようなログファイルがあります。

```
Solaris_8_Software_2_install.A*  
Solaris_8_Software_2_install.B*  
Solaris_8_Languages_CD_install.A*  
Solaris_8_Japanese_Localization_install.B*  
Additional_Software_install.B*  
Solaris_AnswerBook2_Server_install.B*  
Solaris_8_Documentation_Asian_install.A*  
Solaris_8_Collections_-_Japanese_install.B*
```

## Solaris Web Start 3.0 CLI インストール

tip(1) 接続によって INSTALLATION (Multilingual) CD からブートすると、コマンド行インタフェースの Solaris Web Start 3.0 インストールが起動します。

IA システムで標準入出力先を変更するには、Device Configuration Assistant を使用してください。「Identified Devices」画面で「Device Tasks」(F4 キー)を選択すると、「Device Tasks」画面が表示されます。「Set Console Device」を選択し、希望するデバイスを指定してください。

## Solaris 8 1/01 へのアップグレード

Solaris 8 1/01 へのアップグレードインストールは、Solaris 2.5.1 以降のシステムからのアップグレードをサポートします。

アップグレードを開始する前に、70ページの「アップグレードに関する注意事項とバグ情報」を参照して、アップグレードに関する注意事項を確認してください。

## CD を使用した対話式によるアップグレード

OS1 CD からブートし、従来のアップグレードと同様の設定を行ってから、アップグレードを開始します。OS1 CD のアップグレードが終了すると、システムがリブートします。CD を挿入するように促すメッセージが表示されるので、メッセージに従って CD を挿入し、アップグレードを行なってください。

## カスタム JumpStart によるアップグレード

カスタム JumpStart によるアップグレードを行う場合は、前述の 45 ページの「カスタム JumpStart」と同様に、インストールサーバーを使用してインストールを行なってください。

CD を使用して JumpStart でアップグレードを行う場合、インストールされるのは OS1 CD のみです。OS2 CD、LANG CD はインストールされません。このため、OS1 CD からの JumpStart アップグレードを行なった場合は、Solaris Web Start 2.1.0 を使用して、OS2 CD と LANG CD をインストールする必要があります。詳細は、69 ページの「カスタム JumpStart は Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD と LANGUAGES CD をインストールしない (バグ ID: 4304912)」を参照してください。

## Solaris Web Start 3.0 によるアップグレード

Solaris Web Start 3.0 は、システムが次の要件を満たしている場合に、アップグレード可能なシステムと認識します。要件を満たしているシステムでは、Solaris Web Start 3.0 は「アップグレード」オプションを表示します。システムがこれらの要件に適合しない場合は、対話式インストールでアップグレードを行なってください。

システムの要件:

アップグレードするシステムが、Solaris 8 以降のシステムで、Solaris Web Start 3.0 が必要とする最小スワップサイズ以上のスワップスライスまたは未使用のスライスを持っている。最小スワップサイズはシステムによって異なるが、多くのシステムで 414M バイト。

Solaris 8 より前のリリースの IA システムは、Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris 8 1/01 にアップグレードすることはできません。これは、Solaris Web Start 3.0 が、Solaris 8 より前のリリースとは異なる方法で Solaris ソフトウェアをインストールするためです。10M バイトの IA BOOT パーティションが別に必要となります。したがって、Solaris 8 より前のリリースの IA システムを Solaris 8 1/01 にアップグレードする場合は、対話式インストールを使用する必要があります。



IA システムのアップグレードについての詳細は、『Solaris 8 インストールガイド (Intel 版)』を参照してください。

## インストールサーバーの作成方法

対話式インストールおよびカスタム JumpStart インストールと、Solaris Web Start 3.0 とでは、ブートソフトウェアが異なります。ここでは、ブートソフトウェア以外のソフトウェアを共有し、1つのインストールサーバーでこれらのインストールが行えるインストールサーバーを作成する方法を説明します。

はじめに、対話式用およびカスタム JumpStart 用のインストールサーバーを作成します。

1. インストールサーバーにするシステムにログインします。
2. **OS1 CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入し、`Tools` ディレクトリに移動します。

```
# cd Solaris_8/Tools
```

3. `setup_install_server` コマンドを使用して、**OS1 CD** のソフトウェアをディスクにコピーします。

```
# ./setup_install_server /install_server/s8
```

4. **OS1 CD** のコピーが終了したら、**CD-ROM** ドライブから **OS1 CD** を取り出し、**OS2 CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入します。**OS2 CD** の `Tools` ディレクトリにある `add_to_install_server` コマンドを使用して、**OS2 CD** のソフトウェアを49ページの手順3で作成した **OS1 CD** のソフトウェアに追加します。

```
# ./add_to_install_server /install_server/s8
```

5. **OS2 CD** のコピーが終了したら、**CD-ROM** ドライブから **OS2 CD** を取り出し、**LANG CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入します。**LANG CD** の `Tools` ディレクトリにある `add_to_install_server` コマンドを使用して、**LANG CD** のソフトウェアを49ページの手順4で作成した **OS2 CD** のソフトウェアに追加します。日本語ロケールのソフトウェアのみを追加する場合は、次のように `-s` オプションを指定して `add_to_install_server` を起動し、`Japanese` と `shared` を選択

してください。複数を選択する場合は、「5,10」のようにカンマ(,)で区切って指定します。-s オプションを指定しないで起動すると、すべてのロケールのソフトウェアが追加されてしまうため、注意が必要です。

```
# ./add_to_install_server -s /install_server/s8
Enter the number of the product(s) you want to add
to /install_server/s8/Solaris_8/Product or 'all' for all products.
The following are valid products:
  1 Simplified_Chinese
  2 French
  3 German
  4 Italian
  5 Japanese
  6 Korean
  7 Spanish
  8 Swedish
  9 Traditional_Chinese
 10 shared
```

次に、Solaris Web Start 3.0 用インストールサーバーを作成するために、対話式およびカスタム JumpStart 用インストールサーバーに Solaris Web Start 3.0 のブートソフトウェアを追加します。

#### 1. Intel 版の INSTALLATION (Multilingual) CD を Intel Solaris マシンの CD-ROM ドライブに挿入します。

INSTALLATION (Multilingual) CD の modify\_install\_server コマンドを使用して、前述の手順で作成したインストールサーバーに Solaris Web Start 3.0 のブートソフトウェアを追加します。追加するときには、必ず -p オプションを指定してください。-p オプションを指定しないと、対話式用およびカスタム JumpStart 用のブートソフトウェアが削除されます。

```
# cd /cdrom/multi_icd_sol_8_u3_ia/s2
# ./modify_install_server -p /install_server/s8 /cdrom/cdrom0/s0
```

---

注 - Intel 版の INSTALLATION (Multilingual) CD を SPARC Solaris マシンの CD-ROM に挿入すると、CD に含まれているブートソフトウェア ( /cdrom/cdrom0/s0 ) をファイル・マネージャや `ls(1)` コマンド等で表示できません。

---

これで、インストールサーバーの作成が完了しました。インストールサーバーには、`Boot` と `Boot.orig` というディレクトリが存在しています。

`Solaris_8/Tools/Boot.orig` 対話式、カスタム JumpStart 用

`Solaris_8/Tools/Boot` Solaris Web Start 3.0 用

インストールを行う前に `add_install_client` コマンドを使用してインストールするシステムを設定する際に、`-t` オプションでブートソフトウェアの場所を指定します。

対話式、カスタム JumpStart の場合：

```
# cd /install_server/s8/Solaris_8/Tools
# ./add_install_client -t /install_server/s8/Solaris_8/Tools/Boot.orig hostname arch
```

Solaris Web Start 3.0 の場合：

```
# cd /install_server/s8/Solaris_8/Tools
# ./add_install_client -t /install_server/s8/Solaris_8/Tools/Boot hostname arch
```



## インストールに関する注意事項とバグ情報

---

この章では、Solaris 8 1/01 のインストールに関する注意事項とバグ情報について説明します。本章の内容を理解してからインストールを開始してください。

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれる Solaris Web Start 3.0 の Kiosk および Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) に含まれている『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。また、既存のバグ情報・注意事項の一部についても、最新の内容に変更されています。

- バグ ID: 4394591
- バグ ID: 4368056

---

注 - 今回の Solaris の製品名称は「Solaris 8 1/01」ですが、コード、パス名、パッケージパス名などで、「Solaris 2.8」または「SunOS™ 5.8」という名称が使用されていることがあります。コード、パス、パッケージパスなどを実際に入力または使用するときには、必ずマニュアル中に記述されている名称に従ってください。

---

注 - Solaris 8 のリリース後も、ハードウェア互換リスト中の情報は更新されています。最新のハードウェア互換リストは、<http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl> または [http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl\\_ja](http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl_ja) を参照してください。

---

---

## システム認識に関するバグ情報

### システム認識ツールが、異なるサブネット上にあるネームサーバーの検証に失敗する (バグ ID: 4265363)

システム上にネームサービス (NIS+, NIS、または DNS) を構成している場合に、そのシステムとは別のサブネット上にネームサーバーが存在し、ルーターがネームサーバーへの経路をブロードキャストしない場合、システム認識ツールはネームサーバーの検証に失敗します。

ネームサービスとして DNS を選択した場合、インストールプログラムは、ネームサーバーが未検証のままインストールを続けるかどうかを問い合わせます。ネームサービスとして NIS+ または NIS を選択した場合、システム認識ツールはネームサーバーの検証をしないで処理を継続することはできないので、インストール中にネームサービスが構成されません。

回避方法： 次のいずれかの方法を実行してください。

- グラフィカルユーザーインターフェースを使用したインストールの場合：端末エミュレータウィンドウを開き、次のコマンドを実行してルーターを追加してください。

```
# route add default ip_address_of_router
```

- コマンド行インターフェースを使用したインストールの場合：ネームサービスを「なし (none)」に設定してください。インストール完了後に、`/etc/defaultrouter` ファイルを作成し `sys-unconfig` コマンドを実行してください。

---

## Solaris 8 のインストールを開始する前に知っておく必要がある注意事項とバグ情報

Solaris 8 ソフトウェアのインストールを始める前に知っておく必要がある注意事項とバグ情報について説明します。

## ロケール選択機構の変更

Solaris 8 では、インストールするロケールを選択する機構が変更されました。Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7 では、一部のロケールは、選択するソフトウェアグループ (ソフトウェアクラスタ) によって、インストールするロケールを決定していました。Solaris 8 では、新しいインストールインタフェースが導入され、地域を選択することによって必要なロケールを決定します。このため Solaris 8 では、Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7 よりも柔軟にオペレーティングシステムのインストール時にシステム構成をカスタマイズすることができます。

特に、次の点に注意してください。

- 初期インストールの場合、インストールするロケールは「地域の選択」画面で選択してください。ただし、C ロケール (POSIX ロケール) と en\_US.UTF-8 ロケール (Unicode ロケール) は、自動的にインストールされます。
- 従来のリリースからのアップグレードインストールの場合、「地域の選択」画面でいくつかのロケール (アップグレードするシステムによって使用できるロケールは異なる) が自動的に選択されています。これは、Solaris 2.5.1、Solaris 2.6、Solaris 7 では、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、スウェーデン語の一部のロケールがシステム上に暗黙のうちにインストールされていたためです。
- Unicode ロケール (UTF-8) では、複数言語の文字を入力することができます。Unicode ロケールは、アジア言語の各ロケールで提供される入力方式を利用しているため、アジア言語の文字を入力するには、その言語に対応するロケールをインストールする必要があります。たとえば、韓国語の文字入力を可能にするには、ko.UTF-8 ロケールをインストールしてください。

## Athlon プロセッサ搭載機種で Device Configuration Assistant フロッピーディスクからのブートに失敗する (バグ ID: 4344312)

AMD Athlon プロセッサ搭載機種を Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) フロッピーディスクからブートすると、次のようなエラーメッセージが出力され、ブートに失敗します。

```
prom_panic: Could not mount filesystem.  
Entering boot debugger:
```

[12ff05]:

回避方法： Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD (Intel 版)、または Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD (Intel 版) からブートしてください。

## **symhis1、mega、cpqncr などのディスクコントローラ ドライバがインストールされているシステムに、8G バイトを超えるパーティションを作成できない**

以下に示すコントローラのいずれかを使用するディスク上に 8G バイトを超えるパーティションを作成すると、インストールされたシステムが正常に動作しません。

Solaris オペレーティング環境のインストールプログラムは、ドライバが 8G バイトを超えるパーティションをサポートしないことを検知できません。したがって、エラーを表示せずにインストールを続けますが、システムをリブートしようとするときリブートは失敗します。

システムをリブートできたとしても、ブートデバイスや追加されたパッケージに関連する他の変更が原因となって、後で異常終了します。これらのドライバに関連するディスクコントローラは、次のとおりです。

- Symbios 53C896 ベースのコントローラ (symhis1)
- AMI MegaRAID コントローラ (mega)
- Compaq 53C8xx ベースの SCSI コントローラ (cpqncr)

回避方法：symhis1、mega、cpqncr などのドライバによって稼動するディスクコントローラを持つシステムに、ディスクの最初の 8G バイトを超える大きなパーティションをインストールしないでください。



## Solaris 8 オペレーティング環境へアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS を最新のものに更新する必要がある

Solaris 8 オペレーティング環境には、サイズの大きいパーティションをインストールするための新しい機能が追加されています。DPT PM2144UW コントローラの BIOS は、LBA (論理ブロックアドレス指定, Logical Block Addressing) をサポートしていなければなりません。最新の BIOS は、LBA アクセスを完全にサポートしています。問題が発生した場合は、ほかの DPT コントローラモデルにも影響します。

回避方法 : Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードする前に、DPT PM2144UW コントローラの BIOS が最新のバージョンであることを確認してください。

システムに DPT コントローラがインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

1. 次のコマンドを実行します。

```
prtconf -D
```

2. 名前 `dpt` が表示されたら、カードの構成ユーティリティを起動して、機種や BIOS のバージョンに関する情報を取得します。
3. BIOS をフラッシュするか、最新の BIOS EPROM をインストールして、DPT PM2144UW コントローラをアップグレードします。すべての DPT コントローラの最新の BIOS イメージについては、<http://www.dpt.com> を参照してください。

これで、システムを Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードできます。

## BIOS バージョン GG.06.13 を使って Hewlett-Packard (HP) Vectra XU シリーズのシステムをアップグレードできない

Solaris 8 オペレーティング環境には、サイズが大きいパーティションをインストールできる新しい機能が含まれています。システム BIOS は Logical Block Addressing (LBA) をサポートしている必要がありますが、BIOS バージョン GG.06.13 は LBA ア

クセスをサポートしていません。このような衝突を Solaris ブートプログラムは処理できません。この問題は他の HP Vectra システムにも影響します。

このシステムをアップグレードすると、HP システムはブートしなくなります。暗い画面上に点滅する下線が表示されるだけです。

回避方法 : HP Vectra XU シリーズシステムを最新の BIOS バージョン GG.06.13 で、Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードしないでください。Solaris 8 オペレーティング環境では、これらのシステムはサポートされていません。

ブートパスはハードディスクコードを使用しないため、ブートフロッピーディスクまたはブート CD でシステムをブートすることができます。、ブート可能デバイスとしてネットワークまたは CD-ROM ドライブの代わりに、ハードディスクを選択してください。

## PCI-IDE システム上で DMA が無効になる

デフォルトでは、Solaris ata デバイスドライバは、ATA/ATAPI デバイスに対して DMA (Direct Memory Access) 機能を無効にします。Solaris 8 オペレーティング環境は、DMA 機能が無効になっている状態で正しく動作します。

パフォーマンスを向上させるために DMA 機能を有効にする方法については、152 ページの「PCI-IDE システム上で DMA が無効になる」を参照してください。

## kdmconfig で USB Mouse が PS/2 Mouse として認識される (バグ ID: 4312993)

Pointing Device として USB Mouse を使用しているシステムで kdmconfig を実行すると、USB Mouse が PS/2 Mouse として認識されてしまいます。

Pointing Device を変更せずに PS/2 Mouse のまま次の画面に進むと、システムが停止します。

回避方法 : Pointing Device を USB Mouse に変更してください。

## 64M バイトメモリーのシステムが、ネットワーク接続時に停止する (バグ ID: 4394591)

64M バイトメモリーの IA システムに、Solaris 8 Installation CD を使用してテキストモードでインストールすると、インストール終了後、システムのブート時に次のエラーメッセージが出力され、ブートが停止することがあります。

```
WARNING: Timed out waiting for NIS
```

この場合、インストールは成功していますが、次の 2 つのシステムファイル、`/etc/inet/hosts` と `/etc/inet/netmasks` が正しく初期化されていません。これは、システム構成中にシステム上のスワップ容量が不足したためです。

メモリー容量が 64M バイトよりも大きな IA システムにインストールした場合や、Solaris 8 Installation CD を使用してグラフィックモードでインストールした場合には、この問題は発生しません。

回避方法：インストール前の場合は、次のいずれかを行なってください。

- Solaris 8 Installation CD を使用してグラフィックモードでインストールする
- Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用して対話式インストールプログラムでインストールする
- IA システムのメモリー容量を増やす

インストール後にこの問題が発生した場合は、次の手順でシステムを修正してください。

1. 次のようにシングルユーザーモードでシステムをブートします。

```
Select (b)oot or (i)nterpreter : b -s
```

2. `/etc/inet/hosts` ファイルに、次の行を追加します (*system's\_ip\_address* にはシステムの IP アドレスを、*host\_name* にはホスト名を入力します)。  
*system's\_ip\_address host\_name*

3. `/etc/inet/netmasks` ファイルに次の行を追加します (*system's\_network\_number* にはシステムのネットワーク番号を、*netmask* にはネットマスクを入力します)。

---

## Solaris Web Start 3.0 に関する注意事項とバグ情報

Solaris Web Start 3.0 を使用する場合のインストールに関する情報と問題について説明します。この節に記載されている問題は、Solaris 対話式インストールプログラムを使用するときには発生しません。

### Solaris Web Start インストールにおいて必要なパーティション

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれる Solaris Web Start 3.0 が、システム内で Solaris fdisk パーティションを検出できない場合は、Solaris fdisk パーティションを作成する必要があります。



---

**注意** - 既存の fdisk パーティションのサイズを変更すると、そのパーティション上のすべてのデータが自動的に削除されます。データのバックアップをとってから、Solaris fdisk パーティションを作成してください。

---

Solaris Web Start 3.0 でインストールを行うには、2つの fdisk パーティションが必要です。

- Solaris fdisk パーティション

通常の Solaris fdisk パーティションです。

- x86BOOT fdisk パーティション

IA システムをミニルートから起動するための、10M バイトの fdisk パーティションです。ミニルートは、Solaris fdisk パーティションのスワップスライス上に置かれます。

---

注 - Solaris Web Start 3.0 は、x86BOOT fdisk パーティションの存在を検出した場合は、そのパーティションを使用します。検出しなかった場合は、Solaris fdisk パーティションを分割し、10M バイトの x86BOOT fdisk パーティションを作成します。

x86BOOT fdisk パーティションは手動では作成しないでください。

Solaris 8 より前のオペレーティング環境では、x86BOOT fdisk パーティションは作成されません。Solaris Web Start 3.0 は x86BOOT fdisk パーティションを必要とするので、Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris 8 より前のオペレーティング環境を Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードすることはできません。本件に関しては、70ページの「アップグレードに関する注意事項とバグ情報」でも説明しています。

---

## ネットワークゲートウェイシステム上でシステム認識中に使用する代替ネットワークインタフェースを指定できない (バグ ID: 4302896)

ネットワークゲートウェイは、他のネットワークと通信するために使用されます。ゲートウェイシステムには複数のネットワークインタフェースアダプタが含まれており、各アダプタはそれぞれ異なるネットワークに接続します。

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD を使用して Solaris 8 1/01 オペレーティング環境をゲートウェイシステムにインストールした場合、Solaris Web Start 3.0 は一次ネットワークインタフェースを使用してシステム情報を収集します。システムを認識するための情報を代替ネットワークインタフェースを使用して収集するように、Solaris Web Start 3.0 で指定することはできません。

回避方法：一次ネットワークインタフェース以外のインタフェースを使用してシステム情報を収集するように指定するには、次のいずれかを行なってください。

- `sysidcfg` ファイルを作成して、システムの認識に使用するネットワークインタフェースを指定する  
  
    `sysidcfg` ファイルの作成および変更についての詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「`sysidcfg` ファイルによる事前設定」および `sysidcfg(4)` のマニュアルページを参照してください。
- Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用して、対話式インストールで Solaris 8 1/01 オペレーティング環境をインストールする。システムをネットワークに接

続するように指定し、システム認識に使用する代替ネットワークインタフェースをリストから選択する

## IA BOOT パーティションからブートする時に cpio エラーメッセージが出力される (バグ ID: 4327051)

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD を使用してインストールすると、`/var/sadm/system/logs/cd0_install.log` ファイルに次のようなエラーメッセージが出力されます。

```
cpio: Cannot chown() "/tmp/x86_boot/solaris", errno 22, Invalid argument
cpio: Error during chown() of "/tmp/x86_boot/solaris/boot.bin",
errno 22, Invalid argument
cpio: Cannot chown() "/tmp/x86_boot/solaris/boot.bin", errno 22,
Invalid argument
```

このメッセージは、IA BOOT パーティションからブートするために必要なファイルの所有権を、Solaris Web Start 3.0 が変更できないことを示しています。IA BOOT パーティションは PCFS ファイルシステムなので `chown` コマンドをサポートしていません。このために `cpio` エラーが発生します。

回避方法：インストールは問題なく行われるので、このエラーメッセージは無視してください。

## INSTALLATION CD からのブート時に警告メッセージが表示される場合がある (バグ ID: 4391205)

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD からブートすると 以下のような警告メッセージが表示される場合があります。

```
WARNING: elx10: link failure
```

回避方法：警告メッセージは無視してください。

## Solaris Web Start 3.0 を使用して英語の AnswerBook ドキュメントをインストールする方法

英語の AnswerBook ドキュメントは、Solaris 8 DOCUMENTATION CD (英語 + ヨーロッパ言語版) に含まれており、アジア言語版の DOCUMENTATION CD には含まれていません。

英語の AnswerBook ドキュメントは、Solaris Web Start 3.0 のデフォルトインストールでインストールされます。カスタムインストールの場合は、「製品の選択」画面で「Solaris 8 Documentation European」の「European Collections for Solaris 8」が選択されている場合にインストールされます。

また、「Solaris 8 Documentation European」と「Solaris 8 Documentation Asian」の両方に「AnswerBook2 Documentation Server」が含まれていますが、どちらも同じものです。両方を選択してもインストールには問題ありませんが、どちらか一方が選択されていれば十分です。

## Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD の挿入について

Solaris Web Start 3.0 は、選択したソフトウェアグループ、ロケール、製品に応じて必要な CD を挿入するように要求し、インストールを行います。

Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD には、「開発者システムサポート」以上のソフトウェアグループと、(Solaris\_8/EA/products ディレクトリにある) Appcert 2.1、Live Upgrade 1.0、DiskSuite 4.2.1、SunScreen 3.1 Lite が含まれています。

「開発者システムサポート」以上のソフトウェアグループおよび Solaris\_8/EA/products ディレクトリにあるソフトウェアを選択した場合、Solaris Web Start 3.0 は、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールが完了すると SOFTWARE 2 of 2 CD を挿入するように要求します。その後、LANGUAGES CD や DOCUMENTATION CD をインストールした後に再度 SOFTWARE 2 of 2 CD を挿入するように要求します。これは、Solaris\_8/EA/products ディレクトリにあるソフトウェアをインストールするためで、Solaris ソフトウェアをインストールするためではありません。メッセージに従って SOFTWARE 2 of 2 CD を挿入し、Solaris\_8/EA/products ディレクトリにあるソフトウェアのインストールを行なってください。

---

注 - Solaris 8 6/00 から Solaris\_8/EA/products ディレクトリに SunScreen 3.1 Lite が追加されましたが、Solaris Web Start 3.0 では SunScreen 3.1 Lite をインストールすることができません。SunScreen 3.1 Lite をインストールする場合は、Solaris 8 1/01 をインストールしたシステム上で、Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD に含まれている Solaris Web Start 2.1.0 (Solaris\_8/EA/installer または Solaris\_8/EA/products/SunScreen\_3.1\_Lite/installer) を使用してください。また、インストール前に、81ページの「日本語、フランス語、中国語 (簡体字) ロケールで SunScreen をインストールすると、不要な文字がメッセージ中に表示される (バグ ID: 4336336)」をお読みください。

---

## Live Upgrade のインストール画面の表示

Solaris Web Start 3.0 のインストールにおいて「製品の選択」画面で、Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD に含まれている Live Upgrade を選択した場合、インストール画面の一部が英語で表示されます。

Live Upgrade を、Solaris 8 1/01 SOFTWARE 2 of 2 CD に含まれている Solaris Web Start 2.1.0 (Solaris\_8/EA/installer または Solaris\_8/EA/products/Live\_Upgrade\_1.0/installer) を使用してインストールする場合も、インストール画面の一部が英語で表示されます。

## Solaris Web Start 3.0 におけるウィンドウシステムの構成に関する注意事項

Solaris Web Start 3.0 は、システムにビデオアダプタがあることを検出した場合にはグラフィカルユーザーインターフェースを起動し、そうでない場合にはコマンド行ユーザーインターフェースを起動します。

kdmconfig でウィンドウシステムを構成し、Solaris Web Start 3.0 がグラフィカルユーザーインターフェースで起動されたとしても、ウィンドウシステムの構成が正しくないまたは不完全な場合には、Solaris Web Start 3.0 は途中でインストールを終了してしまうことがあります。

ウィンドウシステムを正しく構成できない可能性がある場合 (たとえば、未サポートのビデオカードがシステムに搭載されているなど) は、kdmconfig で「Bypass」を選択して、明示的にコマンド行インターフェースを起動してください。または、



tip(1) 接続による Solaris Web Start 3.0 のコマンド行インタフェースを使用してください。

---

## 対話式インストールに関する注意事項とバグ情報

対話式インストールを使用する場合のインストールに関する情報と問題について説明します。

### ddi: net: x86 ネットワークブートは、特定のタイプの一次ネットワークインタフェース上でしか動作しない (バグ ID: 1146863)

ネットワークを介するブートは、IA システムの一次ネットワークインタフェース上で実行する必要があります。

一次ネットワークインタフェースは、ネットワークインタフェースの選択とインストールを繰り返すことによって特定できますが、「Boot Solaris」メニューの最初または最後にリストされているネットワークデバイスは、多くの場合一次ネットワークインタフェースです。

一次ネットワークインタフェースを特定できたら、ハードウェア構成を変更しない限り、システムをブートするたびに一次ネットワークインタフェースが変わることはありません。ハードウェア構成を変更した場合、変更したハードウェア構成によって、一次ネットワークインタフェースが変更される場合と変更されない場合があります。

一次ネットワークインタフェース以外のネットワークインタフェースからブートした場合、ブートシステムが停止し、ブートサーバーに接続できなくなります。この問題は、システムがブートサーバーのクライアントとして登録されていない場合にも発生します。

### x86BOOT パーティションの設定を解除できない (バグ ID: 4367779)

対話式インストールの「fdisk パーティションのカスタマイズ」画面で、未使用のパーティションに x86BOOT を設定してサイズを割り当てた後、そのパーティショ

ンを「未使用」に設定し直しても、サイズの設定を 0 に変更できないため、そのままインストールを続けると x86BOOT パーティションが生成されてしまいます。

回避方法： x86BOOT パーティションの設定を解除するには、「PRI DOS」を選択し、それから「未使用」を選択してください。

## インストールの進捗を示すスケール表示が不正確 (バグ ID: 1266156)

Solaris ソフトウェアのインストール中であるにもかかわらず、「Solaris ソフトウェアのインストール - 実行中」のスケールがインストールの完了を示す場合があります。

スケールがインストールの完了を示した後も、インストールプログラムによってパッケージが追加されている可能性があるため、インストールが完了したかどうかをスケールの表示で判断しないでください。すべてのインストール処理が完了すると、プロンプト # が表示されます。

## ファイルシステムの作成時に警告メッセージが出力されることがある (バグ ID: 4189127)

インストール中、ファイルシステムの作成時に、次のどちらかの警告メッセージが出力されることがあります。

```
Warning: inode blocks/cyl group (87) >= data blocks (63) in last
cylinder group. This implies 1008 sector(s) cannot be allocated.
```

```
Warning: 1 sector(s) in last cylinder unallocated
```

この警告メッセージは、作成中のファイルシステムのサイズと使用しているディスク上の容量が等しくない場合に表示されます。この場合、ディスク上に、作成中のファイルシステムには取り込まれない未使用の領域ができます。この未使用のディスク領域は、他のファイルシステムに割り当てることができません。

回避方法：警告メッセージは無視してください。警告メッセージが表示されても問題は発生しません。

## [日本語環境のみ] CD による対話式インストールで「コアシステムサポート」をインストールする場合の注意事項

「コアシステムサポート」でインストールされるべき日本語パッケージは、次のとおりです。

パッケージ	ロケール	パッケージが含まれる CD
SUNWjeuc, SUNWjfpr, SUNWjfpue	ja, ja_JP.PCK, ja_JP.UTF-8	SOFTWARE 1 of 2 CD
SUNWjpck	ja_JP.PCK	SOFTWARE 1 of 2 CD
SUNWju8	ja_JP.UTF-8	SOFTWARE 1 of 2 CD
SUNWjeuce, SUNWjfpue, SUNWjfpue	ja, ja_JP.PCK, ja_JP.UTF-8	LANGUAGES CD
SUNWjpcke	ja_JP.PCK	LANGUAGES CD
SUNWju8e	ja_JP.UTF-8	LANGUAGES CD

CD による対話式インストールにおいて、ソフトウェアグループとして「コアシステムサポート」を選択した場合、インストールするロケールとして日本語ロケールを選択しても、LANGUAGES CD に含まれる日本語パッケージはインストールされません。これは、SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールが完了し、システムがリブートした後、コアシステムの環境で LANGUAGES CD のインストールを起動できないためです。

回避方法：CD を使用して対話式インストールを行なった場合は、インストール終了後、システムにログインし、次のように pkgadd (1M) コマンドを使用して LANGUAGES CD に含まれる日本語パッケージをインストールしてください。

```
# cd /cdrom/sol_8_u3_lang_ia/components/Japanese/i386/Packages
# pkgadd -d . SUNWjeuce SUNWjfpue SUNWjpcke SUNWju8e
```

対話式インストールで LANGUAGES CD に含まれるパッケージをインストールするには、LANGUAGES CD のイメージを含むインストールサーバーを使用してください。Solaris Web Start 3.0 では、CD を使用して LANGUAGES CD のインストールを行うことができます。

## [日本語環境のみ] 日本語端末からの tip(1) 接続によるインストールで、インストール画面が英語で表示される (バグ ID: 4313411)

ヘッドレスシステムに日本語端末から tip(1) 接続によるインストールを行う場合、言語の選択画面で「Japanese」を選択すると端末タイプの選択画面は日本語で表示されますが、それ以降のすべてのインストール画面は英語で表示されます。

また、sysidcfg ファイルで system\_locale に日本語ロケールを設定した場合、すべてのインストール画面は英語で表示されます。

回避方法：インストール画面が英語で表示されるだけで、インストール後のシステムのデフォルトロケールは、インストール時に選択したロケールに設定されます。なお、シリアル端末のシステムにインストールする場合は、言語の選択画面で「English」を選択してください。

## [日本語環境のみ] 不要な文字が表示される場合がある (バグ ID: 4305860、4396803)

対話式 GUI インストールの「ディスクのカスタマイズ」および「fdisk パーティションのカスタマイズ」画面で、次のように「M バイト」の後に不要な文字が表示される場合があります。

容量: nnnn M バイトXX 割り当て: nnnn M バイトXX 空き: nnnn M バイトXX
--

回避方法：不要な文字は無視してください。

---

## カスタム JumpStart インストールに関するバグ情報

カスタム JumpStart インストールを使用する場合のインストールに関する情報と問題について説明します。

## カスタム JumpStart は Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD と LANGUAGES CD をインストールしない (バグ ID: 4304912)

カスタム JumpStart インストールは、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD をインストールした後、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD および Solaris 8 LANGUAGES CD をインストールしません。

回避方法：「コアシステムサポート」ソフトウェアグループまたは「エンドユーザーシステムサポート」ソフトウェアグループを Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD に含まれる基本ロケール (部分ロケールともいい、ユーザーインターフェースの翻訳を含まない) 環境のみで利用する場合は、SOFTWARE 2 of 2 CD および LANGUAGES CD をインストールする必要はありません。

「開発者システムサポート」、「全体ディストリビューション」、「全体ディストリビューションと OEM サポート」のいずれかのソフトウェアグループをインストールする場合は、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD、SOFTWARE 2 of 2 CD、LANGUAGES CD を含むインストールサーバーを使用して、ネットワーク上でカスタム JumpStart インストールを行なってください。詳細は、『Solaris 8 のインストール (上級編)』の「JumpStart ディレクトリをサーバー上に作成する方法」を参照してください。

なお、プロファイルフロッピーディスクを使用したカスタム JumpStart インストールを行う場合は、次の手順に従って Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD、LANGUAGES CD をインストールしてください。

1. カスタム JumpStart による **Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD** のインストールが終了したら、システムをリブートします。
2. システムにログインします。
3. **Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入します。
4. `installer` コマンドを実行します。インストール画面に従ってソフトウェアをインストールします。
5. **Solaris 8 LANGUAGES CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入します。
6. `installer` コマンドを実行します。インストール画面に従ってソフトウェアをインストールします。

---

## アップグレードに関する注意事項とバグ情報

旧リリースの Solaris がインストールされているシステムを、Solaris 8 1/01 にアップグレードする場合の注意事項とバグについて説明します。



---

**注意** - IA (Intel Architecture) ベースのシステムを Solaris 8 1/01 オペレーティング環境にアップグレードする場合は、インストールを開始する前に、74ページの「DiskSuite でデータが失われる可能性がある (バグ ID: 4121281)」の説明を必ずお読みください。

---

### Solaris 8 1/01 へのアップグレードインストールの範囲

アップグレードオプションによって Solaris 8 1/01 をインストールする場合、Solaris 2.5.1 以降のシステムからのアップグレードをサポートします。それより前のリリースからのアップグレードは保証されません。

### Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD を使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 8 1/01 にアップグレードできない

x86BOOT パーティションに関する制限事項のために、Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD の Solaris Web Start 3.0 を使用して、Solaris 8 より前の IA システムを Solaris 8 1/01 へアップグレードすることはできません。Solaris 8 より前の IA システムでは、Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD の対話式インストールまたは JumpStart インストールを使用して、Solaris 8 1/01 へのアップグレードを行なってください。

### Priority Paging 機能と Solaris 8 キャッシュアーキテクチャ

Solaris 8 オペレーティング環境には、Solaris 7 の Priority Paging 機能を包含する、新しいファイルシステムキャッシュアーキテクチャが導入されています。Solaris 8 オペレーティング環境では、システム変数 `priority_paging` を設定しないでくだ

さい。Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードする時に、システム変数 `priority_paging` を `/etc/system` から削除する必要があります。

新しいキャッシュアーキテクチャでは、ファイルシステムの動作で発生する仮想メモリーシステムへの負荷の大部分が削減されます。これによって、メモリーページング統計のダイナミクスが変わり、システムメモリーの監視機能がより簡素化されます。ただし、従来とは大幅に異なる統計値が出される場合もあることを、メモリー動作を解析する時またはパフォーマンス監視のしきい値を設定する時には留意する必要があります。主な相違点は次のとおりです。

- ページ要求の量が多くなります。負荷が大きいファイルシステム動作中には、通常の処理とみなす必要があります。
- 空きメモリーの量が多くなります。これは、ファイルシステムキャッシュの大規模コンポーネントも空きメモリー量として計算されるようになったためです。
- システム全体で利用可能なメモリーが不足しない限り、走査率はほぼゼロになります。通常のファイルシステム入出力中に空きリストを置き換えることを目的として走査を行うことはなくなりました。

## **x86BOOT fdisk** パーティションを持つ **Solaris 8** より前のシステムをアップグレードすると、ファイルシステムの再配置時にバックアップファイルの復元に失敗する (バグ ID: 4367334)

Solaris 8 より前のリリースの IA システムの任意のディスク上に x86BOOT fdisk パーティションが存在する場合、対話式インストールまたはカスタム JumpStart インストールによる Solaris 8 へのアップグレード時にファイルシステムの再配置が発生すると、バックアップファイルの復元に失敗することがあります。

回避方法: `format (1M)` コマンドで x86BOOT fdisk パーティションを削除してから、アップグレードを行なってください。

## 対話式インストールによるアップグレードでのロケール選択

55ページの「ロケール選択機構の変更」で説明したように、Solaris 8 から、インストールするロケールを選択する機構が変更されました。このため、対話式インス

ツールを使用して Solaris 8 より前のシステムを Solaris 8 1/01 へアップグレードすると、既存システムのインストール時に明示的にインストールしなかったロケールが「地域の選択」画面で自動的に選択されます。これは、既存システムのインストール時に明示的に指定していないロケールのソフトウェアが、暗黙のうちにインストールされていたためです。

既存システムのインストール時にインストールするロケールとして明示的に指定しなかったロケールが含まれている地域を、「地域の選択」画面で選択解除することができます。余分なロケールをそのまま選択解除せずにアップグレードを行っても問題はありません。アップグレードしたシステムには、アップグレード前と同じレベルのロケール環境がサポートされます。ただし、既存のシステムに明示的にインストールしたロケールは、「地域の選択」画面で削除することはできません。

## **[日本語環境のみ] 「日本語 Solaris 2.5.1 PC 漢字コード開発キット」が入ったシステムからのアップグレード**

Solaris 2.5.1 に同梱されていた「日本語 Solaris 2.5.1 PC 漢字コード開発キット」がインストールされているシステムをアップグレードする場合、それをサポートするパッケージ (SUNWjpr、SUNWjpu、SUNWjpxw、SUNWjpdtd) は自動的に削除されます。ja\_JP.PCK ロケール環境をインストールするには、「言語の選択」画面で「Japanese PC Kanji (ja\_JP.PCK)」を追加選択してください。

## **[日本語環境のみ] cs00 に関するアップグレード時の注意事項**

Solaris 2.6 から、cs00 は「コアシステムサポート」ソフトウェアグループには含まれなくなりました。「コアシステムサポート」でインストールされた Solaris 2.5.1 システムをアップグレードすると、システム上から cs00 をサポートするシステムファイルが削除されます。

「コアシステムサポート」で cs00 を利用する場合は、「エンドユーザーシステムサポート」以上のソフトウェアグループを選択するか、インストール後に pkgadd コマンドにより次のパッケージをインストールしてください。

- SUNWjc0r : Japanese Kana-Kanji Conversion Server cs00 Root Files
- SUNWjc0u : Japanese Kana-Kanji Conversion Server cs00 User Files



なお、かな漢字入力機能を持たない漢字表示可能な端末や端末エミュレータ上で日本語を入力するためのフロントエンドプロセッサ `mle` を利用する際にも、`cs00` が必要になります。

## ディスクレスサーバーおよびディスクレスクライアントのアップグレード (バグ ID: 4363078)

現在のシステムが、AdminSuite™ 2.3 のホストマネージャを使用してインストールしたディスクレスクライアントをサポートしている場合は、Solaris 8 1/01 オペレーティングシステムをインストールする前に、すべてのディスクレスクライアントを削除する必要があります。具体的な手順については、『Solaris 8 のシステム管理 (追補)』の「ディスクレスクライアント環境をセットアップするには」の節を参照してください。

ディスクレスクライアントを削除せずに Solaris 8 1/01 をインストールしようとすると、次のようなエラーメッセージが出力されます。

```
The Solaris Version (Solaris 7) on slice <xxxxxxx> cannot be upgraded.  
There is an unknown problem with the software configuration installed  
on this disk.
```

スライス <xxxxxxx> 上の Solaris のバージョン (Solaris 7) がアップグレードできません。ディスク上にインストールされたソフトウェア構成に未知の問題があります。

## WBEM データ消失防止のための JavaSpaces データストアのアップグレード (バグ ID: 4365035)

Solaris 8 (Solaris WBEM Services 2.0)、Solaris 8 6/00 (WBEM Services 2.1)、Solaris 8 10/00 (WBEM Services 2.2) のいずれかのオペレーティング環境から Solaris 8 1/01 オペレーティング環境 (Solaris WBEM Services 2.3) にアップグレードする場合は、Managed Object Format (MOF) 形式の重要なデータは、Solaris WBEM Services 2.3 で使用されている新しい Reliable Log レポジトリ形式に変換してください。この変換を行わないと、データが失われてしまいます。

回避方法 : アップグレードの前に JavaSpaces™ ソフトウェアを保存して、アップグレードの後に `wbemconfig convert` コマンドを実行して WBEM データを変換してください。

Solaris 8 1/01 オペレーティング環境にアップグレードする前に、次の手順に従って JavaSpaces ソフトウェアを保存してください。

1. スーパーユーザーになります。
2. **JavaSpaces** を保存します。

```
# cp /usr/sadm/lib/wbem/outrigger.jar /usr/sadm/lib/wbem/outrigger.jar.tmp
```

3. マシンにインストールされている **JDK™** ソフトウェアのバージョンを確認して記録します。例:

```
# /usr/bin/java -version
java version "1.2.1"
Solaris VM (build Solaris_JDK_1.2.1_04c, native threads, sunwjit)
```

WBEM データの変換時に使用する JDK ソフトウェアのバージョンは、元の JavaSpaces データストアが生成されたときに実行されていたバージョンと同じでなければなりません。

---

注 - Solaris 8 1/01 へのアップグレード後は、WBEM データを変換する必要があります。具体的な手順については、『Solaris 8 のインストール (追補)』を参照してください。

---

## DiskSuite でデータが失われる可能性がある (バグ ID: 4121281)

DiskSuite™ `metadb` 複製には、DiskSuite 構成データの一部にドライバ名が含まれています。Solaris オペレーティング環境 2.5.1 または 2.6 を実行する IA ベースのシステムでは、SCSI ドライバ名は `cmdk` です。cmdk ドライバは、Solaris 8 オペレーティング環境では `sd` ドライバに置換されています。

回避方法 : Solaris 8 オペレーティング環境へのアップグレード中にデータを損失しないようにするには、DiskSuite が動作している IA システムのアップグレードを開始する前に、メタデバイス構成をテキストファイルに保存し、metadb 複製を削除してください。IA システムのアップグレード後に、DiskSuite のコマンド行インタフェースを使用してメタデバイス構成を復元してください。

『Solstice DiskSuite 4.2 ご使用にあたって』には、metadb 構成の保存、metadb 複製の削除、IA システムの Solaris 8 オペレーティング環境へのアップグレード、DiskSuite のバージョン 4.2 へのアップグレード、メタデバイス構成の復元について、それぞれの手順が記載されています。Solaris 8 オペレーティング環境には、これらの手順を自動化する Bourne シェルスクリプトが含まれています。

## Solaris 2.5.1 で再配置した CDE が、Solaris 8 へのアップグレード後に残る (バグ ID: 4260819)

この問題は、Solaris 2.5.1 と Solaris 2.5.1 アンバンドル CDE オペレーティング環境を実行しているシステムのうち、アンバンドル CDE の場所を /usr/dt 以外のディレクトリにインストールしたシステムに影響します。これらのシステムでは、インストール先の CDE を指すシンボリックリンクが /usr/dt に作成されています。

Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードすると、CDE が /usr/dt に再インストールされ、アップグレード前にインストールしていた CDE へのシンボリックリンクは削除されます。アップグレード前にインストールしていた CDE 自体は、削除されないで残ります。

アップグレードで、ファイルシステムの再配置に関連する処理が行われる場合、アップグレードに失敗します。ファイルシステム再配置で、新しい CDE に必要な /usr/dt の容量が考慮されないためです。このアップグレードの失敗は、アップグレードの完了時までわかりません。アップグレードに失敗すると、容量が足りないことを示すメッセージがアップグレードログ中に出力されます。

回避方法 : インストールしたアンバンドル CDE をアンインストールしてから、Solaris 8 オペレーティング環境へのアップグレードを開始してください。アンインストールは、Solaris 2.5.1 CDE の CD から install-cde スクリプトを使用して行うことができます。CDE を削除するためには、必ず -uninstall フラグを付けてこのスクリプトを実行する必要があります。

## WBEM 1.0 がインストールされている Solaris 7 オペレーティング環境から Solaris 8 にアップグレードすると、WBEM 2.0 が動作しない (バグ ID: 4274920)

Solaris 7 オペレーティング環境を実行しているシステムに、Solaris Easy Access Server (SEAS) 3.0 CD-ROM から WBEM 1.0 をインストールしている場合は、Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードする前に WBEM 1.0 のパッケージを削除してください。WBEM 1.0 がインストールされたままアップグレードすると、Solaris WBEM Services 2.0 が起動しません。また、CIM Object Manager の起動にも失敗します。この場合、次のエラーメッセージが表示されます。

```
File not found: /opt/sadm/lib/wbem/cimom.jar
```

回避方法 : Solaris 8 オペレーティング環境にアップグレードする前に、WBEM 1.0 パッケージを手作業で削除してください。削除には、pkgrm コマンドを使用してください。

1. pkginfo コマンドを実行して、**WBEM 1.0** パッケージがインストールされているかどうかを確認します。

```
% pkginfo | grep WBEM
```

2. スーパーユーザーになります。

3. コマンドを実行して、**WBEM 1.0** のパッケージをすべて削除します。

```
# pkgrm SUNWwbapi
# pkgrm SUNWwbcor
# pkgrm SUNWwbdev
# pkgrm SUNWwbdoc
# pkgrm SUNWwbnm
```

各ロケールのメッセージおよびヘルプに関するパッケージが入っているときは、それらのパッケージも削除します。以下は日本語版の例です。

```
# pkgrm SUNWjewbi
# pkgrm SUNWjewbs
# pkgrm SUNWjwbd
```

## アップグレード時に SUNWeeudt のインストールが部分的に失敗する (バグ ID: 4304305)

SUNWeeudt パッケージのインストールが部分的に失敗したことを示す次のようなメッセージが、アップグレードログに出力されます。

```
Doing pkgadd of SUNWeeudt to /.
ERROR: attribute verification of
</a/usr/dt/appconfig/types/ru_RU.KOI8-R/datatypes.dt>
failed pathname does not exist ...

Installation of <SUNWeeudt> partially failed.
pkgadd return code = 2
```

回避方法：アップグレード完了後に、次の手順を実行してください。

1. 次のように入力して、SUNWeeudt パッケージを削除します。

```
# pkgrm SUNWeeudt
```

2. **Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD** またはインストールサーバーを使用して、SUNWeeudt パッケージをインストールします。

例：Solaris 8 1/01 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用した場合

```
# cd /cdrom/sol_8_u3_ia/s2/Solaris_8/Product
# pkgadd -d . SUNWeeudt
```

## アップグレードを行うと、システムのデフォルトロケールが正しく設定されない (バグ ID: 4233535)

Solaris 8 へのアップグレードを行うと、アップグレード時に設定したデフォルトロケールがシステムのデフォルトロケールに正しく設定されない場合があります。

CD を使用した対話式アップグレードの場合、Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD のインストールの終了後、自動ブートしたシステムが英語環境で起動し、SOFTWARE 2 of 2 CD および LANGUAGES CD のインストール画面が英語で表示されることがあります。

回避方法：アップグレード終了後、システムのデフォルトロケールを /etc/default/init ファイルの LANG 環境変数に設定してください。

## Solaris 2.6 5/98 からのアップグレード後、リブート時に pdwa に関するエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4200789)

Solaris 2.6 5/98 のシステムをファイルシステムを再配置せずに Solaris 8 にアップグレードした場合、システムのリブート時に次のようなメッセージが表示されます。

```
WARNING: mod_load: cannot load module 'pdwa'
can't load module: No such file or directory
```

回避方法：アップグレード終了後、システムをリブートする前またはリブートした後に以下のようにファイルを削除し、もう一度システムをブートしてください。エラーメッセージが表示されなくなります。

システムをリブートする前:

```
# rm /a/etc/rcS.d/S31pdwa
```

システムをリブートした後:

```
# rm /etc/rcS.d/S31pdwa
```

## Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris DOCUMENTATION CD をアップグレードすると、同じコレクションが複数表示される (バグ ID: 4343499)

Solaris 8 (または 6/00、10/00) DOCUMENTATION CD (英語 + ヨーロッパ言語版) または Solaris 8 (または 6/00、10/00) DOCUMENTATION CD (アジア言語版) がインストールされている Solaris 8 (または 6/00、10/00) のシステムを Solaris Web Start 3.0 を使用して Solaris 8 1/01 にアップグレードする際に、DOCUMENTATION CD を Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD にアップグレードすると、AnswerBook2 Collection に同じコレクションが複数表示されます。

回避方法 1： 以下のように ab2admin コマンドを使用して、複数表示されているコレクションを削除してから、もう一度コレクションを追加してください。

例:

```
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o add_admin -u admin
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 Release Documents Collection"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 Release Documents Collection - \
Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 6/00 Release Documents Collection"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 6/00 Release Documents Collection - \
Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 Installation Collection - Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 Installation Collection - Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 Software Developer Collection - \
Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 Software Developer Collection - \
Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 System Administrator Collection - \
Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o del_coll -t "Solaris 8 System Administrator Collection - \
Japanese"
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o restart
# /usr/lib/ab2/bin/ab2admin -o scan
```

回避方法 2： AnswerBook2 の「オプション」メニューから「個人用ライブラリの変更」を選択し、複数表示されているコレクションのうちアップグレード前にインストールされていたコレクションを選択解除して、そのコレクションを非表示にしてください。

## [日本語環境のみ] アップグレード後のログファイル中に警告メッセージ **no longer a symbolic link** が出力されることがある (バグ ID: 4279768)

Solaris 8 へのアップグレードにおいて、Solaris 8 LANGUAGES CD の日本語ローケルのパッケージをインストールすると、ログファイル

Solaris\_8\_Japanese\_Localization\_install.B\* 中に次のような警告メッセージが出力される場合があります。

```
WARNING: /usr/dt/appconfig/appmanager/ja/Desktop_Controls <no longer a symbolic link>
```

回避方法：警告が出力されているファイルは正しくインストールされており問題はありませので、警告メッセージは無視してください。

---

## インストール全般に関する注意事項とバグ情報

Solaris 8 のインストール全般に関する注意事項とバグ情報を説明します。

### SunScreen 3.1 Lite のサポートについて

SunScreen 3.1 Lite のインストールにおいて、「SunScreen 3.1 Lite is Early Access Software」という画面が表示され、以下のメッセージが含まれています。

This software is offered for evaluation purposes only and is not recommended or intended for commercial, production, or any non-trial deployment or use. Sun's product warranties do not extend to this software.

また、SunScreen 3.1 Lite は Solaris\_8/EA/products ディレクトリに含まれていますが、SunScreen は正式サポート製品ですので、上記インストール画面のメッセージは無視してください。



## 日本語、フランス語、中国語 (簡体字) ロケールで SunScreen をインストールすると、不要な文字がメッセージ中に表示される (バグ ID: 4336336)

SunScreen 3.1 Lite のインストールにおいて、日本語、フランス語、中国語 (簡体字) のいずれかのロケールで、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD に含まれている Solaris Web Start 2.1.0 (Solaris\_8/EA/installer または Solaris\_8/EA/products/SunScreen\_3.1\_Lite/installer) を起動すると、英語で表示されるメッセージがありますが、そのメッセージの先頭に「XX」、末尾に「\_XX」という不要な文字が表示されます。

例：ja ロケールで installer を起動した場合

```
ja_SunScreen 3.1 Lite is Early Access Software_ja
ja_Please select one or both of the following_ja
```

回避方法：不要な文字を無視するか、C ロケールで installer を起動してください。

## Solaris Product Registry を使用して SunScreen をアンインストールすると、パッケージの削除に失敗する (バグ ID: 4336957)

システムにインストールした SunScreen 3.1 Lite を Solaris Product Registry を使用してアンインストールすると、パッケージの削除に失敗してアンインストールできません。エラーメッセージがログファイルに出力されます。

回避方法：pkgrm (1M) コマンドを使用して、SunScreen 3.1 Lite のパッケージをアンインストールしてください。

## スワップ不足によって Solaris Web Start 2.x インストールが失敗する (バグ ID: 4166394)

同梱されている CD を、その CD に含まれている Solaris Web Start 2.x (installer) を使用して日本語ロケール (日本語表示) でインストールしているときに、スワップ容量の不足のためインストールが失敗することがあります。この場合、コンソール

にエラーメッセージが表示されますが、エラーメッセージは次のように文字化けしています。

```
RunCmd Error:java.io.IOException: ??????????????????????
```

回避方法：同梱されている CD に含まれている Solaris Web Start 2.x は、実行時におよそ 50M バイトのメモリーを消費します。Solaris Web Start 2.x を使用してインストールする場合は、`swap -s` コマンドなどで空きスワップ容量を確認し、不足している場合は、メモリーの消費量が多いアプリケーションを終了するか、スワップファイルを作成してスワップ領域を追加してください。詳細は、`swap (1M)` のマニュアルページを参照してください。

## [日本語環境のみ] デフォルトロケールに関係なくインストールログが EUC テキストファイルで生成される

選択したデフォルトロケールに関係なく、`install_log`、`upgrade_log` などの Solaris のインストールログファイルは、EUC (ja ロケール) テキストとして生成されます。

回避方法：コードコンバータで変換して参照するか、テキストエディタなどの GUI ツールを ja ロケールで起動して参照してください。

## [日本語環境のみ] Solaris 8 でサポートされる日本語入力システム

Solaris 8 では、日本語入力システムとして、ATOK12、Wnn6、ATOK8、cs00 を利用できます。これらは LANGUAGES CD (cs00 の一部は SOFTWARE CD) に含まれており、「エンドユーザーシステムサポート」以上のソフトウェアグループでデフォルトでインストールされます。

ただし、複数言語入力環境で利用できる日本語入力システムは、ATOK12 または cs00 です。Wnn6 および ATOK8 は、複数言語入力環境では利用できません。

## [日本語環境のみ] 日本語 106/109 キーボードに関する注意事項

デフォルトのキーボードは US-English タイプになっているため、構成用補助ブートフロッピーディスクの「Identified Devices」画面で以下のように表示されます。

```
ISA: System keyboard (US-English)
```

日本語 106/109 キーボードを使用している場合は、F4-Device Tasks を選択し、「Set Keyboard Configuration」で「Japanese (106)」を選んでください。このとき、次のような指示が表示されます。「without Windows keys」を選んで、F2 キーを押してください。

```
[ ] with Windows keys  
[ ] without Windows keys
```

設定後は、「Identified Device」画面で次のように表示されます。

```
ISA: System keyboard (Japanese(106))
```

注 - 日本語 109 キーボードに追加された Windows キーは、Solaris では使用できません。日本語 109 キーボードでは、日本語 106 キーボードと同じ機能を利用できません。

## [日本語環境のみ] ブート時に周辺デバイスの設定不備を告げるメッセージが表示される

日本語 106/109 キーボードを使用しているシステムの場合、Device Configuration Assistant で「Japanese (106)」を選択しないでインストールを行うと、Solaris のブート時に、周辺デバイスの設定不備の可能性を示す次のメッセージが表示されます。

```
The peripheral device configuration may be incomplete or incorrect...
```

この場合、Japanese (106) として設定し直してください。次回のブートから、このメッセージは表示されなくなります。

## [日本語環境のみ] 日本語キーボード入力

Solaris をインストールする前に日本語 106 キーボードを利用すると、一部キーボード上の印字と実際の入力が異なります。次の表を参照してください。

表 3-1 日本語キーボード上の印字と実際の入力文字

OADG 規格の日本語キーボード上の印字	実際の入力文字
“	@
&	^
’	&
(	*
)	(
Shift-0	)
=	-
~	+
^	=
¥	割り当てなし
	割り当てなし
@	[
’	{
[	]
{	}
+	:
:	’
*	“
]	\
}	
-	割り当てなし
\	割り当てなし
半角 / 全角	~
Shift-半角 / 全角	’

---

## 英語および日本語以外のロケールに関するバグ情報

英語および日本語以外のロケールをインストールする場合に発生するバグについて説明します。

### フランス語およびドイツ語のカスタム画面の文字が翻訳されていない (バグ ID: 4368056)

Solaris Web Start 3.0 で、インストールの表示言語としてフランス語またはドイツ語を選択した場合、パッケージのカスタマイズに関するメッセージが英語で表示されます。

回避方法: 英語のメッセージを使用してカスタマイズしてください。

### 無効な言語オプション **Russia (KOI8-R)** がある (バグ ID: 4342970)

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD から対話式インストールを起動すると、言語を選択するプロンプトが表示されますが、その中に無効な言語オプション **Russia (KOI8-R)** があります。この言語オプションを選択しても、インストールは英語で行われます。なお、インストール後のシステムのデフォルトロケールは `ru_RU.KOI8-R` に設定されますので、`/etc/default/init` を編集してロケールを変更してください。

### トルコ語ロケールで対話式インストールができない (バグ ID: 4359095)

Solaris 8 SOFTWARE 1 of 2 CD を使用して、トルコ語ロケールで対話式インストールを行うことができません。次のエラーメッセージが表示されます。

```
couldn't set locale correctly
```

回避方法: C ロケールでインストールを起動し、トルコ語ロケールを追加してください。

## ヨーロッパ言語ロケールのシステムをアップグレードすると、ログにエラーメッセージが出力されることがある (バグ ID: 4230247、4225787)

Solaris 7 3/99、Solaris 7 5/99、Solaris 7 8/99、Solaris 7 11/99 オペレーティング環境から Solaris 8 1/01 オペレーティング環境へのアップグレードを行うと、次のようなエラーメッセージがアップグレードログに出力されることがあります。

```
Doing pkgadd of SUNWplow to /.
pkgadd: ERROR: unable to create package object
</a/usr/openwin/share/locale/de.ISO8859-15>.
  file type <s> expected <d> actual
  unable to remove existing directory at
</a/usr/openwin/share/locale/de.ISO8859-15>
....
Installation of <SUNWplow> partially failed.
pkgadd return code = 2

Doing pkgadd of SUNWpldte to /.
WARNING: /a/usr/dt/appconfig/types/de.ISO8859-15
may not overwrite a populated directory.
.....
pkgadd: ERROR: /a/usr/dt/appconfig/types/de.ISO8859-15
could not be installed.
.....
Installation of <SUNWpldte> partially failed.
pkgadd return code = 2
```

この警告は、Solaris 8 1/01 で、アップグレードログに示されたディレクトリがシンボリックリンクからディレクトリに変わったパッケージがインストールされ、さらにディレクトリがシンボリックリンクのままのパッケージもインストールしようとするために発生します。ただし、このエラーによってシステムのオペレーティング環境に問題は発生しません。

回避方法：問題は発生しないので、上記のエラーメッセージは無視してください。

## スウェーデン語ロケール: インストール中に英語のダイアログボックスが表示される (バグID: 4300655)

Solaris 対話式インストールのダイアログにおいて、タイトルはスウェーデン語で表示されますが、以下に示す部分以降がスウェーデン語に翻訳されていないため、英語で表示されます。

```
You'll be using the initial option .....
```

## フランス語およびイタリア語のインストールウィザードで、**CD** タイトルが {0} と表示される (バグ ID: 4302549)

フランス語およびイタリア語のロケールで、本来は CD のタイトルが表示されるべき箇所に {0} と表示されることがあります。

## de\_AT.ISO8859-15 ロケールおよび fr\_BE.ISO8859-15 ロケールで、対話式 **GUI** インストール (suninstall) が失敗する (バグ ID: 4305420)

上記のロケールを使用して Solaris 8 オペレーティング環境をインストールすると、一部のインストール画面が英語で表示されます。また、これらの言語に翻訳されたパッケージが一部インストールされません。次のような警告メッセージが表示されます。

```
XView warning: "de" kann nicht als Sprachumgebungs-Kategorie
Ausgabesprache (gesetzt über Umgebungsvariable(n)) verwendet
werden, wenn Standardspracheauf"de_AT.ISO8859-15" gesetzt ist
(Server Package)
XView warning: Requested input method style not supported.
(Server package)
```

回避方法：ドイツ語またはフランス語の ISO8859-1 ロケールを使用して、Solaris オペレーティング環境をインストールしてください。

## ドイツ語ロケール: **Web Start Kiosk** でプロキシを設定するダイアログの「**OK**」ボタンおよび「**Cancel**」ボタンが「**Undefined**」と表示される (バグ ID: 4306260)

Web Start Kiosk のプロキシを設定するダイアログに「OK」ボタンと「Cancel」ボタンがありますが、ドイツ語の Web Start Kiosk ではこれらのボタンが「Undefined」と表示されます。左側のボタンが「OK」で、右側のボタンが「Cancel」ボタンです。





## 実行時の注意事項とバグ情報

---

この章では、Solaris 8 実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれる Solaris Web Start 3.0 の Kiosk および Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) に含まれている『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。また、既存のバグ情報・注意事項の一部についても、最新の内容に変更されています。

- バグ ID: 4384080
- バグ ID: 4386225
- バグ ID: 4390236
- バグ ID: 4386436
- バグ ID: 4338963
- バグ ID: 4391812
- バグ ID: 4391781、4389039

---

注 - 今回の Solaris の製品名称は「Solaris 8 1/01」ですが、コード、パス名、パッケージパス名などで、「Solaris 2.8」または「SunOS 5.8」という名称が使用されていることがあります。コード、パス、パッケージパスなどを実際に入力または使用するときには、必ずマニュアル中に記述されている名称に従ってください。

---

---

## セキュリティに関するバグ情報

### "here-documents" に対して `csch` が推測可能な `tmpfiles` を作成する (バグ ID: 4384080)

特権ユーザーが `csch` で "here-documents" (リダイレクト "<<") を使用すると、非特権ユーザーによるセキュリティ侵害の可能性が発生します。

回避方法 : 特権ユーザーは、`csch` で "here-documents" を使用しないでください。

---

## ディスクレスクライアントに関するバグ情報

### マルチホームサーバー上に、`smdiskless` を使用してディスクレスクライアントを作成できない (バグ ID: 4390236)

マルチホームサーバー上でディスクレスクライアントを設定する場合は、そのディスクレスクライアントと同じサブネット上にあるネットワークインタフェースを使用して設定してください。デフォルトでは、ディスクレスクライアントのファイルシステムは、OS サーバーの一次ネットワークインタフェースを使用してマウントされます。

マルチホームサーバー上の各ネットワークインタフェースは、ホスト名と IP (インターネットプロトコル) アドレスを持っています。ローカルホストインタフェースのホスト名を特定するには、そのサーバー上で `uname -n` と入力します。

`smdiskless` コマンドで管理ドメインを指定するには、`-D type:/host_name/domain_name` オプションを使用します。各記号の意味は、以下を参照してください。

- `type` には、NIS、NIS+、file のいずれかを指定します。
- `host_name` には、ホストマシン名またはネットワークインタフェースのホスト名を指定します。
- `domain_name` には、管理ドメインの名前を指定します。

-D オプションを指定しない場合、SMC はローカルサーバー上のファイルドメインを想定します。

ネームサービスサーバーと OS サーバーが同じマシンでない場合は、-o *host\_name* オプションを使用して OS サーバーの名前を指定してください。この指定がない場合、*smdiskless* は、OS サーバーは -D オプションで指定されたマシンと同じであるとみなします。

詳細については、*smdiskless(1M)* のマニュアルページを参照してください。

## ネームサーバーの有効範囲

ネームサービスサーバーとマルチホーム OS サーバーが同じマシンである場合は、そのサーバー上で実行した `uname -n` コマンドの戻り値を *host\_name* に指定してください。-o オプションには、ディスクレスクライアントと同じサブネット上にあるネットワークインタフェースのホスト名を指定してください。

ネームサービスサーバーとマルチホーム OS サーバーが別々のマシンである場合は、ネームサービスサーバー上で実行した `uname -n` コマンドの戻り値を *host\_name* に指定してください。-o オプションには、ディスクレスクライアントと同じサブネット上にある OS サーバーのネットワークインタフェースのホスト名を指定してください。

## ファイルの有効範囲

マルチホーム OS サーバーの「一次ネットワーク」インタフェースがディスクレスクライアントと同じサブネット上にあり、-D オプションを指定しない場合 (ファイルの有効範囲が想定される場合) は、*smdiskless* は正常に機能します。

マルチホーム OS サーバーがディスクレスクライアントと同じサブネット上にない場合は、OS サーバーとディスクレスクライアントのデータベースファイルを、以下のように編集してください。

---

注 - 以下の設定内容はすべて同じ行に指定してください。

---

1. サーバーの `/etc/bootparams` ファイルを変更します。

編集前:

```
diskless_client root=server:/export/root/diskless_client \  
swap=server:/export/swap/diskless_client swapsize=:32 \  

```

```
dump=server:/export/dump/diskless_client dumpsize=:32 \  
boottype=:di
```

*server* は OS サーバーのホスト名、*net\_interface* はディスクレスクライアントのサブネット上のネットワークインタフェースのホスト名、*diskless\_client* はディスクレスクライアントのホスト名を示します。

注 - 「dump」および「dumpsize」の項目は、「-x dump」オプションまたは「-x dumpsize」オプションを指定した場合にのみ含まれます。

編集後:

```
diskless_client root=net_interface:/export/root/diskless_client \  
swap=net_interface:/export/swap/diskless_client swapsize=:32 \  
dump=net_interface:/export/dump/diskless_client dumpsize=:32 \  
boottype=:di
```

注 - *net\_interface* (ホスト名) とその IP アドレスは */etc/hosts* ファイルに記載されている必要があります。

2. サーバー上で *in.rarpd* および *rpc.bootparamd* を再起動します。*in.rarpd -a* と入力するか、ディスクレスクライアントが使用するネットワークインタフェース上の *rparpd* デーモンを起動してください。
3. クライアントの */export/root/diskless\_client/etc/vfstab* ファイルを編集します。

編集前:

```
server :/export/root/diskless_client - / nfs - - rw  
server :/export/swap/diskless_client - /dev/swap nfs - - -  
server :/export/exec/Solaris_8_sparc.all/usr - /usr nfs - -ro
```

編集後:

```
net_interface:/export/root/diskless_client - / nfs - - rw
net_interface:/export/swap/diskless_client - /dev/swap nfs - - -
net_interface:/export/exec/Solaris_8_sparc.all/usr - /usr nfs - -ro
```

## GUI 全般

Solaris のグラフィカルユーザー インタフェース (GUI) 全般に関するバグ情報と注意事項について説明します。

### [日本語環境のみ] ja および ja\_JP.PCK ロケールにおけるフォントサイズに関する注意事項

Solaris 8 10/00 から ja および ja\_JP.PCK ロケールでも xxs と xs に対応する日本語のフォントサイズを利用できるようになりました。

そのため、今まで CDE にて xxs および xs を利用していた環境では、アプリケーションが表示するフォントのサイズが今までとは異なります。必要に応じて、フォント・スタイル・マネージャを使用してデフォルトフォントのサイズを適切な大きさへ変更してください。

### [日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールとフォントに関する注意事項

UTF-8 ロケールでは、複数のフォントを組み合わせて各コードポイントのグリフを表示させています。このため、1つのコードポイントに対して複数のフォントのグリフが対応する場合があります。ja\_JP.UTF-8 では、以下の表に示す優先順位でフォントを使用するように実装されています。

キャラクタセット	フォント
ISO8859-1:GL(ASCII)	JISX0201.1976-0
ISO8859-1:GR	ISO8859-1

キャラクタセット	フォント
ISO8859-5:GR	ISO8859-5
ISO8859-7:GR	ISO8859-7
ISO8859-2:GR	ISO8859-2
ISO8859-4:GR	ISO8859-4
ISO8859-9:GR	ISO8859-9
ISO8859-15:GR	ISO8859-15
JISX0208.1983-0	JISX0208.1983-0
JISX0201.1976-0:GR	JISX0201.1976-0
JISX0212.1990-0:GR	JISX0212.1990-0
KSC5601.1992-3:GLGR	KSC5601.1992-3
GB2312.1980-0:GR	GB2312.1980-0
BIG5-1:GLGR	BIG5-1
TIS620.2533-0:GR	TIS620.2533-0
ISO8859-6:GR	ISO8859-6
ISO8859-8:GR	ISO8859-8

たとえば、U+0410 (Cyrillic Capital Letter A) は、ISO8859-5 と JISX0208.1983 など複数のフォントにグリフが存在しますが、上記のルールによって ISO8859-5 のフォントが実際に使用されます。また、CJK Unified Ideographs エリアにある漢字で使用されるフォントは、JISX0208.1983 -> JISX0212.1990 -> KSC5601.1992-3 -> GB2312.1980 -> BIG5-1 の優先順位で使用されます。

なお現時点では、UTF-8 のコードポイントと使用するフォントの情報はシステム側でハードコードされており、ユーザーがカスタマイズすることはできません。



**注意** - ASCII (Basic Latin) 領域 (U+21 - U+7E) では、ISO8859-1 フォントではなく、JISX0201.1976 フォントが使用されます。これは、ja\_JP.UTF-8 ロケールでもっとも使用頻度が高いと思われる ASCII と漢字の組み合わせを表示した場合、フォントのバランスが悪くなるのを避けるためです。ただしこのために、逆斜線 (U+5C) に円記号のグリフが使われるという問題があります。この問題を避けるには、次の設定を行なってください。

/usr/openwin/lib/locale/ja\_JP.UTF-8/XLC\_LOCALE の以下の次の行

```
#      fs0 class (7 bit ASCII)
fs0    {
        charset      ISO8859-1:GL
        # font       ISO8859-1:GL; JISX0201.1976-0:GL
        font         JISX0201.1976-0:GL; ISO8859-1:GL
    }
```

を以下のように変えてください (5 行目をコメントアウトし、4 行目のコメントを外します)。

```
#      fs0 class (7 bit ASCII)
fs0    {
        charset      ISO8859-1:GL
        font         ISO8859-1:GL; JISX0201.1976-0:GL
        # font       JISX0201.1976-0:GL; ISO8859-1:GL
    }
```

設定が終わったら、Solaris CDE セッションから一度ログアウトし、再度ログインしてください。

## [日本語環境のみ] Solaris CDE アプリケーションと ja\_JP.UTF-8 ロケールのフォントに関する注意事項

Solaris CDE セッションでは、起動時にアプリケーションが使用するデフォルトフォントのリソースを、通常以下のように設定します。

```
*DtEditor*textFontList: -dt-interface user-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*Font:                  -dt-interface user-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*FontList:              -dt-interface system-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*FontSet:               -dt-interface user-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*XmTextField*FontList: -dt-interface user-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*buttonFontList:        -dt-interface system-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*labelFontList:         -dt-interface system-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*systemFont:            -dt-interface system-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
*textFontList:          -dt-interface user-medium-r-normal-m*-*-***-***-***-***:
```

```
*userFont: -dt-interface user-medium-r-normal-m*-*-**-*-*-*-*-*:;
```

ただし、ja\_JP.UTF-8 ロケールを含む UTF-8 ロケールでは、端末エミュレータなど、特定の比率をもった固定幅フォントを要求するアプリケーションで表示が崩れるという問題を回避するために、CDE で使用するデフォルトフォントを次のように設定しています。

```
*DtEditor*textFontList: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*Font: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*FontList: -dt-interface system-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*FontSet: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*XmText*FontList: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*XmTextField*FontList: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*buttonFontList: -dt-interface system-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*labelFontList: -dt-interface system-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*systemFont: -dt-interface system-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*textFontList: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
*userFont: -dt-interface user-medium-r-normal-m*utf-*-*-**-*-*-*-*-*:;
```

デフォルトの設定で Solaris CDE を使用している場合は問題ありませんが、スタイル・マネージャを使用してフォントのサイズを変更した後にロケールを変更した場合、意図しないフォントが使用され、端末エミュレータなどのアプリケーションで表示がおかしくなる場合があります。

このような場合には、スタイル・マネージャのフォントの設定ダイアログでサイズを選択し、「了解」ボタンを押した後に CDE セッションから一度ログアウトし、再度ログインしてください。このような問題は、ja ロケールまたは ja\_JP.PCK ロケールから ja\_JP.UTF-8 ロケールへ移行した場合、ja\_JP.UTF-8 ロケールから ja ロケールまたは ja\_JP.PCK ロケールへ移行した場合の双方で起こる可能性があります。

## [日本語環境のみ] DPS 上でのユーザー定義文字のアウトラインフォント指定に関する注意事項

DPS 上でのユーザー定義文字のアウトラインフォントを指定するための /usr/openwin/lib/locale/<locale>/OWfontpath へのフォントパスの追加では、存在するディレクトリを指定してください。正しく指定されていない場合は、dtlogin で文字が表示できなくなります。



## 共通デスクトップ環境 (CDE)

Solaris 共通デスクトップ環境 (CDE) の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

### Solaris 8 オペレーティング環境で Motif プログラムをコンパイルする時に問題が発生する

Solaris 8 オペレーティング環境で Motif プログラムをコンパイルする時に、Solaris 2.4、2.5、2.5.1、2.6 のいずれかのオペレーティング環境でコンパイルした Motif API を使用している共有ライブラリにリンクすると、コアダンプが発生します。

上記の旧バージョンの Solaris オペレーティング環境でコンパイルされた共有ライブラリは Motif 1.2 を使用しており、Solaris 8 オペレーティング環境でコンパイルされたプログラムは Motif 2.1 を使用しているためです。これはバイナリ互換の問題ではないので、Solaris 2.4、2.5、2.5.1、2.6 オペレーティング環境でコンパイルしたアプリケーションは、Solaris 8 オペレーティング環境において問題なく動作します。

回避方法 : Motif ライブラリに直接リンクされている古いバージョンの共有ライブラリがある場合に、Motif ライブラリとその古いバージョンの共有ライブラリの両方にリンクされているプログラムを、Solaris 8 オペレーティング環境でコンパイルするには、次のようなコンパイル行を使用してください。

```
% cc foo.c -o foo -DMOTIF12_HEADERS -I/usr/openwin/include \  
-I/usr/dt/include -lXm12 -lXt -lX11
```

*foo* には、コンパイルするプログラムの名前を指定してください。

### ボリュームマネージャが CD-ROM のマウントに失敗することがある (バグ ID: 4355643)

データレイアウトが通常と異なる CD-ROM は、自動的にマウントされないことがあります。この場合、CD-ROM をドライブに挿入した後に、ファイル・マネージャのウィンドウに CD-ROM の内容が表示されません。

回避方法 : 手動で CD-ROM をマウントしてください。

1. スーパーユーザーになります。
2. ボリュームマネージャを停止します。

```
# /etc/init.d/volmgt stop
```

3. CD-ROM をマウントします。

```
# mount -F hsfs -r device_pathname /mnt
```

*device\_pathname* は、CD-ROM ドライブが接続されているシステム中のパス名です (例: /dev/dsk/c0t6d0s0)

---

注 - 通常 CD-ROM ドライブは製造時に c0t6d0s0 または c0t2d0s0 に接続されていますが、上記のコマンドに使用するパス名が正しいことを確認してください。

---

4. ボリュームマネージャを起動します。

```
# /etc/init.d/volmgt start
```

## **PDA Sync がデスクトップ上の最後のエントリを削除できない (バグ ID: 4260435)**

デスクトップから最後のエントリ (たとえば、カレンダーの最後のアポイントメント、アドレス帳の最後のアドレスなど) を削除した後に、PDA デバイスに対して同期処理を実行すると、最後のエントリが PDA デバイスからデスクトップに復元されてしまいます。

回避方法: 同期処理を実行する前に、PDA デバイスから最後のエントリを手動で削除してください。

## **国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスとのデータ交換を PDA Sync がサポートしていない (バグ ID: 4263814)**

国際化 (複数バイト文字) 対応の PDA デバイスと Solaris CDE とで、日本語などの複数バイト文字のデータを交換すると、両方の環境において、交換した複数バイト文字データが壊れる場合があります。

回避方法 : PDA Sync を実行する前に必ず、PDA デバイスに付属しているバックアップ機能やバックアップユーティリティを使用して、PC などにデータの完全なバックアップをとってください。間違ってデータ交換をしてしまった場合には、バックアップデータからデータを復旧させてください。

## PDA Sync のオンラインヘルプ内での操作が無効になる (バグ ID: 4260411)

PDA Sync のメインウィンドウ以外のウィンドウから、ヘルプボタンを使用してヘルプを起動した場合、表示されたヘルプに対する操作ができないことがあります。

回避方法 : PDA Sync のオンラインヘルプは、メインウィンドウから起動したものを使用してください。

## dtmail で不在返信メッセージを作製すると、dtmail を起動したロケールと同じエンコーディングで不在返信メッセージが保存される (バグ ID: 4394110)

不在返信メッセージを作製する場合、dtmail はその内容を (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングではなく、dtmail を起動したエンコーディングで保存します。このため、不在返信メールを受信した際に、メールの内容が文字化けすることがあります。

回避方法 : 不在返信メッセージが保存されている .vacation.msg ファイルを、次のように入力して (日本語のメールの場合) ISO-2022-JP エンコーディングに変更し、保存し直します。

```
% /usr/bin/iconv -f org_locale -t ISO-2022-JP $HOME/.vacation.msg \  
> $HOME/.vacation.msg_tmp  
% /usr/bin/cp $HOME/.vacation.msg_tmp $HOME/.vacation.msg
```

上記の *org\_locale* には、iconv で使用されるコードセット (dtmail で作成した .vacation.msg ファイルのエンコーディングに対応) を指定します。日本語環境では、次の3つのいずれかです。

- eucJP (ja ロケールの場合)
- PCK (ja\_JP.PCK ロケールの場合)
- UTF-8 (ja\_JP.UTF-8 ロケールの場合)

## SmartCard Console 1.0 のヘルプの情報に誤りがある (バグ ID: 4386225)

SmartCard Console 1.0 のヘルプの「解説」の部分に誤りがあります。

回避方法 : 以下のように読み換えてください。

- (誤) Solaris Management Console 2.0 について
- (正) SmartCard Console 1.0 について
- (誤) Solaris Management Console 2.0 Alpha
- (正) SmartCard Console 1.0

### [日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケール および ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項

- ボリュームマネージャのメッセージを表示するためのダイアログウィンドウは XView™ アプリケーションなので、ja\_JP.PCK ロケールおよび ja\_JP.UTF-8 ロケールでは英語表示で起動されます。
- ja ロケールで登録したカレンダーは、ja\_JP.PCK ロケール および ja\_JP.UTF-8 ロケールで起動されたカレンダー・マネージャで見ることができません (ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールで作成した場合も同様です)。
- ja\_JP.PCK ロケール または ja\_JP.UTF-8 ロケールでメールファイルを印刷する場合、\$HOME/.dt/types に次のような内容のファイルを dtmail.dt というファイル名で作成してください。

次の例は、Sun が一般的にサポートしている EUC 対応のプリンタを想定して設定しています。

iconv(1) を利用する場合 :

iconv でプリンタがサポートする符号化方式に合わせて変更してください。指定方法については、iconv(1)、iconv(3) のマニュアルページを参照してください。

例 1 : ja\_JP.PCK ロケールで印刷する場合

```
ACTION Print
{
    LABEL          Print
    ARG_TYPE       DTMAIL_FILE
```

(続く)

```

        TYPE          COMMAND
WINDOW_TYPE        NO_STDIO
EXEC_STRING        sh -c ' \
                   dtmailpr -p -f %(File)Arg_1% | \
                   iconv -f PCK -t eucJP | \
                   dtlp -u %(File)Arg_1%;'
    }

```

例 2: ja\_JP.UTF-8 ロケールで印刷する場合

```

ACTION Print
{
    LABEL          Print
    ARG_TYPE       DTMAIL_FILE
    TYPE           COMMAND
    WINDOW_TYPE    NO_STDIO
    EXEC_STRING    sh -c ' \
                   dtmailpr -p -f %(File)Arg_1% | iconv -f \
                   UTF-8-Java -t eucJP | dtlp -u %(File)Arg_1%;'
}

```

mp(1) を使用する場合:

ja、ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8 ロケール用の dtmail.dt を作成する必要はありませんが、ja\_JP.UTF-8 の場合にフォントが Bitmap から作成され印刷の質が劣るという問題と、バナー情報の日本語が正しく表示されないという問題があります。

```

ACTION Print
{
    LABEL          Print
    ARG_TYPE       DTMAIL_FILE
    TYPE           COMMAND
    WINDOW_TYPE    NO_STDIO
    EXEC_STRING    sh -c ' \
                   dtmailpr -p -f %(File)Arg_1% | mp \
                   | dtlp -u %(File)Arg_1%;'
}

```

**[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールでは、カレンダー (dtcm) から印刷できない (バグ ID: 4092495)**

ja\_JP.UTF-8 ロケールでは、カレンダー (dtcm) からの印刷はできません。

## **[日本語環境のみ] メールプログラムで、日本語をキーワードとして検索できない (バグ ID: 1263296)**

メールプログラムで検索を行う際、検索フィールドに日本語が含まれていると、検索が正しく行われません。

メールファイルに該当する文字列が存在する場合でも、「一致するものではありません」と表示されます。

## **[日本語環境のみ] 移動メニューの設定で追加したメールボックス名が文字化けする (バグ ID: 4066565)**

Solaris CDE 1.2 より前のメールプログラムで、オプションメニューの「移動メニューの設定」で登録したメールボックス名に日本語文字列が含まれている場合、Solaris CDE 1.2 以降のメールプログラムではそれらのメールボックス名が文字化けすることがあります。

回避方法 : Solaris CDE 1.2 あるいは Solaris CDE 1.3 のメールプログラムで、再度登録してください。

## **[日本語環境のみ] メールプログラムのツールバーボタンに不要なニーモニックが表示される (バグ ID: 4064006)**

メールプログラムのツールバーボタンをテキスト表示に設定している場合、ニーモニックが表示されていますが、キーボード上でこれらのツールバーを操作することはできません。

## **[日本語環境のみ] 日本語名のファイルが添付されたメールを転送する際、ファイル名が復号化されないで表示される (バグ ID: 4305194)**

日本語ファイル名を持つファイルが添付されたメールを受け取った場合、このメールを転送しようとする、添付ファイルのファイル名が復号化されないで表示されることがあります。転送する前に復号化されずに表示されていても、転送先では復号化された状態で表示されるので、そのままそのメールを転送しても問題はありません。

## [日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールで本文に韓国語等の他言語を含むメールを送信する場合の注意事項

ja\_JP.UTF-8 ロケールでメールを送信する際のエンコーディングは、デフォルトで ISO-2022-JP です。そのため、英語および日本語だけを含む場合は問題ありませんが、韓国語等の他言語を含む場合、受信側で文字化けが発生する可能性があります。

回避方法：新規メッセージウィンドウの「書式」メニューの「文字セットを変更」で「UTF-8」に変更してから、メールを送信してください。ただし、「UTF-8」に変更した場合でも、サブジェクトの文字セットは変更できません。サブジェクトには英語または日本語だけを使用する必要があります。なお、新規メッセージウィンドウでは、「Ctrl-Y」キーによる文字セットの変更は機能しません。

## [日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールでウィンドウリスト (sdtwinlst) およびグラフィカル・ワークスペース・マネージャ (sdtgwm) を使用する際の注意事項

バグ 4343812 が原因で、次の問題が発生します。

- 「ウィンドウ」メニューから「ウィンドウを閉じる」または「アプリケーションを終了」を実行した時に、sdtwinlst/sdtgwm がコアダンプすることがあります。
- 複数言語入力環境において、ステータスウィンドウを切り替えると、sdtwinlst がコアダンプします。

ja ロケールおよび ja\_JP.PCK ロケール上で sdtwinlst および sdtgwm を使用する場合には、この問題は起こりません。

---

## OpenWindows

OpenWindows™ 実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

### OpenWindows のアプリケーション起動時の注意事項

OpenWindows のアプリケーションを起動すると、「将来のバージョンでは OpenWindows 環境はサポートされなくなります。」という内容のメッセージウイ

ンドウが表示されます。このメッセージの表示を制限するには、メッセージウィンドウ中の説明に従ってください。

## ファイルマネージャがフロッピーディスクのマウントに失敗する (バグ ID: 4329368)

SCSI リムーバブルメディアデバイスが装着されているシステムのフロッピーディスクドライブにフロッピーを挿入し、OpenWindows のファイルマネージャで「ファイル」メニューから「フロッピーのチェック」を選択すると、ファイルマネージャは /floppy ディレクトリにフロッピーディスクをマウントしますが、フロッピーディスクの内容は表示されません。また、フロッピーをフォーマットするためのオプションとフロッピーを取り出すためのオプションが、ファイルマネージャの「ファイル」メニュー中に表示されません。

回避方法 : 次のいずれかの方法を実行してください。

- フロッピーディスクの内容を表示するには：
  1. パスをアイコン表示して / フォルダをクリックします。
  2. / フォルダの内容が表示されているウィンドウで floppy フォルダをダブルクリックします。
  3. /floppy フォルダの内容が表示されているウィンドウで floppy0 フォルダをダブルクリックします。

- フロッピーディスクをフォーマットするには：

1. フロッピーディスクをマウント解除します。

```
% volrmmount -e floppy0
```

*floppy0* には、フロッピーディスクの (/floppy ディレクトリ中の) フォルダ名を指定します。

2. フロッピーディスクをフォーマットします。

```
% fdformat floppy0
```

- フロッピーディスクに新しいファイルシステムを作成するには：

---

注 - フロッピーディスクをすでにマウント解除している場合は、手順 1 を飛ばして手順 2 に進んでください。

---



1. フロッピーディスクをマウント解除します。

```
% volrmmount -e floppy0
```

*floppy0* には、フロッピーディスクの (*/floppy* ディレクトリ中の) フォルダ名を指定します。

2. フロッピーディスクにファイルシステムを作成します。

- フロッピーディスクに新しい UFS ファイルシステムを作成する場合は、次のように `newfs` コマンドを使用します。

```
% newfs /vol/dev/aliases/floppy0
```

- フロッピーディスクに新しい PCFS ファイルシステムを作成する場合は、次のように `mkfs` コマンドを使用します。

```
% mkfs -F pcfs /vol/dev/aliases/floppy0
```

3. フロッピーディスクをマウントします。

```
% volrmmount -i floppy0
```

- フロッピーディスクを取り出すには：

```
% eject floppy0
```

このバグ 4329368 が発生しないようにするには、パッチ 109464-01 を適用してください。

## アイコンエディタが強制的に終了することがある (バグ ID: 4298474)

アイコンエディタでメニューの編集からカットおよびペーストを選択、実行すると、アイコンエディタが強制終了することがあります。

回避方法：CDE のアイコン・エディタ、`/usr/dt/bin/dticon` を使用してください。

## アーカイブライブラリ

XView および OLIT のアーカイブライブラリは、C ロケールでだけサポートされています。

### **[日本語環境のみ] 日本語 OpenWindows の起動とロケールの制限事項**

日本語 OpenWindows 環境にログインするには、初めにログイン画面の言語選択項目から ja/japanese を選択してください。言語として ja/japanese 以外が選択された場合は、セッション項目に OpenWindows の項目は表示されません。一方、初めにセッション項目で OpenWindows を選択してから ja/japanese 以外の項目を選択した場合には、CDE 環境へのログイン画面が表示されます。

ワークスペースプロパティで英語環境を日本語環境に切り替える方法は、サポートされていません。また、コマンド行ログインから ja ロケールで起動する場合には、環境変数 LANG が ja に設定されている必要があります。

### **[日本語環境のみ] ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8、ja\_JP.eucJP ロケールに関する注意事項**

XView、OLIT は CSI (Code Set Independent) 対応でないため、それらのツールキットを使って作成したアプリケーションの、ja\_JP.PCK および ja\_JP.UTF-8 ロケールでの動作は保証されません。また、リソースの設定に関する制限事項のために、ja\_JP.eucJP ロケールでの動作も保証されません。したがって、日本語 OpenWindows 環境を ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8、ja\_JP.eucJP ロケールで起動することもサポートされていません。また、将来においてもサポートの予定はありません。

動作は保証されませんが、ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8、または ja\_JP.eucJP ロケールで起動した Solaris CDE 環境上で、XView、OLIT を使ったアプリケーションを ja ロケールとして起動することができます。

例として、コマンドツールの起動方法を説明します。端末エミュレータ上で、次のように入力してください。

起動方法：

```
% env LANG=ja /usr/openwin/bin/cmdtool -lc_basicalocale ja \  
-lc_displaylang ja -lc_inputlang ja -lc_timeformat ja -lc_numeric ja
```

また、`-lc_*` オプションを使えないアプリケーションでは、`-xrm` オプションを使って `OpenWindows.basicLocale` などのリソースを `ja` に指定する方法もあります。詳しくは `xview(7)` のマニュアルページを参照してください。

---

注・アプリケーションによっては正しく動作しない場合もあります。この方法は `ja_JP.PCK` または `ja_JP.UTF-8` ロケール環境で、`ja` ロケールとしてアプリケーションを動作させるので、`ja` ロケールと `ja_JP.PCK` または `ja_JP.UTF-8` ロケール間の日本語データには互換性がないことを十分に認識した上で処理してください。たとえば、`ja_JP.PCK` ロケール上で作成した日本語のデータファイルを `ja` ロケールで起動したアプリケーションで処理しないように注意してください。また、日本語のファイル名も、異なるロケール間では正しく処理できません。

---

## [日本語環境のみ] 日本語 OpenWindows 初期画面のヘルプビューア

日本語 OpenWindows の初期画面ではヘルプビューアは起動されません。ヘルプビューアで『ヘルプハンドブック』を参照する場合には、ワークスペースメニューから「ヘルプ...」を選択してください。

## [日本語環境のみ] pageview に関する注意事項

複雑なグラフィックを含むドキュメントや、サイズの大きなファイルを `pageview` で表示しようとする、通常のファイルを表示するよりも時間がかかるため、時間切れによって表示できない場合があります。この場合、引数 `-timeout` を 180 に設定して `pageview` を実行し直すか、イメージツールを使用してください。

## [日本語環境のみ] mp コマンドで印刷する場合の制限事項

`mp(1)` ではユーザー定義文字、JIS X 0212、IBM 選定ユーザー定義文字、JIS X 0208 13 区の NEC 特殊文字などの印刷はサポートされていません。これらの文字を印刷する場合は `jpostprint(1)` を使用してください。

## [日本語環境のみ] EUC コードセット 3 の使用上の制限事項

EUC コードセット 3 (JIS X 0212) には、以下のような制限事項があります。

- 書体は平成明朝体 W3 のみです。
- 日本語 OpenWindows DeskSet、あるいは `jtops(1)`、`mp(1)` を使用して、EUC コードセット 3 の文字を印刷できません。
- EUC コードセット 3 の文字をメールツールで送信できません。

## [日本語環境のみ] minm12、minm14、k14 ではボールドフォントを正しく表示できない (バグ ID: 1173970、1176300)

XView で書かれたアプリケーションに `-font` オプションで `minm12` または `minm14` フォントを指定した場合、パネル上のラベルなどで使用されるボールドフォントが正しく表示されません。また、`k14` フォントを指定した場合には、それらのラベルは表示されなくなります。

回避方法 : `minm12` の代わりに `gotm12` を、`k14` フォントと `minm14` フォントの代わりに `gotm14` フォントをそれぞれ使用してください。

## [日本語環境のみ] 日本語ビットマップフォント

日本語 OpenWindows で提供される日本語ビットマップフォントのうち、通常使用する大きさ (14 ポイント、12 ポイント) 以外のフォントは、ディスク容量の節約のために圧縮されています。圧縮されたフォントを使用すると、パフォーマンスが 20 % から 30 % 低下します。ディスクに余裕がある場合は、`uncompress(1)` を使用してフォントを元の状態に復元してください。次の手順で、圧縮されているフォントを復元できます。

```
% su
Password:<パスワード>
# cd /usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/75dpi
# /usr/bin/uncompress *.Z
# /usr/openwin/bin/mkfontdir
# exit
```

(続く)

```
% /usr/openwin/bin/xset fp rehash
```

## [日本語環境のみ] XView ツールキットの制限事項

プリエディットスタイルが `overTheSpot` に設定されている場合、XView ツールキットのパネルサブウィンドウと `tty` サブウィンドウから、プリエディットテキストの自動確定を使用できません。

## [日本語環境のみ] XView ツールキットで Meta キー、左側ファンクションキーが動作しない (バグ ID: 1118887、1148490)

XView ツールキットでは、かな入力が可能な状態で、Meta-C、Meta-V、Meta-X などの Meta キーを使用する操作や、Copy(L6)、Paste(L8)、Cut(L10) などの左側ファンクションキーを利用した操作はできません。

回避方法: 「ローマ字/かな」キーを押して、「ローマ字入力モード」にしてください。

## [日本語環境のみ] OLIT ツールキットの制限事項

- OLIT ツールキットは、フォントセット定義ファイル `OpenWindows.fs` (`/usr/openwin/lib/locale/ja/OW_FONT_SETS/OpenWindows.fs`) をサポートしません。
- プリエディットスタイルが `overTheSpot` または `rootWindow` に設定されている場合、プリエディットテキストの自動確定が使用できません。

## [日本語環境のみ] OLIT ツールキットで Meta キーが動作しない (バグ ID: 1170802)

OLIT ツールキットでは、かな漢字変換機能が動作中で、かな入力が可能な状態では、Meta-C、Meta-V、Meta-X などの Meta キーを使用する操作はできません。

回避方法：「ローマ字/かな」キーを押して、「ローマ字入力モード」にしてください。

## **[日本語環境のみ] ワークスペースのプロパティウィンドウ**

- 「フォント」カテゴリで「標準」を選択していると、フォントタイプとして「Gothic Medium Bbb-Sans (Morisawa)」だけが表示されます。複数のフォントタイプを表示するには「ユーザー選択」を使用してください。
- フォントタイプを変更した場合、日本語ロケールでは OLIT アプリケーションに適用されません。

## **[日本語環境のみ] ファイルマネージャの制限事項**

ファイルマネージャのコメントウィンドウは、日本国内では使用できません。このウィンドウを使用してメールを発信した場合のネットワーク上の弊害については保証しません。

## **[日本語環境のみ] メールツールの制限事項**

- メールツールは、ISO 2022 (7 単位) の変換だけを行います。mailrc ファイル内に encoding 変数を設定しても、メールツールの動作には影響しません。ISO 2022 (7 単位) 以外の符号化形式を使用してメールを送信する場合は、`/usr/SUNWale/bin/mailx` を使用してください。
- 添付ファイル付きの日本語を含むメールを送信する場合、メールツールはそのメールの日本語 EUC を ISO-2022-JP に変換しません。

## **[日本語環境のみ] dtmail から送られた日本語テキストの アタッチメントを表示できない (バグ ID: 4071688)**

dtmail から通常の形式 (Internet MIME 形式) で送られたメールに日本語文字列を含むアタッチメントが添付されている場合、そのアタッチメントをメールツール上で表示できません。

回避方法：次のいずれかを行なってください。

- 送信者に Sun Mail Tool 形式で再度メールを送信してもらってください。
- アタッチメントをファイルに保存し、`jistoeuc(1)` または `iconv(1)` コマンドを使用してコード変換を行なってください。

`jistoeuc(1)` コマンドを使用する場合:

```
% /usr/bin/jistoeuc <保存したファイル名>
```

`iconv(1)` コマンドを使用する場合:

```
% /usr/bin/iconv -f ISO-2022-JP -t eucJP <保存したファイル名>
```

## [日本語環境のみ] MIME 形式の日本語メールを印刷できない (バグ ID: 1193169)

メールツールは MIME 形式の日本語メールを受信し、表示できますが、表示する際に日本語 EUC に変換しているため、表示以外の操作ではこの EUC 変換は行われません。メールツールからの印刷、ヘッダーウィンドウからのコピー、ペーストなどを行うと、日本語が正しく処理されません。

回避方法: メールツールのヘッダーウィンドウから印刷ツールにドラッグ&ドロップを行うか、メールツールのプロパティで「メッセージウィンドウ」を選択し、印刷スクリプトの項目に次のように記述してください。

```
jistoeuc | lp -s
```

## [日本語環境のみ] 「変更内容を保存」を行うと MIME 形式の日本語メールが文字化けする (バグ ID: 1216748)

MIME で送られたメッセージを表示ウィンドウ上で編集した後、「変更内容を保存」を行うと、メッセージが文字化けしてしまいます。

回避方法: メッセージウィンドウでは MIME 形式のメッセージを編集しないでください。編集してしまった場合には、確認ウィンドウで「変更内容を保存」を選択せずに「変更内容を破棄」を選択してください。

---

## システム管理

Solaris システムのシステム管理作業を実行する際に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

### [日本語環境のみ] ディスクレスクライアントのデフォルトロケール

日本語環境のディスクレスクライアントを構成しても、ディスクレスクライアントのシステムのデフォルトロケールが、常に C ロケールに設定されます。日本語環境でディスクレスクライアントを使用するには、ディスクレスクライアントの `dtlogin` 画面で日本語ロケールを選択してからログインしてください。関連情報として 189 ページの「`smdiskless` のマニュアルページ (バグ ID: 4384483)」も参照してください。

### [日本語環境のみ] Solaris 2.6 または Solaris 7 のディスクレスクライアントを、日本語環境で使用できない (バグ ID: 4384102)

`-x locale=locale` オプションを使用して日本語環境の Solaris 2.6 または Solaris 7 の OS サービスを追加しても、指定したロケールのパッケージがインストールされません。このため、日本語環境の Solaris 2.6 または Solaris 7 のディスクレスクライアントを使用できません。

回避方法 : ディスクレスクライアントを日本語環境で使用したい場合は、Solaris 8 の OS サービスを追加して、Solaris 8 のディスクレスクライアントを構成してください。

### `smosservice` および `smdiskless` で、無効なユーザー名またはパスワードが指定されていてもエラーが出力されない (バグ ID: 4394572)

OS サービスおよびディスクレスクライアントを追加するコマンドを実行したときに、無効なユーザー名またはパスワードが指定されていてもエラーが出力されません。



回避方法 : /usr/sadm/lib/smc/bin/smc ファイルの以下の行を次のようにコメントアウトしてください。

変更前 :

```
exec 2> /dev/null
```

変更後 :

```
#exec 2> /dev/null
```

## OS サービスを SUNWCXall 以外のクラスタで追加すると、sun4u ディスクレスクライアントをブートできない (バグ ID: 4361615)

sun4u アーキテクチャの OS サービスを SUNWCXall 以外のクラスタで追加すると、sun4u ディスクレスクライアントをブートできません。

回避方法 : sun4u アーキテクチャの OS サービスを、SUNWCXall クラスタで追加してください。

## OS サーバーが IA の場合、OS サービスを SUNWCXall 以外のクラスタで追加すると、sun4m ディスクレスクライアントのブート時にエラーが表示される (バグ ID: 4364739)

OS サーバーが IA アーキテクチャの場合、sun4m アーキテクチャの OS サービスを SUNWCXall 以外のクラスタで追加すると、sun4m ディスクレスクライアントのブート時に次のようなエラーメッセージが表示され、dtlogin 画面が表示されません。

```
NOTICE: Can't find driver for console framebuffer
```

回避方法 : sun4m アーキテクチャの OS サービスを SUNWCXall クラスタで追加してください。

## Solaris 8、6/00、10/00 の OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4384092)

Solaris 8、Solaris 8 6/00、Solaris 8 10/00 のディスクレスクライアントを日本語環境で構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 110416-02 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと日本語入力システム ATOK12 が正しく動作せず、CDE 上でアプリケーションが正しく起動できないなどの問題が発生することがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris 8 のシステム管理 (追補)』を参照してください。

## **Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の sun4u OS サービスにはパッチが必要 (バグ ID: 4150243、4388885)**

Solaris 2.6 3/98 または 5/98 の sun4u ディスクレスクライアントを構成する場合は、OS サービスを追加した後、OS サービスにパッチ 105654-03 を適用する必要があります。

このパッチを適用しないと sun4u ディスクレスクライアントがブート中にハングアップすることがあります。

パッチを OS サービスに追加する方法については、『Solaris 8 のシステム管理 (追補)』を参照してください。

## **Solaris 7 の OS サービスを追加すると upgrade\_log にエラーメッセージが出力される (バグ ID: 4362280)**

Solaris 7 の OS サービスを追加すると、次のようなエラーメッセージが /var/sadm/system/logs/upgrade\_log に出力されます。

```
Doing pkgadd of SUNWplow to /export/Solaris_2.7.  
ERROR: attribute verification of  
</export/Solaris2.7/usr_sparc.all/etc/default/init> failed  
  pathname does not exist  
  
Installation of partially failed.  
pkgadd return code = 2
```

回避方法 : エラーメッセージは無視してください。

## [日本語環境のみ] smossservice で無効な mediapath に対するエラーメッセージの一部が文字化けする (バグ ID: 4383045)

OS サービスを追加するコマンドを実行したとき、無効な mediapath が指定されているとエラーが表示されますが、エラーメッセージの一部が次のように文字化けします (<media\_path> はメディアのパス名を示します)。

```
-x mediapath オプションに指定されたパス "<media_path>" が見つからないまたは読み取ることができませんでした。????????????????????????????????。
```

回避方法: 文字化けしているメッセージは「ファイルもディレクトリもありません」に読み換えてください。

## rcm\_daemon からのエラーメッセージ (バグ ID: 4386436)

システムのブート時に、/var/adm/messages ログファイルに次のエラーメッセージが出力されることがあります。

```
open(/var/run/rcm_daemon_lock) - No such file or directory  
rcm_daemon exit: errno = 2
```

この問題は、/var が独立したパーティションである場合にのみ発生します。

回避方法: エラーメッセージは無視してください。システムに影響はありません。

## WBEM でデータを追加しようとする CIM\_ERR\_LOW\_ON\_MEMORY エラーが発生する (バグ ID: 4312409)

使用可能なメモリー容量が十分でない時に、次のエラーメッセージが表示されます。

```
CIM_ERR_LOW_ON_MEMORY
```

メモリー容量が十分でない場合に CIM (Common Information Model) Object Manager を実行していると、エントリを追加することができません。CIM Object Manager のリポジトリをリセットする必要があります。

回避方法 : 次のようにして CIM Object Manager のリポジトリをリセットしてください。

1. スーパーユーザーになります。
2. CIM Object Manager を停止します。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop
```

3. JavaSpaces ログディレクトリを削除します。

```
# /bin/rm -rf /var/sadm/wbem/log
```

4. CIM Object Manager を再起動します。

```
# /etc/init.d/init.wbem start
```

---

注 - CIM Object Manager のリポジトリをリセットすると、データストアに格納されている独自の定義は失われます。次に示す例のようにして、定義が含まれている MOF ファイルを `mofcomp` コマンドを使用して再コンパイルする必要があります。

```
# /usr/sadm/bin/mofcomp -u root -p root_password your_mof_file
```

---

## Solaris\_FileSystem インスタンスが要求された時に **CIMOM (Common Information Model Object Manager)** がクラッシュする (バグ ID: 4301275)

CIM WorkShop または WBEM API を使用して Solaris\_FileSystem クラスのインスタンスを列挙すると、CIMOM が動作しなくなり、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Attempted to complete RMI action  
enumInstances and received exception
```

(続く)

```
java.rmi.UnmarshalException: Error  
unmarshaling return header; nested  
exception is:  
java.io.EOFException
```

回避方法：スーパーユーザーになって次のコマンドを実行して、CIMOM を再起動してください。

```
# /etc/init.d/init.wbem stop  
# /etc/init.d/init.wbem start
```

## **[日本語環境のみ] ja および ja\_JP.PCK で Solaris Product Registry を起動すると、「Solaris 8 システムソフトウェア」という文字列が正しく表示されない (バグ ID: 4378201)**

Solaris Product Registry で「Solaris システムソフトウェア」をクリックすると、Solaris コンポーネント情報がシステムから読み込まれ、「Solaris システムソフトウェア」という表示が「Solaris 8 システムソフトウェア」に変更されます。

しかし、ja または ja\_JP.PCK ロケールで Solaris Product Registry を起動していると、「Solaris 8 システムソフトウェア」の「システムソフトウェア」の部分が文字化けします。また、「一覧」区画および「詳細情報」区画でも「Solaris 8 システムソフトウェア」という文字が正しく表示されなくなります。

回避方法：「Solaris 8 XXXXXXXX」のような文字化けのある表示は、「Solaris 8 システムソフトウェア」に読み換えてください。

## **CD (ボリューム管理あり) を選択しても、ソフトウェア情報を認識できない (バグ ID: 4032417)**

admintool のソフトウェア機能で、媒体に「CD (ボリューム管理あり)」を選択して「了解」ボタンを押しても、CD パスが正しくないためにソフトウェア情報を認識できません。

回避方法：「CD のパス」のテキストフィールドで /cdrom/cdrom0/s0 を /cdrom/cdrom0/s2 に変更して、再び「了解」ボタンを押してください。

## **[日本語環境のみ] admintool で日本語を含むホームディレクトリを持つユーザーを登録できない (バグ ID: 1223141)**

admintool 上では、日本語のホームディレクトリ名を登録できません。

回避方法：useradd(1M) コマンドを使用してください。

## **ソフトウェアパッケージを追加するときに、ディレクトリパスの指定時に admintool がコアダンプすることがある**

admintool を使って Solaris ソフトウェアパッケージを追加する場合、「ソース媒体の設定」の「ハードディスク」には、Solaris イメージのトップディレクトリ (Solaris\_8/ があるディレクトリ) を指定してください。それ以外のディレクトリを指定すると admintool がコアダンプすることがあります。

## **[日本語環境のみ] admintool でソフトウェアの追加・削除を行う時に起動されるウィンドウで、日本語文字が表示されない (バグ ID: 1224697)**

admintool を使ってソフトウェアパッケージの追加・削除を行う場合、入力を促すメッセージおよびログを表示するためのコマンドツールが起動されますが、ja\_JP.PCK および ja\_JP.UTF-8 ロケールでは日本語のメッセージが表示されません。

回避方法：この状態でもパッケージの追加・削除は可能ですが、表示されるメッセージを見るためには、ja ロケールまたは c ロケールで Solaris CDE 環境にログインし直して、admintool を起動してください。

## admintool でソフトウェア情報が更新されない (バグ ID: 4024598)

admintool を使ってソフトウェアパッケージの削除を行なった場合、削除が成功したにもかかわらず、admintool 上のソフトウェアパッケージのリストが直ちに更新されません。

回避方法：admintool を起動し直してください。

## ソフトウェアパッケージを追加する場合、CD の読み込み中に admintool がコアダンプすることがある (バグ ID: 4304720)

admintool を使って Solaris ソフトウェアパッケージを追加する場合、「ソース媒体の設定」の「CD (ボリューム管理あり)」または「CD (ボリューム管理なし)」を使用すると CD の読み込み中に admintool がコアダンプすることがあります。

回避方法：pkdadd コマンドを使用してパッケージを追加してください。または、CD に Solaris Web Start 2.x が含まれている場合は、Solaris Web Start 2.x (installer) を使用してパッケージをインストールしてください。

---

## オペレーティングシステム、ネットワーク

Solaris オペレーティングシステム、ネットワーク、ファイルシステムに関するバグの情報および注意事項について説明します。

### [日本語環境のみ] ja\_JP.eucJP ロケールに関する注意事項

Solaris 以外のオペレーティングシステムとの互換性の向上を図るため、Solaris 8 より、ISO のロケール命名規則に準拠したコードセット名を含んだ ja\_JP.eucJP が、

日本語 EUC ロケールとして新しく追加されました。Solaris 8 では、ja\_JP.eucJP ロケールは ja ロケールと同等のロケールとして定義されていますが、将来のリリースで定義内容が変更される可能性があります。日本語 EUC ロケールとしては、従来からサポートされている ja ロケールを使用することをお勧めします。

ja\_JP.eucJP ロケールでは、次の機能のサポートが提供されません。

- libjapanese.a

---

注 - libjapanese.a は将来のリリースでもサポートの予定はありません。

---

- SUNWale パッケージの mailx、talk などを使用するアジア各国対象のコマンド
- PCFS での PC 漢字コード (以降 PCK と記述します) ファイル名

## **[日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケールと ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項**

ja\_JP.PCK ロケールと ja\_JP.UTF-8 ロケールでは、次の機能がサポートされていません。

- libjapanese.a

---

注 - libjapanese.a は将来のリリースでもサポートの予定はありません。

---

- SUNWale パッケージの mailx、talk などを使用するアジア各国対象のコマンド
- PCFS での PC 漢字コード (以降 PCK とする) ファイル名

---

注 - PCFS での PCK ファイル名は ja ロケールでもサポートされていません。

---

- C コンパイラ、cpp、UIL コンパイラなどで使用する文字、文字列、リテラル  
また、次の機能が ja\_JP.UTF-8 ロケールでサポートされていません。

- kanji コマンド

/usr/xpg4/bin と /usr/bin の両方に存在するコマンドは、ja\_JP.PCK ロケールおよび ja\_JP.UTF-8 ロケールでは /usr/bin のコマンドがサポートされません。したがって、/usr/bin よりも前に /usr/xpg4/bin のパスを加えてください。

ja\_JP.PCK ロケールでは PCK を直接扱うことができますが、DOS のテキストファイルと UNIX のテキストファイルの違いは残ります。たとえば、DOS から



テキストファイルを PCFS でマウントして持ってくる場合は `dos2unix -ascii`、DOS へ持っていく場合は `unix2dos -ascii` がそれぞれ必要になります。詳細は、`pcfs(7)`、`dos2unix(1)`、`unix2dos(1)` の各マニュアルページを参照してください。

## [日本語環境のみ] 日本語環境の設定

日本語環境を正しく動作させるためには、環境変数 `LANG` が `ja` (日本語 EUC)、`ja_JP.PCK` (PC 漢字コード、シフト JIS コード)、または `ja_JP.UTF-8` (UTF-8) に設定されている必要があります。また、端末ドライバに日本語文字を正しく透過させ、日本語文字幅に応じた処理が正しく行われるようにするためには、端末が認識する文字コードに従って `setterm` で設定する必要があります。

これらの設定を C シェルのコマンド行で行う場合は、次のように入力してください。

### ■ ja ロケールで使用する場合

```
% setenv LANG ja
% setterm -x JapanEUC
```

### ■ ja\_JP.PCK ロケールで使用する場合

```
% setenv LANG ja_JP.PCK
% setterm -x PCK
```

### ■ ja\_JP.UTF-8 ロケールで使用する場合

```
% setenv LANG ja_JP.UTF-8
% setterm -x UTF-8
```

システムインストール時にシステムのデフォルトロケールを日本語に指定したシステムでは、デフォルトで `LANG` が `ja`、`ja_JP.PCK`、または `ja_JP.UTF-8` に設定されています。このため、環境変数 `LANG` の設定は不要になります。

デフォルトロケールを変更したい場合は、`/usr/default/init` ファイル中の `LANG` 環境変数を変更して、システムを再起動してください。詳細は『*JFP ユーザーズガイド*』を参照してください。

## [日本語環境のみ] `ja_JP.UTF-8` ロケールデータベースに関する注意事項

日本語 UTF-8 ロケールは、日本語の文字情報は「UI-OSF 日本語環境実装規約 Version 1.1」を、日本語以外の文字情報は Unicode Consortium の UNICOD 3.0 CHARACTER DATABASE をもとに作成されています。日本語の文字情報は、UI-OSF の実装規約をもとにしているため、他の UNIX ベンダーとの互換性がありますが、Solaris の `ja` ロケールおよび `ja_JP.PCK` ロケールとはいくつかの点で異なります。以下に、日本語文字処理に影響する相違点を説明します。

### ■ `LC_CTYPE`

次の日本語ロケール専用文字クラスが追加されています。

<code>ascii</code>	<code>paren</code>	<code>jisx0201</code>
<code>gaiji</code>	<code>jhankana</code>	<code>jspace</code>

次の日本語ロケール専用文字クラスはありません。

<code>jalpha</code>	<code>jspecial</code>	<code>jgreek</code>
<code>jruussian</code>	<code>junit</code>	<code>jsci</code>
<code>jgen</code>	<code>jpunct</code>	

`ja` ロケールおよび `ja_JP.PCK` ロケールでも使用するアプリケーションでは、これらの文字クラスは使用しないようにしてください。

### ■ `LC_COLLATE`

JIS X 0208 の方が JIS X 0212 より先になります。日本語以外の文字は日本語の後にコード順で並びます。

### ■ `LC_TIME`

以下の日付および時刻の表示形式が変わります。( )内は `strftime(3C)` および `date(1)` で有効な書式です。

#### ■ `abday (%a)`

日と ( )が入らない。

- mon (%B)  
1月と1の前に <space> が入らない。
- d\_t\_fmt (%c)  
%Y年%m月%d日 %H時%M分%S秒 と abday (%a) が入らない。
- era\_d\_t\_fmt (%Ec)  
%EY年%m月%d日 %H時%M分%S秒 と abday (%a) が入らない。
- alt\_digit (%Od などのロケール固有の代替数値記号を使うもの)  
代替数値記号は使用しない。

## 【日本語環境のみ】libjapanese に関する注意事項

libjapanese とそれに関連したヘッダーファイルは、Solaris 7 から、「全体ディストリビューション」ソフトウェアグループでのみインストールされる SUNWjlibj というパッケージに移動しました。この中には、libjapanese ソース互換パッケージも含まれていますので、既存の libjapanese ユーザーはこれを用いて移行を進めてください。将来のリリースでは libjapanese.a およびこれに関連したヘッダーファイルは削除される予定です。libjapanese ソース互換パッケージの使用法については、`/usr/share/src/libjapanese/README` を参照してください。

## 【日本語環境のみ】jisconv(3x) インタフェースの制限事項

jisconv インタフェースには、次の制限事項があります。

- jisconv(3X) で提供される 1 文字変換用のプログラミングインタフェース (関数名が `c` で始まるもの) は範囲チェックを行いません。
- 日本語 EUC との変換を行うプログラミングインタフェースでは、JIS X 0212-1990 (補助漢字) をサポートしていません。
- PCK との変換を行うプログラミングインタフェースでは、『TOG 日本ベンダ協議会推奨 日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様』に基づく変換をサポートしていません。
- 7 ビット JIS との変換を行うプログラミングインタフェースは、更新番号を含むエスケープシーケンスに対応していません。

これらの機能を利用する場合は、`iconv(3)` プログラミングインタフェースを使用してください。

## [日本語環境のみ] ワイド文字 (wchar\_t) の制限

ワイド文字の内部表現に依存した処理を行うことは避けてください。ja ロケールでは、従来の内部表現が維持されています。

## [日本語環境のみ] ネットワーク上の混在環境における日本語テキストの注意事項

ネットワークを通して日本語 EUC、PCK または UTF-8 間の文字変換を行う機能はありません (メールを除く)。そのため、明示的にユーザー側で変換できない限り、日本語 EUC、PCK、UTF-8 テキストの混在環境では、クライアント・サーバー型のアプリケーションなどは正しく動作しません。

## [日本語環境のみ] 日本語ファイル名の印刷に関する注意事項

ファイル名が日本語の場合、lp の引数のファイル名としては、プリンタサーバーのデフォルトロケールのコードセットのみ使用可能です。たとえば、プリンタサーバーの /etc/default/init の LANG の設定値が、LANG=ja となっている場合は、日本語 EUC のファイル名は正しく印刷できますが、それ以外は印刷できません。この場合は、

```
% cat <日本語.txt> | lp -y PCK
```

などを実行し (ファイルの中身も PCK の場合)、lp に直接日本語ファイル名を渡さないようにすることによって回避してください。なお、ファイルの中身のコードセットに関しては、-y オプションを指定してプリンタサーバーのサポートするコードセットに変換することが可能です。

## [日本語環境のみ] jpostprint におけるコードポイント 0x21 - 0x7e 部分のフォントに関する注意事項

デフォルトでは、ASCII フォントである Courier が使用されます。JIS X 0201 ローマ文字用図形キャラクタ集合に切り替えたいときは、以下のように -f オプションで指定してください。

Ryumin-Light:

```
% jpostprint -f Ryumin-Light.Hankaku
```

GothicBBB-Medium:

```
% jpostprint -f GothicBBB-Medium.Hankaku+GothicBBB-Medium
```

## [日本語環境のみ] マニュアルページ、および **nroff**、**troff** 形式の出力を /usr/xpg4/bin/more でうまく表示できない (バグ ID: 1225024)

マニュアルページや、nroff、troff などで清書された日本語ファイルを /usr/xpg4/bin/more で表示させると、一部の文字が欠けるなど、きれいに表示されないことがあります。

回避方法：ja (japanese) ロケールの場合は /usr/bin/more を、ja\_JP.PCK ロケールおよび ja\_JP.UTF-8 ロケールの場合は /usr/bin/pg を環境変数 PAGER として明示的に指定して、表示させてください。

---

## Solaris 外字ツール (sdtudctool)

Solaris 外字ツール (sdtudctool) の実行時に発生するバグの情報および注意事項について説明します。

### [日本語環境のみ] sdtudctool の制限事項と注意事項

- ユーザー定義文字を利用した文章などを電子メールで送信する場合、受信側にも同様なユーザー定義文字環境がないと、表示されなかったり、文字化けを起こしたり、別の文字として表示されたりする問題が発生します。  
送信の際には、このことを考慮して送信する必要があります。外部の宛先に電子メールを送信する場合は、ユーザー定義文字の使用を避けてください。
- ユーザー定義文字の編集では、複数のフォントファイルが変更されます。このため、作成したユーザー定義文字フォントファイルを直接読み込んで編集すると、各フォント間の整合性が取れなくなります。
- 四角形・多角形・円は、内部を塗りつぶして作成されます。  
白抜き文字を作成する場合は、以下の例を参考にしてください。

例: 白丸を作成する

アウトラインモードの場合

1. 大きな円を描画します。
2. 内部に少し小さな円を描画します。
3. 範囲指定モードになり、内部の円を指定します。
4. 編集メニューから反転を選択します。

ビットマップモードの場合

1. 大きな円を描画します。
2. 消しゴムを使用して白抜きにしたい部分を消します。あるいは、範囲指定モードで白抜きにしたい部分を指定し、編集メニューから削除を選択します。

- ユーザー定義文字を Type1 形式で保存するフォントファイルにはヒント情報が登録されません。

このため解像度の低いデバイス (ディスプレイなど) 上での表示や、印刷時のサイズによって、以下の問題が発生します。これは、アウトラインをビットマップにマップする時に発生する丸めの影響です。

- 離れている点が同じ点として表示・印刷されることがあります。
- 一部が表示・印刷されないことがあります。

回避方法：アウトラインモードで描画位置を離して描画するか、ビットマップモードで編集してください。

---

注 - ビットマップモードで編集すると、アウトラインはビットマップから取り出します。このためアウトラインの幅が大きくなります。

---

- ビットマップモードで編集する場合のサイズ変更は、一覧表の表示メニューから指定できます。また、生成するアウトラインは、編集したビットマップを元にアウトラインを生成します。
- ビットマップモードで移動またはコピーを行うと、指定した領域の前景 (黒い部分) だけでなく、背景 (白い部分) も移動またはコピーします。
- リソース `utUDCBDFSize` でビットマップフォントのサイズを指定する場合は、デフォルト値であるサイズ 14 を必ず含めるようにしてください。

例:

```
*utUDCBDFSize: 12,14,20
```

- リソース `utUDCBDFSize` の設定内容により、オプションダイアログ上の「アウトラインから生成されるビットマップサイズ」のチェックボックスの数が決まります。たとえば、`*utUDCBDFSize` を

`*utUDCBDFSize: 12,14,16,18,20,24`

のように指定した場合、オプションダイアログ上では 12、14、16、18、20、24 と 6 個のチェックボックスが表示され、初期状態ではすべてのチェックボックスがオンになっています。

- 一般の `Type1` フォントの編集はサポートしていません。
- BDF/PCF フォントを読み込んだ場合、一覧表の印刷はサポートしていません。
- キャンバス上の次ボタンや前ボタンでは、ページを越えることはできません。  
回避方法：一覧表上でページをめくり、登録したいコードポイントをカーソルで指定してください。
- ユーザー定義文字を登録する場合のアウトラインモードでの編集で、キャンバスの有効範囲を越えて文字を描画できてしまいますが、キャンバスの有効範囲内に描画するようにしてください。
- フォントファイルを読み込んだ場合、UTF-8 でのコードポイントの表示はサポートしていません。

### **[日本語環境のみ] ビットマップからアウトラインが正しく生成できない場合がある (バグ ID: 4007396)**

回避方法：一覧表の表示サイズを変更可能な場合は、最大のサイズを利用してください。

### **[日本語環境のみ] アウトラインモードの編集で参照画面からコピーなどを行うと、ビットマップイメージが太くなる (バグ ID: 4176763)**

回避方法：参照表上で、コピーしたいグリフを選択し、マウス・ボタン 3 (2 ボタンマウスの場合は、マウス・ボタン 2) を使って、グリフを編集キャンバス上にドラッグ&ドロップしてください。

## [日本語環境のみ] ボタンを初期化できない場合、起動に失敗する (バグ ID: 4273154)

先に Netscape Communicator を起動している状態で、sdtudctool を起動しようとすると、次のようなエラーメッセージが表示されて、起動に失敗することがあります。

```
ボタンを初期化できません。
X Error of failed request: BadDrawable (invalid Pixmap or Window parameter)
Major opcode of failed request: 14 (X_GetGeometry)
Resource id in failed request: 0x0
Serial number of failed request: 510
Current serial number in output stream: 510
```

回避方法：いったん Netscape Communicator を終了した後に、sdtudctool を起動してください。

## 「ファイル」メニューの「保存」がグレー表示されているために、ユーザー定義文字をファイルに保存できない場合がある (バグ ID: 4307286)

次に示す手順を実行すると、「ファイル」メニューの「保存」がグレー表示 (選択不可の状態) になっているため、描画したグリフをファイルに保存できません。

1. 任意のコードポイントで描画する。
2. 「保存」をクリックせずに、一覧表で他のコードポイントを選択する。

「このコードポイントは編集集中です。変更する前に保存しますか?」というダイアログが表示されます。

3. 「はい」を選択する。

回避方法：手順 3 では「いいえ」を選択し、次に、キャンバスの下「保存」をクリックしてから、一覧表上で他のコードポイントを選択してください。

## [日本語環境のみ] ja\_JP.eucJP ロケールで、ユーザー定義文字を辞書に登録できない (バグ ID: 4309914)

ja\_JP.eucJP ロケールで、ユーザー定義文字を辞書に登録できません。



回避方法：リソースファイル `Sdtudc_register` を、次のように変更してください。

[変更前]

```
*utRegistTextsLocale: ja,japanese,ja_JP.PCK,ja_JP.UTF-8
*utRegistTextsEncode: eucJP,eucJP,PCK,UTF-8
```

[変更後]

```
*utRegistTextsLocale: ja,japanese,ja_JP.PCK,ja_JP.UTF-8,ja_JP.eucJP
*utRegistTextsEncode: eucJP,eucJP,PCK,UTF-8,eucJP
```

## sdtudc\_extract にて **Windows** 外字フォントファイルからユーザー定義文字を取り出す場合、空き領域部分にもユーザー定義文字を取り出してしまう (バグ ID: **4320088**)

この現象は、ユーザー定義文字を登録している領域に空き領域 (未登録領域) がある場合に発生します。この場合、空き領域が空き領域に続くユーザー定義文字で埋められてしまいます。

回避方法：Windows の外字ツールで、空き領域の最後に空白を登録してください。

## [日本語環境のみ] フォント管理を使用して **CID/Type1** フォントをインストールする際の注意事項

フォント管理 (`sdtfontadm`) を使用して CID/Type1 フォントをインストールする際には、次の点に注意してください。

- システムに `SUNWxwcs1` パッケージがインストールされていることを確認してください。次のようにして確認できます。

```
% pkginfo SUNWxwcs1
```

インストールされていない場合は `pkgadd` コマンドまたは `admintool` を使用して、Solaris SOFTWARE CD からインストールしてください。

- フォント管理 (`sdtfontadm`) のオプションメニューから「フォントパスの変更...」を選択して `/usr/openwin/lib/X11/fonts/CSL` を追加してください。変更した後、ウィンドウシステムを再起動してください。

## [日本語環境のみ] フォント管理で CID フォントをインストールした場合の制限事項 (バグ ID: 4009292)

- フォント管理 (sdtfontadm) で CID フォントをインストールした場合、XLFD フォント名のレジストリフィールドが正しく登録されません。日本語フォントをインストールした場合には、インストールディレクトリの fonts.dir ファイルを編集して、jisx0201.1976-0、jisx0208.1983-0、jisx0212.1990-0 (補助漢字を含む場合) のそれぞれのレジストリを含むようにしてください。

編集例：

```
HeiseiKakuGo-W5.cid -unknown-HeiseiKakuGo W5---normal--0-0- \
0-0-p-0-jisx0201.1976-0
HeiseiKakuGo-W5.cid -unknown-HeiseiKakuGo W5---normal--0-0-0- \
p-0-jisx0209.1983-0
HeiseiKakuGo-W5.cid -unknown-HeiseiKakuGo W5---normal--0-0-0-0-p \
-0-jisx0212.1990-0
```

## [日本語環境のみ] フォント管理でインストールした TrueType フォントを DPS で使用できない (バグ ID: 4030803)

フォント管理 (sdtfontadm) を使用して TrueType フォントをインストールした場合、UPR ファイルが作成されないため DPS でフォントを表示できません。DPS でフォントをインストールする場合には

/usr/openwin/lib/locale/ja/X11/fonts/TT/fonts.upr を参照して、以下のリストのように UPR ファイルを作成してください。なお、<FONTNAME> には TrueType フォント名を入力してください。

```
PS-Resources-1.0
FontOutline
.
//<font install directory>
FontOutline
<FONTNAME>-78-EUC-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78-EUC-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78ms-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-78ms-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-83pv-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-90ms-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-90ms-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-90pv-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-90pv-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Add-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Add-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Add-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Add-V=<FONTNAME>.ttf
```

```
<FONTNAME>-Adobe-Japan1-0=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Adobe-Japan1-1=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Adobe-Japan1-2=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-EUC-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-EUC-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Ext-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Ext-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Ext-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-Ext-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-NWP-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-NWP-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-RKSJ-H=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-RKSJ-V=<FONTNAME>.ttf
<FONTNAME>-V=<FONTNAME>.ttf
```

## [日本語環境のみ] CID フォントを X から利用した場合に サイズが正しくない (バグ ID: 4067265)

CID フォントを Solaris にインストールして X のフォントとして利用した場合、グリフの大きさが正しくない場合があります。期待した大きさよりも小さく表示されます。

## [日本語環境のみ] PCK でエンコードされた TrueType フォントに関する注意事項 (バグ ID: 4066981、4066982)

MS-Windows 3.1 用などの TrueType フォントのうち PCK で内部エンコードされたフォント (SpecificID が 2) を Solaris にインストールした場合に、以下の問題が発生します。

- X のアウトラインフォントで JIS X 0212 を表示しようとした場合、X サーバーがコアダンプすることがある。
- Solaris のリコー HG ゴシック体 B、HG 明朝体 L などの Unicode でエンコーディングされた (SpecificID が 1) TrueType フォントと同時に使用すると、コードポイントが正しく表示されない場合がある。

---

## 日本語入力全般 (XIM を含む)

日本語入力システム全般に関する、注意事項とバグ情報について説明します。

## [日本語環境のみ] ja\_JP.PCK、ja\_JP.UTF-8 ロケールに関する注意事項

ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールで日本語入力システムを使用する場合、次の点に注意してください。なお、japanese ロケールで日本語入力システムを使用する場合については、ja ロケールの扱いと同じです。

- 日本語入力システムは、ユーザーがログインしたロケールに関わらず、ja ロケールで動作します。ja 以外のロケールでは、日本語入力システムや以下に示す関連コマンドは動作しません。これらを手動で起動する場合は、その動作ロケールを ja に設定する必要があります。

- 日本語入力システム ATOK12

atok12migd(1)、atok12migs(1)、atok12mngtool(1M)

- 日本語入力システム ATOK8

atok8dicm(1)、atok8migd(1)

- 日本語入力システム cs00

cs00(1M)、mdicm(1)、udicm(1)、cs00toatok8(1)、kkcvtoacs00(1)

- その他

mle(1)、xci(7)、cm(3X)

起動方法についての詳細は、後述の説明を参照してください。

なお、Solaris CDE 版 cs00 ユーザー辞書ツール (sdtudicm(1)) は、どの日本語ロケールで起動しても、自動的に ja ロケールで動作します。htt(1) は、リソース \*language: に値 ja が設定されていれば、どの日本語ロケールで起動しても、ja ロケールで動作します。また、wnn6setup(1)、atok8setup(1)、cs00setup(1) は、どの日本語のロケールでも利用できます。

- ja\_JP.UTF-8 ロケールにおいて、日本語入力システムを介して入力できる文字は、日本語 EUC の文字集合のみです。このため、日本語以外の文字や記号などは、日本語入力システムを使用して入力することはできません。また辞書登録することもできません。日本語文字コードに関する詳細は、『JFP ユーザーズガイド』を参照してください。

- テキスト設定ファイルとデータは、日本語 EUC を使用してください。

ATOK12 スタイルファイル、ATOK12 辞書ユーティリティ用テキスト形式の単語ファイル (atok12wordlist(4))、Wnn6 テキスト形式辞書、ATOK8 環境設定ファイル (atok8.ucf(4))、ATOK8 辞書メンテナンス用テキスト形式の単語

ファイル (atok8wordlist(4))、cs00 ローマ字変換テーブル、cs00 辞書登録用テキストファイルなど、日本語を含むファイルには日本語 EUC を使用してください。

- ATOK12、Wnn6、cs00 で補助漢字を入力した場合、ja\_JP.PCK ロケールでは、確定後の文字は不定です。

ATOK12、Wnn6、cs00 には補助漢字の入力機能があり、ATOK12、Wnn6 および cs00 自体が ja ロケールで動作しているため、ja\_JP.PCK ロケールにおいても補助漢字の表示と選択ができます。ただし、選択した候補の文字列が ja\_JP.PCK ロケールで動作しているアプリケーションに渡った場合は、ja\_JP.PCK ロケールには対応する漢字がないため、文字が不定になります。これは、ja ロケールで動作しているテキストエディタの補助漢字をコピーし、ja\_JP.PCK ロケールで動作しているテキストエディタにペーストした場合も同様です。

- ja\_JP.PCK ロケールまたは、ja\_JP.UTF-8 ロケールでの起動方法
  - atok12migd(1)、atok12migs(1)、atok12mngtool(1M)、mdicm(1)、udicm(1)、cs00toatok8(1)、kkcvtocs00(1)、atok8dicm(1)、atok8migd(1)

ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールで上記のコマンドを起動する場合、次の udicm コマンドの例を参考にしてください。

udicm コマンドの起動例：

手順 1. ja ロケールで端末エミュレータを起動します。

```
% env LANG=ja dtterm &
```

手順 2. 起動された端末エミュレータ上で udicm コマンドを起動します。

```
% udicm mshow cs00_m.dic -s あい -e あう
```

## [日本語環境のみ] XIM のステータス文字列

ステータス文字列が、8 カラムで切られる場合があります。アプリケーションのステータス形式が XIMStatusNothing (ルートウィンドウ形式) か XIMStatusArea (通常、フッター形式) のどちらかの場合、htt はステータス文字列の幅として、status.root.maxWidth リソースの値を使用するため、XIMStatusArea の場合でも十分な大きさの値を、status.root.maxWidth に設定してください。

## [日本語環境のみ] imDisplayInClient 使用時の XView アプリケーションの問題 (バグ ID: 1124457、1124459)

XView の X リソース `imDisplayStyle` に `imDisplaysInClient` を使用する場合、XView で書かれたアプリケーションでは、ステータスの色が正しく表示されなかったり、ステータス文字列が 2 つ表示されたりすることがあります。

`imDisplayStyle` のデフォルト値は `clientDisplays` なので、ユーザー設定を変えなければ問題は発生しません。

## [日本語環境のみ] XIMP\_FE\_TYPE1 で入力した文字がわずかに失われることがある (バグ ID: 1172824)

`XIMP_FE_TYPE1` が設定されている場合、Sun のキーボードで「Ctrl+Space」キーまたは「日本語 On-Off」キーを押して、かな漢字変換モードをオンに設定した直後に文字列を入力すると、キーボードから変換サーバーに文字が到達しないため、入力した文字が失われることがあります。

回避方法：ステータス文字列が使用したい言語モードに変わるまで待つか、イベントタイプに `XIMP_SYNC_BE_TYPE2` を設定してください。イベントタイプは、次のようにして、シェルの環境変数 `XIMP_TYPE` を `XIMP_SYNC_BE_TYPE2` に設定することによって設定できます。

```
% setenv XIMP_TYPE XIMP_SYNC_BE_TYPE2
```

また、X リソースデータベースに次のエントリを追加することによっても、イベントタイプを設定できます。

```
*immode: XIMP_SYNC_BE_TYPE2
```

---

注 - Solaris の XIM (X Input Method) は、Ximp 4.0 プロトコルに基づいており、2 つの異なるイベントタイプをサポートしています。デフォルトは、`XIMP_FE_TYPE1` (フロントエンドタイプ 1) です。デフォルトの設定では入力サーバー (`htt`) は、変換モードがオンに設定されている場合、キー入力イベントを先取りします。

`XIMP_SYNC_BE_TYPE2` (バックエンド同期タイプ 2) は、`XIMP_FE_TYPE1` の代替となるものです。この設定ではキー入力イベントは、常にクライアントに先に送られてから `htt` に転送され、クライアントに返送されます。

---

## **[日本語環境のみ] ステータス表示が正確でない (バグ ID: 1180785)**

デフォルトの OpenWindows のセッションの場合に、ステータス表示が正確に行われません (デフォルトのセッションでは、`.openwin-init` が存在せず、`openwin` を起動した後、コンソールとファイルマネージャだけが起動されます)。

ファイルマネージャに入力フォーカスがない場合、ステータスが表示されません。コマンドツールに入力フォーカスがない場合は、ステータスがはっきりと表示されます。つまり入力フォーカスを失っても、失っていないように見えます。

## **[日本語環境のみ] 入力サーバー (htt) の属性変更**

入力サーバー (htt) の属性を、htt プロパティマネージャを用いて変更した場合、その変更内容が、X のリソースフォーマットで `$HOME/.Xlocale/$LANG/app-defaults/Htt` ファイルに保存されます。これ以降 `htt` を起動すると、`Htt` ファイルの設定が最優先されます。

## **[日本語環境のみ] htt の起動**

`cm` インタフェースを使って `htt` を起動することはできません。デフォルトの `xci` を使用してください。

## **[日本語環境のみ] 日本語入力システム設定後に再びログインしても、希望する日本語入力システムが利用できない**

`$HOME/.dtprofile` に書かれている内容によっては、ワークスペースメニューの「日本語入力システム切替」から希望する日本語入力システムを選択して再びログインしても、選択した日本語入力システムが利用できない場合があります。

回避方法：`$HOME/.dtprofile` の日本語入力サーバーの起動に関する行を削除して、再びログインしてください。

**[日本語環境のみ] ja\_JP.UTF-8 ロケールで ATOK12 を使用するよう設定しても、複数の言語入力の設定になる (バグ ID: 4304743)**

CDE ワークスペースメニューから「日本語入力システム切り替え」->「日本語入力のみを設定」->「ATOK12(htt) に設定...」を選択し、ログインし直しても、デフォルトの複数言語入力になります。コマンド行から `atok12setup(1)` コマンドを使用した場合も同じです。

回避方法：

ユーザー単位で対処する場合は、設定後に、ホームディレクトリにあるファイル `.dtprofile` の内容の一部を以下のように変更してください。

変更前：

```
_file=/usr/openwin/lib/locale/$LANG/imsscript/S548atok12
```

変更後：

```
_file=/usr/openwin/lib/locale/$LANG/imsscript/S507atok12
```

システム単位で対処する場合は、スーパーユーザーとしてシェルスクリプト `/usr/openwin/bin/atok12setup` を以下のように変更してください。

変更前：

```
cde_launch="S548atok12"
```

変更後：

```
cde_launch="S507atok12"
```

この修正前に日本語入力システムの切り替えを行なっている場合は、修正後に再度切り替えを行なってください。



## [日本語環境のみ] Wnn6 の同時接続クライアント数

今回のリリースで提供される Wnn6 は、最大 3 つまでのクライアント (htt や uum など、Wnn6 のかな漢字変換サーバーである jserver に直接接続するプログラム) の同時接続をサポートします。

追加のクライアントライセンスは、別途購入することができます。詳細は、本製品のご購入先にお問い合わせください。

## [日本語環境のみ] Wnn6 で、同じカタカナが変換候補として 2 回表示されることがある (バグ ID: 4040987)

Wnn6 で、同じカタカナが変換候補として 2 回表示されることがあります。

回避方法：どちらか一方の候補で確定してください。

## [日本語環境のみ] Wnn6 設定ユーティリティで「変換 ON」のキーの割り当てを設定できない (バグ ID: 4043377)

Wnn6 設定ユーティリティの「入力スタイル」で「変換 ON/OFF」のキーの割り当てを変更しても、変換 ON に関してはその変更が有効になりません。

回避方法 1：次の手順で、htt のプロパティマネージャを使用して設定してください。

1. Wnn6/Htt を終了します。
2. htt を端末エミュレータなどから起動します。

```
% htt -nosm &
```

---

注 - 他のオプションは指定しないでください。

---

3. htt のアイコンを開き、「一般」を選択します。
4. 「入力マネージャ: 一般」ウィンドウで設定を行います。
5. 設定が終了したら、ログインし直します。

回避方法 2：htt のリソース conversionOnKeys にキーシーケンスを指定してください。

wnn6setup(1) を実行した場合は、ホームディレクトリに .Xlocale/ja/app-defaults/Htt という設定ファイルが作成されるので、ここで指定することができます。

### **[日本語環境のみ] Wnn6 設定ユーティリティの「学習/変換/表示モード」の設定画面で「次候補一覧の位置」に「カーソル」または「中央」を設定した場合、候補一覧ウィンドウはマウスポインタの位置に表示される**

Wnn6 設定ユーティリティの「学習/変換/表示モード」の設定画面で「次候補一覧の位置」に「カーソル」または「中央」を設定した場合、候補一覧ウィンドウはマウスポインタの位置に表示されます。

### **[日本語環境のみ] ATOK8 風入力スタイルでは、通常の候補一覧ウィンドウは縦または横一列で表示される**

Wnn6 設定ユーティリティの「学習/変換/表示モード」の設定画面で、「次候補一覧のレイアウト」に複数行を設定した場合、候補一覧ウィンドウは横一列で表示されます。

### **[日本語環境のみ] 壊れた辞書を指定すると jserver がコアダンプする (バグ ID: 4038938)**

壊れた辞書または頻度ファイルなどをクライアントが使用しようとする、jserver がコアダンプすることがあります。

回避方法：壊れた辞書または頻度ファイルは、使用しないでください。

### **[日本語環境のみ] Solaris CDE 上の ATOK8 で、カラーマップを使い果たすとプリエディット・ステータスが見えなくなる (バグ ID: 1239350)**

Solaris CDE 上で ATOK8 を使用中に、アプリケーションがカラーマップを使い果たすと、プリエディット/ステータスの色が変わり、プリエディット/ステータスが読めなくなることがあります。

## [日本語環境のみ] ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールでの ATOK8 の利用

Solaris 2.6 よりも前のリリース (Solaris 2.5.1 以前のリリース) において atok8setup コマンドで ATOK8 を設定した場合、ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールでログインすると、ATOK8 が利用できません。

回避方法：最新の日本語版の Solaris で atok8setup コマンドを直接実行するか、ワークスペースメニューから「ATOK8 に設定」を選択して、ウィンドウシステムを再起動してください。

## [日本語環境のみ] Solaris CDE 環境において、ATOK8 で <Shift> + <Esc>、<Alt> + <Space> が機能しない

Solaris CDE 環境では、<Shift> + <Esc>、<Alt> + <Space> は共にウィンドウメニューのアクセラレータキーに割り当てられているため、ATOK8 の部首入力およびモード一覧表示状態で、前メニュー移動の機能をこれらのキーで利用できません。部首入力を利用する場合は、<Shift> + <F6> を使用してください。また、モード一覧表示状態で前のメニューに戻るには、<Esc> キーでいったんメニューを閉じて、再度 <Shift> + <F10> キーを押すか、環境設定ツールを使用してキーの割り当てを変更してください。キーの割り当ての変更については、『ATOK8 ユーザーズガイド』を参照してください。

## [日本語環境のみ] ATOK8 を Solaris CDE 環境で使う際、カーソルキーを使用すると入力が反映されないことがある (バグ ID: 4113801)

ATOK8 を Solaris CDE 環境で使用する際に、独立したカーソルキー (←/→/↑/↓) を使用するとカーソルキー入力の一部が脱落し、ATOK8 の変換操作に反映されないことがあります。

回避方法 1：数値入力キー上のカーソルキーを使用してください。

回避方法 2：dtwmrc ファイルを編集してキーバインディングを変更します。  
\$HOME/.dt/<locale> ディレクトリの下に dtwmrc ファイルが存在しない場合は、/usr/dt/config/<locale> ディレクトリの下にある sys.dtwmrc ファイルを、\$HOME/.dt/<locale> ディレクトリの下に dtwmrc というファイル名でコピーしてください。その後、テキストエディタなどで、dtwmrc ファイルの 213 行目以

下に記述されている Key Bindings Description の Root のカーソルキーに関するエンタリを次のように " #" でコメントアウトして、ワークスペースマネージャ (dtwm) を再起動するかまたはログインし直してください。

```
# <Key>Down root f.circle_down
# <Key>Up root f.circle_up
# <Key>Right root f.next_workspace
# <Key>Left root f.prev_workspace
```

この設定をした場合、独立したカーソルキーで、上記の dtwm の機能は利用できなくなります。

## **[日本語環境のみ] cs00 で、Ctrl-N によって次候補を連続表示すると、同じ候補が表示されることがある (バグ ID: 1101391)**

この現象が発生する例を示します。

1. 日本語をオンの状態で 'aba' と入力します。

「あば」と表示されます。

2. Ctrl-N を押します。

「あば」の表示は変わりません。

3. Ctrl-N を押します。

「暴」と表示されます。

4. Ctrl-N を押します。

「あば」と表示されます。

5. Ctrl-N を押します。

「アバ」と表示されます。

つまり、変換候補は次のように変化します。「あば」->「暴」->「あば」->「アバ」->「暴」->「あば」->「アバ」->「暴」

回避方法：Ctrl-W によって候補一覧表示をした場合は、このような現象は発生しません。

## [日本語環境のみ] cs00 ユーザー辞書ツールに対して、Solaris CDE のセッション保存機能が働かない

Solaris CDE のログアウト時に起動されているアプリケーションは、通常、次のログイン時に自動的に起動されますが、cs00 ユーザー辞書ツールに関してはこの機能が働きません。

## [日本語環境のみ] cs00 使用時に、Meta-A (Again キー)、Meta-Z (Undo キー) が動作しない

XView ウィンドウ上で Meta-A (Again キー)、Meta-Z (Undo キー) が動作しません。

## [日本語環境のみ] cs00 でコードを区切って区点入力をすると、アプリケーションへの入力が停止する

変換インタフェースモジュールとして CM を選択して、区点入力モードを選択した場合、空白でコードを区切って区点入力を行うと、アプリケーションへの入力が停止することがあります。

回避方法: 区点入力を使用する際に、空白で区切って複数選択することは避け、1文字単位で入力してください。

## [日本語環境のみ] udicm コマンドは、mshow コマンドで -e または -s オプションに何も指定しないとコアダンプする (バグ ID: 1232152)

udicm コマンドを、次のように -s または -e オプションの後に単語の読みを指定しないで使用すると、コアダンプします。

```
% udicm mshow cs00_m.dic -s
```

または

```
% udicm mshow cs00_m.dic -e
```

回避方法: udicm コマンドで mshow コマンドを利用する場合は、-s または -e オプションパラメータの後に、単語の読みを必ず指定してください。

## [日本語環境のみ] mdicm コマンドでメイン辞書を空にするとコアダンプする (バグ ID: 1209956)

mdicm コマンドを次のように使用して、空のメイン辞書を生成しようとする、コアダンプします。

```
% mdicm mshow cs00_m.dic cs00_u.dic > cs00_m.list
% mdicm ldel cs00_m.dic cs00_u.dic cs00_m.list -m mdic.dic -u udic.dic
```

## [日本語環境のみ] cs00 の部首入力を取り消し、次に漢字候補一覧を表示させると、部首の一覧が表示されてしまう (バグ ID: 1257579)

cs00 で次のような操作をすると、漢字候補一覧ではなく部首の一覧が表示されてしまいます。

1. "**^V**" 部首の一覧が表示されます。
2. "**ESC**" 部首の一覧は消えます。
3. "**ki**" "き" が反転表示されます。
4. "**^W**" "き" に対する漢字の候補一覧ではなく、部首の一覧が表示されます。

回避方法 : 部首入力を取り消した後、いったん日本語入力をオフにしてください。

## [日本語環境のみ] OpenWindows 上で候補一覧ウィンドウ表示中にキーが効かなくなる (バグ ID: 4039587)

日本語入力システム Wnn6 を OpenWindows で使用し、「次候補一覧の位置」に「カーソル」または「中央」を指定している場合、候補一覧ウィンドウの表示中にマウスポインタが動くと、キー入力が効かなくなる (次ページ表示操作や選択ができなくなる) ことがあります。

日本語入力システム cs00 を OpenWindows で使用する場合、htt の設定「プリエディット/ステータス」ウィンドウに「カーソルの位置」を指定すると、候補一覧ウィンドウ (LUC) を表示している時にキー入力が効かなくなる (次ページ表示操作や選択ができなくなる) ことがあります。

回避方法 : OpenWindows を利用する場合にはこの設定を使用しないか、キー入力  
が効かなくなった時にはマウスポインタを少しずらしてみてください。

## [日本語環境のみ] 複数言語入力環境で **cs00** (日本語入力) を使用する場合のバグおよび制限事項

標準の設定では、UTF-8 ロケールで起動されたアプリケーションで複数言語入力が  
可能です。ユーザーは、複数言語入力を無効にして、特定の日本語入力システムの  
使用を指定することができます。また、一度指定した日本語入力システムを解除  
し、複数言語入力を有効にすることもできます。

複数言語入力が有効な場合、cs00 がインストールされていて ATOK12 がインストー  
ルされていなければ、日本語の入力には cs00 が使用されます。ATOK12 がインス  
トールされている場合は、ATOK12 が優先して使用されます。

通常、cs00 および ATOK12 は両方ともインストールされますが、明示的に片方、ま  
たは両方をインストールしないことも可能です。また、LANGUAGES CD を使用し  
ないでインストールすると、日本語ロケールは部分ロケールとしてインストールさ  
れ、cs00 だけがインストールされます。

複数言語入力が有効な場合、cs00 は cm インタフェースと共に使用されます。この  
cm インタフェースは、複数言語入力が可能でない環境で cs00 と共に使用される xci  
インタフェースとは異なる機能を持っています。cm インタフェースと xci インタ  
フェースに関しては、『日本語入力システムの概要とセットアップ』の「かな漢字  
変換サーバー・インタフェースモジュール」を参照してください。

複数言語入力環境で cs00 を使用する場合、以下のバグおよび制限事項があります。

- 日本語キーボード固有キーが正しく動作しない (バグ ID: 4307908)

【日本語 On-Off】 【変換】 【確定】 【かな】 キーが正しく動作しません。

回避方法 : 【Ctrl+スペース】 【Ctrl+N】 【Ctrl+K】 を使用してください。【か  
な】 キーについては回避方法がないので、かな入力を行うには他の日本語ロケ  
ールを使用してください。

- ja\_JP.UTF-8 部分ロケールで CDE にログインした後、env LANG=ja を指定し  
てアプリケーションを起動すると、そのアプリケーションでは日本語入力を使用  
できない (バグ ID: 4305876)

ja の代わりに他の日本語ロケールを指定した場合も同様に、日本語入力を使用  
できません。

回避方法 :そのアプリケーションを動作させたいロケールでログインし直してください。

---

## ATOK12

Solaris 8 で新しく提供される日本語入力システム ATOK12 に関する、注意事項とバグ情報について説明します。

### [日本語環境のみ] ATOK12 がサポートするウィンドウ環境

ATOK12 は、CDE (共通デスクトップ環境) での使用のみがサポートされています。OpenWindows 環境での使用はサポートされていません。OpenWindows 環境では、Wnn6、ATOK8、または cs00 を使用してください。

### [日本語環境のみ] 修飾キーをロックしていると、ATOK パレットのメニューが表示されない (バグ ID: 4270090)

「Caps Lock」、「Num Lock」、「かな」のような修飾キーをロックしている場合、ATOK パレット上でメニューを表示することができません。

回避方法 : 修飾キーのロックを解除してからメニューを表示してください。環境設定など ATOK パレット上にボタンのある機能については、ボタンを使用することによって、修飾キーをロックしたままでも起動できます。

### [日本語環境のみ] ATOK12 の一部のコマンド行ユーティリティに関するマニュアルページが提供されていない

ATOK12 の一部として提供される以下の 2 つのコマンド行ユーティリティのマニュアルページが提供されていません。

- atok12migs (1)
- atok12mngtool (1M)

回避方法 :



■ atok12migs(1) について

『日本語入力システムの概要とセットアップ』の「ユーザー登録単語および環境ファイルの移行」の中の「ATOK12 への移行」を参照してください。ただし、補足として以下の点に注意してください。

- 出力先の ATOK12 スタイルファイルがすでに存在する場合でも、その内容は参照されず、変換結果により上書きされます。
- オプション `-k` または `-r` を指定した場合、変換対象とならない方の環境 (`-k` の場合はローマ字、`-r` の場合は機能のキー割り当て) については ATOK12 のデフォルトの内容になります。

■ atok12mngtool(1M) について

以下の記述を参照してください。

atok12mngtool(1M) は、ATOK12 のユーザー情報を参照・変更する場合に使用します。このユーティリティは同時に 1 つしか起動できません。

起動方法:

スーパーユーザーになり、以下のコマンド行を使って起動します。

```
# /usr/sbin/atok12mngtool
```

機能:

atok12mngtool(1M) が起動されると、プロンプト文字列が出力されます。ここで内部コマンドを指定することができます。内部コマンドには 4 種類あります。

**追加 (a)** ユーザー名を指定して登録します。ATOK12 のデフォルトの設定 (今回のリリースでは、この設定だけがサポートされます) では、登録されていないユーザーが ATOK12 を使おうとした時点で自動的に登録が行われるので、この機能を使用して事前にユーザーを追加する必要はありません。

**削除 (d)** ユーザーを登録から削除します。

**一覧 (l)** ATOK12 を使用するために登録されているユーザーの名前を出力します。全ユーザーの情報を処理してからユーザー名の出力を開始しますが、ユーザー名の出力が始まるまでの間、処理した数 100 ユーザーごとに文字「+」を出力します。

終了 (q)

この管理ツールを終了します。

## [日本語環境のみ] 辞書ユーティリティの使用する単語ファイルのコードセット

辞書ユーティリティへの入力に使用する単語ファイルは、日本語 EUC (eucJP) または Unicode (UCS-2) で記述してください。辞書ユーティリティから出力される単語ファイルのコードセットは、「Unicode で出力する」を選択した場合は Unicode (UCS-2)、「Unicode で出力する」を選択しなかった場合は日本語 EUC (eucJP) となります。

単語ファイルの内容を表示したり編集したりする場合は、ロケールに応じて `iconv` コマンドでコードセットを変換してください。

## [日本語環境のみ] 辞書ユーティリティを使ってユーザー定義文字を辞書に登録できない (バグ ID: 4360487)

辞書ユーティリティの単語一括処理機能を使用した単語登録で、ユーザー定義文字を正しく登録できません。Solaris 外字ツール (`sdtudctool`) から出力された単語ファイルを使用した場合も、この問題が発生します。上記の操作を行なった場合、登録操作は成功しますが、実際に登録される内容は 1 個または複数個のげた記号 (=) になります。

回避方法: `iconv` コマンドを使って、単語ファイルのコードセットを日本語 EUC から Unicode (UCS-2) に変換して使用してください。

例: 日本語 EUC で作成された単語ファイル名が `atok12udc.txt` の場合

```
% iconv -f eucJP -t UTF-8 atok12udc.txt | iconv -f UTF-8 -t UCS-2 > atok12udc.ucs2.txt
```

変換後のファイルの名前 `atok12udc.ucs2.txt` を、辞書ユーティリティ上で単語ファイル名として指定します。この回避方法を使用した場合でも辞書ユーティリティ上では単語はげた記号 (=) として表示されますが、辞書への登録は正しく行われます。変換操作時の未確定文字列としての表示や候補表示では正しい文字が表示され、確定も正しく行われます。

## [日本語環境のみ] コード入力と記号入力で日本語 EUC に基づいた区点を指定しても、ユーザー定義文字を正しく入力できない (バグ ID: 4339055)

コード入力と記号入力でコード体系として「区点」を選択し、日本語 EUC での領域割り当てに基づいた区点を指定しても、正しい文字が入力されません。たとえば、ユーザー定義文字領域の先頭の文字は日本語 EUC では JIS X 0208 の 85 区 1 点に相当するコード位置に割り当てられますが、85 区 1 点を指定してもその文字が入力されません。

回避方法：区点を指定する際に、次の表の右端の値を区として指定してください。

入力したい文字が属する区	日本語 EUC での割り当て	指定する区
ユーザー定義文字 1 区	JIS X 0208 85 区	95 区
ユーザー定義文字 2 区	JIS X 0208 86 区	96 区
：		
ユーザー定義文字 10 区	JIS X 0208 94 区	104 区
ユーザー定義文字 11 区	JIS X 0212 85 区	105 区
ユーザー定義文字 12 区	JIS X 0212 86 区	106 区
：		
ユーザー定義文字 20 区	JIS X 0212 94 区	114 区

## [日本語環境のみ] Java 2 クライアントから ATOK12 を使用する場合の制限事項とバグ情報

### Java 2 アプリケーションのデフォルト入力方式 (「システム入力方式」)

Java 2 アプリケーションを起動した場合、デフォルトでは「システム入力方式」(プラットフォームの入力システム)を使用します。

今回の Solaris 8 リリース上で実行している場合は、実行環境によって、CDE または OpenWindows 上の X アプリケーションが使用するのと同様の方法で、日本語入力

システムと接続します。したがって、ATOK12 (CDE の場合のみ)、Wnn6、ATOK8、cs00 のいずれかの、設定されている入力システムと接続します。

## 「ネットワーク入力方式」としての ATOK12 の使用

プラットフォームに依存せずに、直接 Java 2 実行環境が入力システムと接続する方式を「ネットワーク入力方式」といいます。今回の Solaris 8 リリースに付属する Java 2 実行環境を使用する場合に限り、今回の Solaris 8 リリースでは ATOK12 はネットワーク方式としても利用できます。この方式で使用するには、必要な設定や制限事項があります。以降の記述を参照してください。

## Java 2 アプリケーションから「ネットワーク入力方式」として ATOK12 を使用する場合、設定ファイルの作成が必要

この設定ファイルを用意してから Java 2 アプリケーションを起動すると、ウィンドウのフレームから起動できるメニューで入力方式を選択できます。「ネットワーク入力方式」から「日本語」を選択すると、ATOK12 に接続します。

ファイル名	.iiimp
ファイルを置くディレクトリ	アプリケーションを使用するユーザーのホームディレクトリ
内容	次の 2 行：  <code>iiimp.server=iiimp://localhost</code>  <code>iiimpf.object.download=true</code>

## Java 2 アプリケーションから「ネットワーク入力方式」として ATOK12 を使用する場合の制限事項

Java 2 アプリケーションから「ネットワーク入力方式」として ATOK12 を使用する場合、X アプリケーションから使用する場合のバグ・制限に加えて、以下の表示に関するバグ・制限があります。

- 候補一覧
  - ATOK パレット
  - 記号入力、コード入力、エラーメッセージ
  - 辞書ユーティリティなど ATOK パレットから起動できるユーティリティ
- バグ・制限の内容は次のとおりです。

- CDE の入力システムとして ATOK12 を使用している場合は表示されない
- デスクトップ (X サーバー) 上で最初に起動した Java 2 アプリケーションだけに対して表示される
- 辞書ユーティリティを起動できない
- ATOK12 文字パレットの和文コード表で体系として JIS を選択すると文字化けする

---

## ハードウェア構成

ハードウェア構成に関するバグ情報について説明します。

### システムが複数の **USB** デバイスを持つ場合、ブート時にメモリーが不足するとパニックが発生する (バグ ID: **4359440**)

複数の USB デバイスが接続されているシステムにメモリーが十分でない場合、ディスク、CD、またはネットワークからシステムをブートすると、パニックが発生することがあります。このとき、次のいずれかのメッセージが表示されます。

```
panic[cpu0]/thread=1040800: main: unable to fork init
```

または

```
panic[cpu0]/  
thread=2a1000fdd40: BAD TRAP: type=31 rp=2a1000fd0a0 addr=c0 mmu_fsr=0  
occurred in module "genunix" due to a NULL pointer dereference
```

回避方法: システムに 5 つ以上の USB デバイスが接続されている場合は、USB キーボードとマウスだけを接続してシステムをブートしてください。システムのブート後に Solaris ログインプロンプトが表示されたら、残りの USB デバイスを接続してください。

---

## ハードウェアのサポート

### **sd: メディアが存在しないときに出力される警告メッセージは無効 (バグ ID: 4338963)**

リムーバブルメディアが挿入されていないときにメディアへの読み取り指令が発行された場合、その読み取りは失敗します。その際に、以下のような警告メッセージがコンソールとログファイルに出力されます。

```
scsi: [ID 107833 kern.warning] WARNING: /pci@1f,0/pci@1,1/ide@3/
sd@2,0 (sd30):
  i/o to invalid geometry
```

---

**注** - 警告メッセージ中のパスは、実際のリムーバブルメディアデバイスのパス名に置き換えられます。

---

この警告メッセージは正しくありません。リムーバブルメディアデバイスにメディアがない場合は読み取りは失敗しますが、本来、警告メッセージは出力されません。

回避方法: 対象がリムーバブルメディアである場合は、この警告メッセージは無視してください。

---

## Java

Java に関する注意事項とバグ情報について説明します。

### **Java Plug-in のサポート**

Java Plug-in 1.2 は、Java 2 アプレットを実行するデフォルトのプラグインです。Java Plug-in 1.2 では、Java 1.1 アプレットを実行できないことがあります。Java Plug-in 1.1 は、<http://www.sun.com/solaris/netscape> からダウンロードすることができます。

同じシステム上に Java Plug-in 1.1 と Java Plug-in 1.2 の両方を置く場合は、以下のマニュアルに記述されている手順で、Java Plug-in 1.1 をインストールし、環境設定を行なってください。

[http://www.sun.com/solaris/netscape/jpis/usersguide\\_java\\_plugin.html](http://www.sun.com/solaris/netscape/jpis/usersguide_java_plugin.html)  
で「Java Plug-in for Solaris > Users Guide」の「Installing Java Plug-in」を参照してください。

## UTF-8 ロケールで Java 2 アプリケーションを実行する時に警告メッセージが表示される (バグ ID: 4254198)

UTF-8 ロケールで Java 2 アプリケーションを起動する時、フォントに関する次のような警告メッセージが表示されます。

```
Font specified in font.properties not found  
[-b&h-LucidaBrightLat4-Normal-r-normal--*-%d-*-*p-*-iso8859-4]
```

回避方法 : 問題は発生しないので、警告メッセージは無視してください。

## [日本語環境のみ] アプレット上での日本語入力が正しく動作しないことがある (バグ ID: 4052171)

Solaris ユーザー登録などのテキストフィールドを使ったアプレット上で、Tab キーを使ってテキストフィールドの入力項目を移動した場合、日本語入力の第 1 文字目に変換されない場合があります。

回避方法 : 変換に失敗した箇所は、もう一度入力し直してください。

---

## パフォーマンス

パフォーマンス全般に関する注意事項について説明します。

## PCI-IDE システム上で DMA が無効になる

デフォルトでは、Solaris ata デバイスドライバは、ATA/ATAPI デバイスに対して Direct Memory Access (DMA) 機能を無効にします。

ATA/ATAPI ドライブに対する DMA が適切にサポートされていないシステム上で問題が発生するのを避けるために、この機能は無効にされています。発生するほとんどの問題は、旧式のシステム BIOS に関連しています。

Solaris 8 オペレーティング環境のインストール後に、ata ドライバの DMA 機能を有効または無効にするには、次の手順を実行してください。

1. ブートフロッピーディスクまたは INSTALLATION (Multilingual) CD (システムが CD-ROM ブートをサポートしている場合) から、Intel 版 Solaris の Device Configuration Assistant (デバイス構成補助) を実行します。

---

注 - Device Configuration Assistant フロッピーディスクを使用してブートする時に、新しい ata-dma-enabled 属性値がフロッピーディスク上に保存されます。したがって、属性値を変更した場合は、Device Configuration Assistant フロッピーディスクを再度使用した時に、変更後の値が有効になります。

---

2. F2 キーを押して、デバイスを走査します。
3. F2 キーを押して、ブートデバイスのリストを表示します。
4. F4 キーを押して、View/Edit Property Settings を選択し、F2 キーを押します。
5. ata-dma-enabled 属性の値を 1 に変更して、DMA を有効にします (値を 0 にすると DMA を無効にします)。
  - a. ata-dma-enabled 属性をリストから選択し、F3 キーを押します。
  - b. 1 を入力し、F2 キーを押して、有効にします (0 を入力して F2 キーを押すと無効になります)。
  - c. F2 キーを押し、次に F3 キーを押して、Boot Solaris メニューに戻ります。
  - d. どのデバイス (ネットワークアダプタまたは CD-ROM) からインストールを実行するかを選択し、F2 キーを押します。

---

注 - DMA を有効にした後に問題が発生した場合は、DMA を無効にし (上記の手順で ata-dma-enabled 属性を 0 にし)、最新の BIOS でシステムを更新し、再度 DMA を有効にしてください。最新の BIOS については、ハードウェアのご購入先にお問い合わせください。

---



---

## AnswerBook2

AnswerBook2 に関する注意事項およびバグ情報について説明します。

### ab2admin コマンドの実行に成功しても、断続的に command failed と表示される (バグ ID: 4242577)

ab2admin が失敗すると、エラーメッセージには “Command failed” に加えて情報が示されます。たとえば、“path not found” または “invalid ID” などと示されます。

回避方法： command failed というメッセージが表示された場合は、処理が失敗しているかどうかを確認してください。たとえば、AnswerBook2 のデータベースからコレクションを削除するためのコマンドを実行した場合は、次のコマンドを実行してデータベース中のコレクションを表示して確認してください。

```
# ab2admin -o list
```

“command failed” のほかに何も情報が表示されないときは、エラーメッセージを無視してもよい場合もあります。

### ab2cd スクリプトから誤ったエラーメッセージが表示される (バグ ID: 4256516)

AnswerBook2 サーバーの起動中に、ab2cd スクリプトが次のようなエラーメッセージを出力します。

```
sort: can't read /tmp/ab1_sort.XXX: No such file or directory
```

これは、ab2cd スクリプトが DOCUMENTATION CD 上に AnswerBook1 Collections を見つけることができないことを示すエラーメッセージです。

回避方法：エラーメッセージは無視してください。

## UTF-8 ロケールで ab2cd を起動すると、エラーメッセージが表示され、ヘルプライブラリしか表示されない (バグ ID: 4308667)

UTF-8 ロケールで ab2cd を起動すると、次のようなエラーメッセージが表示され、ヘルプライブラリだけしか表示されません。

```
sort: insufficient memory: use -S option to increase allocation
```

回避方法 : UTF-8 以外のロケールで ab2cd を起動してください。

---

## Netscape Communicator 4.75 (日本語版)

Netscape Communicator 4.75 (日本語版) に関する注意事項とバグ情報について説明します。

### [日本語環境のみ] ページ情報ダイアログ内の日本語が正しく表示されない場合がある (バグ ID: 4269123)

Netscape Communicator 4.75 を ja\_JP.PCK ロケールまたは ja\_JP.UTF-8 ロケールで使用する場合、ページ情報ダイアログ内の日本語の一部が文字化けしたり、ダイアログのタイトルが表示されないことがあります。ja ロケールで使用している場合は、この問題は起こりません。

### [日本語環境のみ] CDE アプリケーションから日本語文字列をコピー & ペーストできない (バグ ID: 4197428)

キーボードの Copy キー、Paste キー、編集メニューの「コピー」、「ペースト」を使用して、端末エミュレータやテキストエディタなどの CDE アプリケーションから Netscape Communicator に日本語文字列をコピー & ペーストできません。

回避方法 : マウスの左ボタンでコピーしたい文字をハイライト表示し、マウスの中ボタン (2 ボタンマウスの場合は右ボタン) を使って、Netscape Communicator 上にペーストしてください。

---

注 - マウスボタンのマッピングを左利き用に設定している場合は、左ボタンと右ボタンの機能が逆になります。

---

## **Netscape Communicator 4.75 の使用許諾契約書の内容が途中で切れている (バグ ID: 4170571)**

Netscape Communicator 4.75 を最初に起動した際に、使用許諾契約書を表示するダイアログが表示されますが、契約書の内容が途中で切れています。

回避方法 :以下の場所にある license ファイルを直接参照してください。

```
/usr/dt/appconfig/netscape/lib/locale/<locale>/netscape/license
```

---

## **英語以外のロケールに関するバグ情報**

英語以外のロケールに関する注意事項およびバグ情報について説明します。

### **ヘルプシステムに古いファイルが存在する (バグ ID: 4339515)**

フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語のロケールでは、フロントパネルから「Help」->「Information」を選択すると、古いファイルのリストが表示されます。正しい情報が記載されているファイルの名前は S8FCSreleasenotes です。

### **ヨーロッパ言語のロケールで、Solaris Management Console (SMC) のツールボックスに表示されないツールがある (バグ ID: 4391812)**

ヨーロッパ言語のロケールで SMC のツールボックスを読み込んだ際に、ツールボックス内に表示されないツールがあります。また、以下のエラーメッセージが出力される場合があります。

```
** Parsing error, line 1,  
uri http://fubar:898/toolboxes/smc/smc.tbx  
com.sun.xml.parser/P-076 Malformed UTF-8 char  
-- is an XML encoding declaration missing?
```

回避方法 : `smc edit` を実行して、ヨーロッパ言語用のデフォルトのツールボックスを変更するか、新しいツールボックスを作成してください。

## コンテキストヘルプの一部が表示されない (バグ ID: 4391781、4389039)

Solaris Management Console および Web-Based Enterprise Management 内のアプリケーションで使用されているコンテキストヘルプの一部が、正しく表示されません。

## UTF-8 ロケールで Euro にアクセスできない (バグ ID: 4363812)

UTF-8 ロケールでは、標準キーシーケンス ALTGr+E を使用して Euro にアクセスすることができません。

回避方法 : 任意の ISO8859-15 ロケールにログインして、Alt+E を使用して Euro にアクセスしてください。

## UTF-8 ロケールで Java アプリケーションを起動する時に警告メッセージが表示される (バグ ID: 4342801)

LucidaSansLat4 フォント別名が利用できないため、UTF-8 ロケールで Java アプリケーションを起動する時に、関連するエラーメッセージが表示されることがあります。

回避方法 : その言語の ISO8859-1 ロケールでログインして、Java アプリケーションを起動してください。

## ISO8859-1 以外のロケールにおけるフォントダウンローダでの印刷

ISO8859-1 ロケール以外のロケールで、フォントダウンローダを使用して印刷をするには、次の手順を実行してください。

1. 共通デスクトップ環境 (CDE) にログインします。
2. コマンド行で `fdl` と入力して、フォントダウンローダを起動します。
3. [プリンタ] メニューから [追加] を選択して、プリンタを指定します。
4. [ダウンロード] メニューから [Font Bundle] を選択します。

印刷に必要なコードセットに応じて、指定したプリンタにフォントバンドルがダウンロードされます。

## 共通デスクトップ環境 (CDE) で一部のギリシア文字が利用できない (バグ ID: 4179411)

CDE 上で正しく動作しないデッドキー (現在位置の前進動作を伴わない文字) の組み合わせがあります。また、ギリシア語ロケールにおいて、カレンダー・マネージャで月の名前が正しく表示されません。

## すべての部分ロケールで、カレンダー・マネージャ中の拡張文字を印刷できない (バグ ID: 4285729)

部分ロケールでカレンダー・マネージャを使用している時、拡張文字が正しく印刷されません。

## アラビア語と UTF-8 ロケールの英語との間で、テキストをカット&ペーストできない (バグ ID: 4287746)

`en_US.UTF-8` のアラビア語入力モードで実行しているアプリケーションまたはウィンドウと、`ar_EY.ISO8859-1` のアラビア語入力モードで実行しているアプリケーションまたはウィンドウとの間で、アラビア語テキストをカット&ペーストできません。

## ヨーロッパ言語のロケールで、**CDE** の **Extras** ドロップ ダウンメニューを使用できない (バグ ID: 4298547)

ヨーロッパ言語ロケールの CDE アプリケーションでマウスの右ボタンをクリックしても、Extras ドロップダウンメニューのメニューオプションが表示されません。

## 日本語およびアジア各国語の **UTF-8** ロケールで **CTL** が サポートされていない (バグ ID: 4300239)

タイ語、アラビア語、ヘブライ語を入力するための CTL (Complex Text Layout) サポートが、en\_US.UTF-8 およびヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールに実装されました。ただし、ja\_JP.UTF-8、ko.UTF-8 (ko\_KR.UTF-8)、zh.UTF-8 (zh\_CN.UTF-8)、zh\_TW.UTF-8 ロケールでは実装されていません。

回避方法 : CTL を使用するタイ語、アラビア語、ヘブライ語を入力する必要がある場合は、en\_US.UTF-8 ロケールを使用してください。

## アプリケーションの画面の一部が英語で表示される (バグ ID: 4301212)

スマートカード、AnswerBook2、Solaris PDA Sync、Printer Administrator、リムーバブルメディア・マネージャ、グラフィカル・ワークスペース・マネージャ、ホットキー・エディタの各アプリケーションは、一部のユーザーインターフェースやメッセージが英語で表示されます。

## ギリシア語ロケールの **Solstice AdminTools** で、ユーザーを追加、削除、変更できない (バグ ID: 4302983)

ギリシア語ロケールでは、AdiminTools™ のユーザーの追加、削除、変更を行う画面が空白で表示されます。

回避方法 : スーパーユーザーになって、以下のようにファイルをコピーしてください。

```
% cp /usr/openwin/lib/locale/C/app-defaults/Admin \  
/usr/openwin/lib/locale/el_GR.ISO8859-7/app-defaults/Admin
```

上記のファイルをコピーした後、ギリシア語ロケールの AdiminTools で、ユーザーを追加、削除、変更できるようになります。

## イタリア語ロケールで、フォントダウンローダの「Add」ボタンと「Cancel」ボタンが正しく表示されない (バグ ID: 4303549)

フォントダウンローダをイタリア語ロケールで使用している場合、「Add Printer」ダイアログ中の「Add」ボタンと「Cancel」ボタンに相当するボタンが「A ...」と表示されます。

正しくは、左側のボタンが「Aggiungi」(Add) ボタンで、右側のボタンが「Annulla」(Cancel) ボタンです。

## Sun アラビア語キーボードの文字と Microsoft アラビア語キーボードの文字が互換でない (バグ ID: 4303879)

次の表に、Sun の Solaris アラビア語キーボードと、Microsoft のアラビア語キーボードの相違を示します。

表 4-1 Sun キーボードと Microsoft キーボードの相違点

キー	Sun キーボードの配列	Microsoft キーボードの配列
T	T	下にハムザ記号が付いているアラビア文字 Lam_alef
U	U	' (右単一引用符)
I	I	アラビア文字の乗算記号
O	O	アラビア文字の除算記号
A	;	アラビア文字 Kasra
S	S	アラビア文字 Kasratan
Z	Z	~ (チルド記号)
X	X	アラビア文字 Sukun

表 4-1 Sun キーボードと Microsoft キーボードの相違点 続く

キー	Sun キーボードの配列	Microsoft キーボードの配列
C	アラビア文字 Kasratan	{ (左大括弧)
V	アラビア文字 Kasra	} (右大括弧)
M	Sukun	単一下方引用符
<	<	アラビア文字のカンマ

## SEAM アプリケーションにおいて、英語のメッセージが表示される (バグ ID: 4306619)

インストール時に Kerberos 設定が選択された場合のみ、SEAM は Solaris 8 オペレーティング環境のいくつかのリソースファイルを使用します。

## ギリシア語ロケールおよび UTF-8 ロケールで、ユーロ通貨記号が正しくサポートされていない (バグ ID: 4306958、4305075)

UTF-8 ロケールで AltGr+E キーを押しても、ユーロ通貨記号が生成されません。

回避方法：UTF-8 ロケールでユーロ通貨記号を入力するには、次の手順を実行してください。

1. [UTF-8 Input Mode Selection] ウィンドウで [Lookup] を選択します。
2. [Currency Symbols] を選択します。
3. ユーロ通貨記号を選択します。

---

注 - ギリシア語ロケールでは、コンソールのプロンプトで `dumpcs` と入力し、次にユーロ通貨記号をコピー&ペーストしてください。

---



## ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しない (バグ ID: 4307314)

ヨーロッパ言語の UTF-8 ロケールで、ソートが正しく機能しません。

回避方法：フランス語、イタリア語、ドイツ語、スペイン語、スウェーデン語の UTF-8 ロケールでソートを行う前に、LC\_COLLATE 変数をその言語の ISO8859-1 ロケールに設定してください。

```
# echo $LC_COLLATE
es_ES.UTF-8
# setenv LC_COLLATE es_ES.IS08859-1
```

上記のように LC\_COLLATE 変数を設定後、ソートを行なってください。

---

## その他

### バンドルされたフリーウェアのソフトウェアが国際化対応でない

以下のフリーウェアのソフトウェアが Solaris Software CD にバンドルされていますが、これらは国際化および各国語対応されていません。

Apache	Perl	bash-2.03	bzip2-0.9.0c
gzip-1.2.4	less-340	mkisofs-1.12b5	patch-2.4.5
rpm2cpio.pl	tcsch-6.09	zlib-1.1.3	zip-2.2
zsh-3.0.6			



## 機能に関する情報

---

この章では、Solaris 8 の機能に関する情報を説明します。Solaris 8 1/01 の新機能については、<http://docs.sun.com> に掲載されている「Solaris 8 1/01 Update Collection - Japanese」中のマニュアルを参照してください。

---

### ディスクレスクライアントのサポート

Solaris 8 1/01 オペレーティング環境では、ディスクレスクライアントがサポートされています。ただしこのリリースでのサポート対象は、SPARC アーキテクチャまたは Intel (IA) アーキテクチャのサーバーからサービスを受ける、SPARC アーキテクチャのクライアントに限定されています。

IA ディスクレスクライアントは、将来のリリースの Solaris オペレーティング環境でサポートされる予定です。

---

### PIM カーネルのサポート

Solaris 8 オペレーティング環境には、RFC 2362 に記述されている PIM プロトコルに対するカーネルサポートが含まれています。Solaris 8 オペレーティング環境には、ルーティングデーモンが含まれていませんが、Solaris 8 を使用してマルチキャストネットワークのトラフィックをルーティングしたい場合は、

<http://netweb.usc.edu/pim> から PIM プロトコルの実装 (sparse モードと dense モードの両方) を入手してください。

---

## 実行時検索パスの構成

ld コマンドの `-z nodefaultlib` オプションと、新しい `crle(1)` ユーティリティによって作成される実行時構成ファイルを使用することによって、実行時リンカーの検索パスを変更することができるようになりました。

---

## [日本語環境のみ] コード変換 (iconv)

`iconv(3)` および `iconv(1)` を通して利用できるコード変換に、以下のものが追加されました。

---

(入力側コードセット)	(出力側コードセット)
PCK	ibm5026
PCK	ibm5035
PCK	ibm930
PCK	ibm931
PCK	ibm939
UTF-8	ibm5026
UTF-8	ibm5035
UTF-8	ibm930
UTF-8	ibm931
UTF-8	ibm939
eucJP	ibm5026
eucJP	ibm5035
eucJP	ibm930
eucJP	ibm931
eucJP	ibm939
ibm5026	PCK

---

(入力側コードセット)	(出力側コードセット)
ibm5026	UTF-8
ibm5026	euclJP
ibm5035	PCK
ibm5035	UTF-8
ibm5035	euclJP
ibm930	PCK
ibm930	UTF-8
ibm930	euclJP
ibm931	PCK
ibm931	UTF-8
ibm931	euclJP
ibm939	PCK
ibm939	UTF-8
ibm939	euclJP
UTF-8	ms932
ms932	UTF-8
UTF-8	UTF-8-ms932
UTF-8-ms932	UTF-8

上記のコードセット名のうち Solaris 8 で初めてサポートされるものは、以下のとおりです。

(コードセット名)	(概要)
ibm930	IBM CCSID 930 SBCS はカタカナと英小文字両方をサポート。SBCS の英小文字に割り当てるコードはコードページ 37 (米国/カナダ) とは異なる。MBCS 中のユーザー定義文字領域は 4370 文字分。
ibm931	IBM CCSID 931 SBCS はカタカナはサポートしない。MBCS は ibm930 と同じ。

(コードセット名)	(概要)
ibm939	IBM CCSID 939 SBCS はカタカナと英小文字両方をサポート。SBCS の英小文字に割り当てるコードはコードページ 37 (米国/カナダ) と同じ。MBCS は <code>ibm930</code> と同じ。
ibm5026	IBM CCSID 5026 MBCS 中のユーザー定義文字領域が 1880 文字分であることを除き <code>ibm930</code> と同じ。 <code>iconv</code> の動作は <code>ibm930</code> の場合と同じ。
ibm5035	IBM CCSID 5035 MBCS 中のユーザー定義文字領域が 1880 文字分であることを除き <code>ibm939</code> と同じ。 <code>iconv</code> の動作は <code>ibm939</code> の場合と同じ。
ms932	このコードセットと他のコードセットの間の変換では WindowsNT 3.51 がマイクロソフトコードページ 932 と Unicode の間で行う変換に基づいた変換を行う。
UTF-8-ms932	<code>ms932</code> からの変換の結果得られる UTF-8。eucJP、PCK など <code>ms932</code> 以外のコードセットからの変換の結果得られる UTF-8 との間で相互に変換が可能。

## [日本語環境のみ] 日本語入力システム ATOK12

日本語入力システムとして ATOK12 が追加されました。ja\_JP.UTF-8 ロケールなどの UTF-8 ロケールにおいては、複数言語入力環境での使用にも対応しています。ATOK12 の特長や使い方については、『ATOK12 ユーザーズガイド』、『日本語入力システムの概要とセットアップ』、ATOK12 のオンラインヘルプを参照してください。

## サポート中止に関する情報

---

この章では、製品のサポート中止情報について説明します。

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれる Solaris Web Start 3.0 の Kiosk および Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) に含まれている『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』の作成後に見つかった、以下のサポート中止情報が追記されています。

- sendmail ユーティリティ
- AnswerBook2 サーバー

---

### Solaris 8 でサポートを中止した製品

#### HotJava ブラウザ

HotJava™ ブラウザのサポートは中止されました。

#### Solaris Java Development Kit: JNI 1.0 インタフェース

Java Native Interface バージョン 1.0 (JNI 1.0) のサポートは、Solaris Java Development Kit バージョン 1.2 (JDK 1.2) で中止されました。

Solaris Java Development Kit (JDK) では、Java Native Interface バージョン 1.0 (JNI 1.0) のサポートは中止されました。JNI 1.0 は、Native Method Interface (NMI) としても知られています。

## Solstice AdminSuite 2.3/AutoClient 2.1

Solstice AdminSuite 2.3 ソフトウェアは、Solaris 8 でサポートが中止されました。Solstice AutoClient™ またはディスククライアントを構成するために Solstice AdminSuite 2.3 を実行しようとしても失敗します。これに対処するためのパッチは提供されていません。また、今後リリースされる予定もありません。手動で構成ファイルを編集してディスククライアントを有効にすることは可能ですが、お薦めできません。また、この方法は Sun ではサポートしていません。

## F3 フォントテクノロジー

Sun のスケーラブルフォント技術である、F3 フォントおよび TypeScaler ラスタライザのサポートは中止されました。Sun は、業界標準のフォント形式である Type1 および TrueType を今後もサポートします。

## XGL

XGL のサポートは中止されました。

## 派生型 `paddr_t`

`sys/types.h` に含まれるデータ型 `paddr_t` は、64 ビットのコンパイル環境ではサポートされません。このデータ型は、現在 32 ビットのコンパイル環境だけで使用できます。

## ユーザーアカウントデータのアプリケーションプログラミングインタフェース (API) に対する変更

ユーザーアカウントデータにアプリケーションがアクセスするための API には 2 通りあります。ユーザーアカウント情報にアクセスして処理を行うための API については、`getutxent(3C)` のマニュアルページに記載されています。こ



これらの API は、以前の `getutent(3C)` ルーチンよりも機能が充実し、移植性に優れています。

古いアプリケーションの中には、アカウントファイルに直接アクセスしているものがあります。`/var/adm/utmp` ファイルおよび `/var/adm/wtmp` ファイルと、これらに対応するシンボリックリンク `/etc/utmp` および `/etc/wtmp` は、サポートされなくなりました。これらのファイルに含まれているデータ形式によって、将来の Solaris オペレーティング環境に制限が生じるためです。これらのファイルを使用しているアプリケーションは、文書化されサポートされている API を使用するように更新する必要があります。

小規模なシステム構成上では、すでに `getutent(3C)` ファミリのルーチンを使用しているアプリケーションに影響はありません。ただし将来のリリースで大規模システム構成上で使用された場合に、エラーを返す可能性があります。このため、古いコードと新しいコードの両方において、`getutent(3C)` API ではなく `getutxent(3C)` ルーチンを使用することをお勧めします。

## sysidnis(1M) システム認識プログラム

`sysidnis(1M)` のサポートは中止されました。`sysidnis(1M)` は、インストール中およびアップグレード中や、`sys-unconfig(1M)` を使用して構成を解除した後、ネームサービスを構成するためのシステム認識プログラムです。

`sysidnis(1M)` の機能は、`sysidns(1M)` に含まれるようになりました。

## コンソールサブシステム

IA システムで動作する Solaris オペレーティング環境のコンソールサブシステムが、新しいサブシステムに変更されました。この新しいサブシステムでは、SPARC システムで動作する Solaris オペレーティング環境のコンソールサブシステムとの互換性が強化され、将来的な拡張性にも優れています。これに伴い、多数の文書化されていないインタフェースやサポートされていないインタフェース、若干の文書化されているインタフェースが、無効になりました。

文書化されているインタフェース:

- `pcmapkeys(1)`
- `loadfont(1)`
- `loadfont(4)`

文書化されていない・サポートされないインタフェース:

- /usr/include/sys/kd.h 中にリストされている ioctl
- /usr/include/sys/vt.h 中にリストされている ioctl
- VT に対するサポート
- /dev/vt\*
- コンソールの端末タイプが AT386 ではなくなりました。新しい端末タイプは sun-color です。

## ビデオカード

Solaris オペレーティング環境における、次のビデオカードに対するドライバのサポートが中止されました。

- Boca Voyager 64
- Compaq QVision 1024
- Compaq QVision 2000
- FIC 864P
- Everex ViewPoint 64P
- Everex VBA Trio 64P
- Matrox Impression Plus
- Western Digital Paradise Bahamas

## sdtudc\_extract\_ps

sdtudc\_extract\_ps が廃止され、その機能は sdtudc\_extract に統合されました。

## 将来のリリースでサポートを中止する予定の製品

### sendmail ユーティリティ

sendmail ユーティリティの一部は、将来のリリースでサポートされなくなる予定です。サポートされなくなる機能は、標準機能に対して Sun が独自に修正を加えた部分です。たとえば、V1/Sun 構成ファイル用の特殊な構文や意味解釈、リモートモード機能、Sun 固有の 3 つの逆別名機能などがこれに当たります。

これらの機能および移行方法の詳細については、<http://www.sendmail.org/vendor/sun/solaris9.html> を参照してください。

### AnswerBook2 サーバー

AnswerBook2™ サーバーは、将来のリリースでサポートされなくなる予定です。Solaris のマニュアルは、引き続き Solaris DOCUMENTATION CD からオンライン形式でご利用いただけます。また、<http://docs.sun.com> では、常にすべての Solaris のマニュアルを参照できます。

### GMT zoneinfo タイムゾーン

下記の表の左の列に示されている zoneinfo タイムゾーンは、将来のリリースでサポートされなくなる予定です。これらのタイムゾーンのファイルは、`/usr/share/lib/zoneinfo` ディレクトリから削除されます。右の列に示されている対応するタイムゾーンに置き換えて使用してください。

---

注 - TZ 環境変数を zoneinfo GMT[+-]\* タイムゾーンに設定する時、タイムゾーンの前にコロン (:) を付けてください。たとえば、zoneinfo タイムゾーン TZ=:GMT+1 (グリニッジ子午線より 1 時間西) の設定は、これと同等の zoneinfo タイムゾーン設定 TZ=:Etc/GMT-1 に置き換えてください。

---

予定されている上記の GMT[+-]\* タイムゾーンの削除は、POSIX 形式の GMT[+-]\* タイムゾーンの設定 (コロンなし。たとえば TZ=GMT+1) には影響しません。`/usr/share/lib/zoneinfo/Etc` ディレクトリにある同じ名前の同等の zoneinfo タイムゾーンを使用できます。POSIX 形式のタイムゾーンは、タイムゾーンの短縮名に GMT が付いているだけですが、zoneinfo タイムゾーンは、GMT

との時差を示します。たとえば、POSIX 形式のタイムゾーン設定 TZ=GMT+1 は、これと同等の zoneinfo タイムゾーン設定 TZ=:Etc/GMT+1 に置き換えてください。

environ(5) および zoneinfo(4) のマニュアルページを参照してください。

表 6-1 GMT zoneinfo タイムゾーン

将来のリリースで削除される予定の <b>zoneinfo</b> タイムゾーン	利用できる同等の <b>zoneinfo</b> タイムゾーン
GMT-12	Etc/GMT+12
GMT-11	Etc/GMT+11
GMT-10	Etc/GMT+10
GMT-9	Etc/GMT+9
GMT-8	Etc/GMT+8
GMT-7	Etc/GMT+7
GMT-6	Etc/GMT+6
GMT-5	Etc/GMT+5
GMT-4	Etc/GMT+4
GMT-3	Etc/GMT+3
GMT-2	Etc/GMT+2
GMT-1	Etc/GMT+1
GMT+1	Etc/GMT-1
GMT+2	Etc/GMT-2
GMT+3	Etc/GMT-3
GMT+4	Etc/GMT-4
GMT+5	Etc/GMT-5
GMT+6	Etc/GMT-6
GMT+7	Etc/GMT-7
GMT+8	Etc/GMT-8

表 6-1 GMT zoneinfo タイムゾーン 続く

将来のリリースで削除される予定の <b>zoneinfo</b> タイムゾーン	利用できる同等の <b>zoneinfo</b> タイムゾーン
GMT+9	Etc/GMT-9
GMT+10	Etc/GMT-10
GMT+11	Etc/GMT-11
GMT+12	Etc/GMT-12
GMT+13	Etc/GMT-13

## Solstice AdminTools

Solstice AdminTools (admintool) は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。このツールは、ユーザー、プリンタ、ソフトウェアパッケージ、シリアルポート、グループ、ホストの管理を行います。

印刷管理の機能は、Solaris 8 オペレーティング環境で提供されます。  
printmgr (1M) のマニュアルページを参照してください。

## Solstice Enterprise Agents

Solstice Enterprise Agents™ は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。この機能は、Solaris 8 オペレーティング環境に含まれている WBEM (Solaris Web-Based Enterprise Management) サービス機能で提供されます。

## XIL

XIL は、将来のリリースではサポートされなくなる予定です。XIL を使用するアプリケーションを使用すると、次のような警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: XIL OBSOLESCENCE
This application uses the Solaris XIL interface
which has been declared obsolete and may not be
```

(続く)

```
present in version of Solaris beyond Solaris 8.  
Please notify your application supplier.  
The message can be suppressed by setting the environment variable  
"_XIL_SUPPRESS_OBSOLETE_MSG."
```

## LDAP クライアントライブラリ

LDAP (軽量ディレクトリアクセスプロトコル、Lightweight Directory Access Protocol) クライアントライブラリ `libldap.so.3` は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。このライブラリの新しいバージョンである `libldap.so.4` は、IETF (Internet Engineering Task Force) の `ldap-c-api` ドラフトの `draft-ietf-ldapext-ldap-c-api-04.txt` 版に準拠しています。

## JDK 1.1.x および JRE 1.1.x

JDK 1.1.x および JRE 1.1.x は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。ほぼ同等の機能が、Java 2 Standard Edition, versions 1.2 に継承されます。

## SUNWrdm パッケージ

Solaris SOFTWARE CD に含まれており、`/usr/share/release_info` にインストールされる `SUNWrdm` パッケージ (日本語版は `SUNWjrdm`、`SUNWjprdm`、`SUNWjurdm`) には、Solaris オペレーティング環境ソフトウェアをインストールする前に必要な情報やリリース直前に明らかになった問題点が記載されていましたが、このパッケージは将来のリリースでは提供されなくなる予定です。

`SUNWrdm` に記載されていた情報は、Solaris DOCUMENTATION CD に含まれている『ご使用にあたって』、印刷マニュアルの『ご使用にあたって』(インストールに関する情報のみ)、<http://docs.sun.com> に掲載されている『ご使用にあたって』に記載されていますので、これらを参照してください。

## crash(1M) ユーティリティ

crash(1M) ユーティリティは、将来の Solaris リリースでサポートされなくなる予定です。システムがクラッシュしたときのダンプファイルを調べる crash ユーティリティの機能は、mdb(1) ユーティリティで提供されます。crash コマンドのインタフェースは、Solaris オペレーティング環境の実装に関係のない細部の実装 (スロットなど) の周辺に構成されてきました。

crash から mdb への移行については、『Solaris モジュールデバグ』の「crash からの移行」で説明されています。

## Kerberos バージョン 4 クライアント

Kerberos バージョン 4 クライアントは、将来のリリースで削除される予定です。これに伴い、以下において Kerberos バージョン 4 はサポートされなくなります。

- kinit(1)、kdestroy(1)、klist(1)、ksrvtgt(1)、mount\_nfs(1M)、share(1M)、kerbd(1M) コマンド
- kerberos(3N) ライブラリ
- ONC RPC プログラミング API (kerberos\_rpc(3KRB))

## adb(1) マップ修飾子とウォッチポイント構文

adb(1) ユーティリティは、Solaris 8 オペレーティング環境の将来のバージョンにおいて、新しい mdb(1) ユーティリティへのリンクとして実装される予定です。

mdb(1) のマニュアルページでは、adb(1) との互換モードなど、新しいデバグ機能について説明されています。この互換モードにおいても、adb(1) と mdb(1) の間には、次のような違いがあります。

- mdb(1) では、一部のサブコマンドのテキスト出力形式が異なります。マクロファイルの形式は adb(1) と同じ規則に従っていますが、その他のサブコマンドの出力に依存するスクリプトは、変更しなければならない場合があります。
- ウォッチポイントの長さを指定する構文が、mdb(1) と adb(1) とで異なります。adb(1) のウォッチポイントコマンド :w、:a、:p では、整数の長さをバイト単位で指定してコロンとコマンド文字の間に挿入することができます。mdb(1) では、繰り返し回数として、数値を初期アドレスで指定する必要があります。

- adb(1) コマンドの場合

123:456w

- mdb(1) コマンドの場合

123,456:w

- mdb(1) では、/m、/\*m、?m、?\*m 書式指示子はサポートされていないため認識されません。

## OpenWindows ツールキット (開発者向き)

OpenWindows XView と OLIT ツールキットは、将来のリリースでサポートを中止する予定です。必要に応じて、Motif ツールキットに移行できます。警告メッセージが表示されないようにするには、`#define OWTOOLKIT_WARNING_DISABLED` または `-D` を使用してください。

## OpenWindows 環境 (一般ユーザー向き)

OpenWindows 環境は、将来のリリースでサポートを中止する予定です。必要に応じて、CDE (共通デスクトップ環境) に移行できます。

## フェデレーテッドネーミングサービス (FNS) / XFN のライブラリとコマンド

X/Open XFN 標準に基づく FNS は、将来のリリースでサポートを中止する予定です。

## Solaris ipcs(1) コマンド

システムクラッシュ時のダンプに、コマンド行で `-c` オプションと `-N` オプションを指定して `ipcs(1)` コマンドを適用する機能は、将来のリリースではサポートされなくなる予定です。これと同等の機能は、`mdb(1) ::ipcs` デバッガコマンドで提供されます。



## sendmail -AutoRebuildAliases

sendmail(1m) の `-AutoRebuildAliases` オプションは、将来のリリースでサポートされなくなる予定なので、使用しないことをお勧めします。

## devconfig

devconfig は、将来のリリースでサポートが中止される予定です。

## デバイスのサポートとドライバソフトウェア

次の表に、将来のリリースでサポートが中止される予定のデバイスとドライバソフトウェアを示します。

表 6-2 デバイスのサポートとドライバソフトウェア

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
Mylex/Buslogic FlashPoint Ultra PCI SCSI	flashpt	SCSI HBA
Qlogic	hxhn	SCSI HBA
AMI MegaRAID host bus adapter, first generation	mega	SCSI RAID
Madge Token Ring Smart 16/4, Madge Token Ring Smart 16/4 PCI BM Mk2, Madge Token Ring Smart 16/4 PCI BM Mk1, Madge Token Ring PCI Presto	mtok	ネットワーク
Compaq 53C8x5 PCI SCSI, Compaq 53C876 PCI SCSI	cpqncr	SCSI HBA

表 6-2 デバイスのサポートとドライバソフトウェア 続く

物理デバイス名	ドライバ名	カードの種類
Compaq Netelligent 10/100 TX UTPpqcncft, Compaq Netelligent 10 TX UTP, Compaq Integrated Netelligent controller, Compaq NetFlex3 - Dual Port, Compaq Integrated Netelligent controller, Compaq NetFlex3, Compaq NetFlex3 - TLAN 2.3, Compaq Integrated Netelligent Controller, Compaq Integrated Netelligent Controller, Compaq Integrated Netelligent Controller	cpqcnft	ネットワーク
Compaq SMART-2/P Array Controller, Compaq SMART-2SL Array Controller	smartii	SCSI RAID コントローラ

## Intel 486 システム

Intel 486 システムにおける Solaris オペレーティングのサポートは、将来のリリースで中止される予定です。

### [日本語環境のみ] japanese ロケール

Solaris 1.x リリースからの移行のために ja (EUC) ロケールの別名として提供されてきた japanese ロケールは、将来のリリースでは提供されません。ログイン環境として japanese ロケールを使用している場合は、ja ロケールに切り替えて使用することをお勧めします。

### [日本語環境のみ] libjapanese.a

日本語専用ライブラリ libjapanese.a およびそれに関連する次のヘッダーファイルは、将来のリリースでは提供されません。

- /usr/include/jcode.h
- /usr/include/ibmjcode.h
- /usr/include/jctype.h
- /usr/include/ja/xctype.h

■ /usr/include/wstring.h

libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムは、XPG4.2 などの標準関数を使用して書き換えることをお勧めします。標準関数の使用例は『JFP 開発ガイド』を参照してください。

Solaris 7 および Solaris 8 では、libjapanese.a を使用しているアプリケーションプログラムのソース互換性を保つための代替関数およびマクロを、ソースファイルにて提供します。詳細は、/usr/share/src/libjapanese/README を参照してください。

## [日本語環境のみ] 日本語入力システム ATOK8

日本語入力システム ATOK8 は、将来のリリースでは提供されなくなる予定です。ATOK8 の機能は日本語入力システム ATOK12 が提供します。

## [日本語環境のみ] 日本語入力システム cs00

日本語入力システム cs00 は、将来のリリースでは提供されなくなる予定です。これに伴い、xci インタフェース、JFP の libmle API、mle コマンドなども提供されなくなる予定です。



## マニュアルに関する情報

---

この章では、Solaris 8 のマニュアルに関する補足・訂正情報や、注意事項について説明します。

Solaris 8 1/01 INSTALLATION (Multilingual) CD に含まれる Solaris Web Start 3.0 の Kiosk および Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) に含まれている『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』、および印刷マニュアルの『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』の作成後に見つかった、以下のバグの情報が追記されています。

- 『Solaris 8 のソフトウェア開発 (追補)』の「ネットワークデバイス用のドライバ」(バグ ID: 4398700)
- 英語以外の言語用の新機能リスト (バグ ID: 4389948)
- 『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (Intel 版)』の関連マニュアルの名前
- smdiskless のマニュアルページ (バグ ID: 43844830)

---

注 - 今回の Solaris の製品名称は「Solaris 8 1/01」ですが、コード、パス名、パッケージパス名などで、「Solaris 2.8」または「SunOS 5.8」という名称が使用されていることがあります。コード、パス、パッケージパスなどを実際に入力または使用するときには、必ずマニュアル中に記述されている名称に従ってください。

---

## マニュアルの訂正・補足と注意事項

### 『**Solaris 8** のソフトウェア開発 (追補)』の「ネットワークデバイス用のドライバ」(バグ ID: 4398700)

「ネットワークデバイス用のドライバ」の章の 33 ページに記載されているシンボル名 `GLD_PROMISC_MULTI`、`GLD_PROMISC_NONE`、`GLD_PROMISC_PHYS` は正しくありません。誤ったシンボル名を使用して `GLD` ベースのネットワークドライバを記述すると、ドライバをコンパイルできません。

各シンボル名の記述は、以下のように読み換えてください。

`GLD_PROMISC_MULTI` ⇒ `GLD_MAC_PROMISC_MULTI`

`GLD_PROMISC_NONE` ⇒ `GLD_MAC_PROMISC_NONE`

`GLD_PROMISC_PHYS` ⇒ `GLD_MAC_PROMISC_PHYS`

### 英語以外の言語用の新機能リスト (バグ ID: 4389948)

英語以外の言語に翻訳された新機能リストが、Solaris Web Start 3.0 の Kiosk に含まれていません。

回避方法: 日本語版の新機能リストについては、『*Solaris 8* デスクトップユーザーズガイド (追補)』、『*Solaris 8* のシステム管理 (追補)』、『*Solaris 8* のソフトウェア開発 (追補)』、『*Solaris 8* のインストール (追補)』の「新機能の概要」を参照してください。

### 『**Solaris 8 1/01** ご使用にあたって (**Intel** 版)』の関連マニュアルの名前

Solaris 8 1/01 DOCUMENTATION CD (アジア言語版) に含まれている『Solaris 8 1/01 ご使用にあたって (**Intel** 版)』の「はじめに」の「関連マニュアル」にあるマニュアル名に誤りがあります。マニュアル名は、以下のように読み換えてください。

誤: 『*Solaris 8 10/00* ハードウェア互換リスト (**Intel** 版)』

正: 『*Solaris 8 1/01* ハードウェア互換リスト (**Intel** 版)』

## 『*CDE User's Guide*』 (AnswerBook2) (バグ ID: 4356456)

スペイン語、イタリア語、ドイツ語の『*CDE Users's Guide*』 (AnswerBook2) において、一部のグラフィックが正しく表示されません。

回避方法： <http://docs.sun.com> 上の『*CDE Users's Guide*』を参照してください。

## AnswerBook2 Help Collection

AnswerBook2 ソフトウェアはバージョン 1.4.3 にアップグレードされましたが、「AnswerBook2 Help Collection」中のマニュアルでは、バージョン 1.4.2 と記述されています。バージョン番号以外については、正しい情報が記載されています。

## マニュアルページ `usbprn(7D)` (バグ ID: 4347481)

`usbprn(7D)` デバイスドライバを使用する USB 印刷は、Intel 版 Solaris 8 1/01 リリースでサポートされません。

`usbprn(7D)` マニュアルページの「属性 (ATTRIBUTES)」の節には、「アーキテクチャ (Architecture)」の属性値として、「PCI 対応のシステムのみ (Limited to PCI-based systems)」がサポートされると記載されていますが、これは誤りです。正しくは、「PCI 対応の SPARC システムのみ (Limited to PCI-based SPARC systems)」がサポートされます。

## 『*Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)*』 『*man pages section 7: Device and Network Interfaces*』 の `adp(7D)` と `cadp(7D)` 『*Solaris 8 オペレーティング環境の概要*』

上記のマニュアルには、次に示すような内容の情報が記述されています。

- Adaptec の Ultra デバイスは、`cadp` ドライバによってサポートされています。
- Adaptec の Ultra デバイスは、PCI ホットプラグ機能をサポートしています。

この情報には一部誤りがあります。以下に訂正・補足情報を示します。

次に示す Adaptec の Ultra SCSI デバイスは、(cadp ドライバではなく) adp ドライバによってサポートされています。

- AHA-2940AU
- AHA-2940U
- AHA-2940U Dual
- AHA-2940UW
- AHA-2940UW Dual
- AHA-2944UW
- AHA-3940AU
- AHA-3940AUW
- AHA-3940AUWD
- AHA-3940U
- AHA-3940UW

これらの Ultra SCSI デバイスは、PCI ホットプラグ機能をサポートしていません。ただし、cadp ドライバによってサポートされている Ultra 2 SCSI デバイスは、PCI ホットプラグをサポートしています。

## 『Solaris 8 デバイスの構成 (Intel 版)』

「Adaptec AHA-2940AU, 2940U, 2940U Dual, 2940UW, 2940UW Dual, 2940U2, 2940U2B, 2940U2W, 2944UW, 2950U2B, 3940AU, 3940AUW, 3940AUWD, 3940U, 3940UW, 3944AUWD, 3950U2B ホストバスアダプタ」の「構成前の注意事項」において、上から 9 個目および 10 個目に記述されている情報は、次に示す内容に読み変えてください。

- SCSI を使用する場合、wide デバイスを narrow デバイスに接続する構成は避けてください。このような構成で使用する場合は、cadp.conf ファイルに次に示すエントリを追加してください。

```
target<n>-scsi-options=0x1df8
```



<n> には、narrow バスに接続された wide デバイスのターゲット ID を指定してください。このエントリによって、指定したターゲットに対する wide ネゴシエーションが無効になります。また、バスの上位 8 ビットが、SCSI チェーンの両端において正しく終了していることを確認してください。

- Intel 440BX/440GX マザーボードが搭載されているシステムで、インストール時に問題が発生した場合は、マザーボードの BIOS を最新のものにアップグレードしてください。

## 『Solaris 8 のインストール (上級編)』 (バグ ID: 4327931)

「ネットワーク上で Solaris ソフトウェアをインストールする準備」の「ブートサーバーをサブネット上で作成する方法」において、Solaris 8 SOFTWARE 2 of 2 CD と Solaris 8 LANGUAGES CD を使用するように記述されていますが、これは誤りです。これらの CD を使用すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
An existing install server cannot be found at /image_name.  
This tool can only add packages to an install server that already exists.
```

「ブートサーバーをサブネット上で作成する方法」に記述されている手順を実行するときには、手順 6 から手順 15 を飛ばしてください。

## [日本語環境のみ] 『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』

DOCUMENTATION CD (アジア言語版) および <http://docs.sun.com> 上の『Solaris 8 ハードウェア互換リスト (Intel 版)』の「Solaris 検証プログラム」において、「互換ハードウェアリストは、<http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl.html> で参照できます。」または「互換ハードウェアリストは、<http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl> で参照できます。」と記載されています。これらの URL へのリンクをクリックしても、互換ハードウェアリ

ストのページが表示されません。また、前者の URL  
`http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl.html` は正しくありません。

回避方法： Web ブラウザで、表示する URL として  
`http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl` または  
`http://soldc.sun.com/support/drivers/hcl_ja` を手動で入力してくだ  
さい。互換ハードウェアリストのページが表示されます。

## [日本語環境のみ] 『日本語入力システムの概要とセッ トアップ』 (バグ ID: 4363792)

「セットアップとファイル」の「ATOK12 セットアップとファイル構成」におい  
て、複数の入力サーバーが動作している場合の ATOK12 の指定方法が記述されてい  
ますが、環境変数 XMODIFIERS の値として指定する内容の記述に誤りがありま  
す。以下のように読み替えてください。

(誤) @im=atok12  
(正) @im=htt

## [日本語環境のみ] 『Solaris のシステム管理 (第 1 巻)』 (バグ ID: 4362189)

「ファイルとファイルシステムのバックアップ (手順)」の「テープにバックアップ  
をとる方法」の手順 7 に記載されている表の中の、「例」の記述内容が一部正し  
くありません。正しくは次に示すとおりです。

操作	例
増分バックアップを実行する	(誤) <code>ufsdump 9ucf /dev/rmt/0/</code> (正) <code>ufsdump 9ucf /dev/rmt/0 /</code>
ダンプを /etc/dumpdates ファイ ルに記録する	(誤) <code>ufsdump 9ucf /dev/rmt/ 0 /export/home</code> (正) <code>ufsdump 9ucf /dev/rmt/0 /export/home</code>

## [日本語環境のみ] セクション 3x の日本語マニュアル ページが表示されない (バグ ID: 4274297)

セクション 3x の日本語マニュアルページを表示しようとしてセクション指定オプ  
ションなしで `man` コマンドを実行すると、以下の例に示すように、マニュアルペ  
ージが表示されません。

例: `jconv(3x)` の場合

```
# man jconv
マニュアルには jconv のエントリがありません。
```

回避方法：セクション `3x` のマニュアルページを表示する場合は、`man` コマンドの実行時に、`-s` オプションを使用してセクション名 `3x` を指定してください。

例: `jconv(3x)` の場合

```
% man -s 3x jconv
マニュアルを清書中です。しばらくお待ちください...
ディレクトリ名は 3curses に変わりました
終了

その他ライブラリ関数                                jconv(3X)

【名前】
  jconv, tojupper, tojlower, tojhira, tojkata, atojis, jistoa,
  toujis, kutentojis - ワイド文字の変換

【形式】
  #include
  int tojupper(int c, ...);
  .
  .
  . <<以降省略>>
```

この回避方法が必要なマニュアルページは、次のとおりです。

`libjapanese` に関するマニュアルページ

sman3x:		
<code>atojis.3x</code>	<code>isjpunct.3x</code>	<code>tojupper.3x</code>
<code>ceuctoibmj.3x</code>	<code>isjussian.3x</code>	<code>toujis.3x</code>
<code>cibmjtoeuc.3x</code>	<code>isjsoci.3x</code>	<code>ujtojis.3x</code>
<code>cjistosi.3x</code>	<code>isjspace.3x</code>	<code>ujtojis7.3x</code>
<code>cjistouj.3x</code>	<code>isjspecial.3x</code>	<code>ujtojis8.3x</code>
<code>csjtojis.3x</code>	<code>isjunit.3x</code>	<code>ujtosj.3x</code>
<code>csjtouj.3x</code>	<code>isjupper.3x</code>	<code>wstrcat.3x</code>
<code>cujtojis.3x</code>	<code>jconv.3x</code>	<code>wstrchr.3x</code>
<code>cujtosj.3x</code>	<code>jctype.3x</code>	<code>wstrcmp.3x</code>

euctoibmj.3x	jis7tosj.3x	wstrcpy.3x
ibmjcode.3x	jis7touj.3x	wstrcspn.3x
ibmjtoeuc.3x	jis8tosj.3x	wstrdup.3x
isj1bytekana.3x	jis8touj.3x	wstring.3x
isjalpha.3x	jisconv.3x	wstrlen.3x
isjdigit.3x	jistoa.3x	wstrncat.3x
isjgen.3x	jistosj.3x	wstrncmp.3x
isjgreek.3x	jistouj.3x	wstrncpy.3x
isjhankana.3x	kutentojis.3x	wstrpbrk.3x
isjhira.3x	sjtojis.3x	wstrrchr.3x
isjis.3x	sjtojis7.3x	wstrspn.3x
isjkanji.3x	sjtojis8.3x	wstrtod.3x
isjkata.3x	sjtouj.3x	wstrtok.3x
isjline.3x	tojhira.3x	wstrtol.3x
isjlower.3x	tojkata.3x	
isjparen.3x	tojlower.3x	

仮名漢字入力変換マネージャライブラリに関するマニュアルページ

man3x			
cm.3x	cm_close.3x	cm_open.3x	cm_put.3x

なお、この例で man コマンド実行時に表示される “ディレクトリ名は 3curses に変わりました” というメッセージは、上記のマニュアルページには該当しないので無視してください。

## **[日本語環境のみ] contrast の日本語マニュアルページが提供されている (バグ ID: 4314213)**

/usr/openwin/bin/contrast は提供されなくなったのに、その日本語マニュアルページが提供されています。

回避方法：contrast の日本語マニュアルページは無視してください。

## [日本語環境のみ] dtpower の日本語マニュアルページが表示されない (バグ ID: 4318868)

日本語ロケール環境で dtpower のマニュアルページを参照する場合、マニュアルページの検索パス (環境変数 MANPATH) の順番で /usr/dt/share/man が /usr/openwin/share/man より先になっていると、英語のマニュアルページが表示されてしまいます。

回避方法: dtpower の日本語マニュアルページを参照するには、MANPATH 環境変数で /usr/openwin/share/man を /usr/dt/share/man より先に指定して下さい。または、以下の方法でも dtpower の日本語マニュアルページを参照できます。

```
% man -M /usr/openwin/man dtpower
```

## smdiskless のマニュアルページ (バグ ID: 4384483)

smdiskless のマニュアルページ smdiskless(1M) の記述に誤りがあります。それぞれ以下のように読み換えてください。

該当箇所	修正内容
add サブコマンドの説明	(誤) Adds a new diskless support to a server. (正) Adds a new diskless client to a server.
delete サブコマンドの説明	(誤) Deletes an existing diskless client from the system databases and removes any server support associated with the host, depending on the host type. (正) Deletes an existing diskless client from the system databases and removes any server support associated with the host, depending on the osserver type.
list サブコマンドの説明	(誤) Lists existing diskless clients served by hostname. (正) Lists existing diskless clients served by osserver.
modify サブコマンドの説明	(誤) Modifies the specified attributes of the diskless client host. (正) Modifies the specified attributes of the diskless client osserver.

該当箇所	修正内容
OPTIONS の説明	<p>(誤) The <code>smdiskless</code> authentication arguments, <code>auth_args</code>, are derived from the <code>smc(1M)</code> arg set and are the same regardless of which subcommand you use.</p> <p>(正) The <code>smdiskless</code> authentication arguments, <code>auth_args</code>, are derived from the <code>smc(1M)</code> arg set and are the same regardless of which subcommand you use. The <code>smdiskless</code> command requires the SMC to be initialized for the command to succeed (see <code>smc(1M)</code>). After rebooting the SMC server, the first SMC connection might time out, so you might need to retry the command.</p>
auth_args の説明	<p>次の内容を追加してください。</p> <p>Note: <code>smdiskless</code> supports the <code>-auth-data</code> file option, which enables you to specify a file the console can read to collect authentication data. See <code>smc(1M)</code> for a description of this option.</p>
add サブコマンドの引数の説明	<p>(誤) <code>-n host=client_name</code></p> <p>(正) <code>-n host</code></p> <p>(誤) <code>-o host_os</code></p> <p>(正) <code>-o os_server</code></p> <p>(誤) <code>-x platform=platform</code></p> <p><code>o</code> version is the Solaris version number. The supported version numbers are 2.6, 2.7 (for Solaris 7), 8, and 9.</p> <p>(正) <code>-x platform=platform</code></p> <p><code>o</code> version is the Solaris version number. The supported version numbers are 2.6, 2.7 (for Solaris 7), 8 (for Solaris 8).</p> <p>(誤) <code>-x root=directory</code></p> <p>(Optional) Specifies the absolute or full path of the directory in which to create the root directory for diskless clients. The default is <code>/export/root/client_name</code>.</p> <p>(正) <code>-x root=pathname</code></p>

該当箇所	修正内容
	<p>(Optional) Specifies the absolute path of the directory in which to create the root directory for diskless clients. The default (and recommended) pathname is /export/root/client_name.</p>
	<p>(誤) -x swap=directory</p> <p>(Optional) Specifies the absolute or full path of the directory in which to create the swap file for diskless clients. The default is /export/swap/client_name.</p>
	<p>(正) -x swap=pathname</p> <p>(Optional) Specifies the absolute path of the directory in which to create the swap directory for diskless clients. The default (and recommended) pathname is /export/swap/client_name.</p>
	<p>(誤) -x dump=directory</p> <p>(Optional) Specifies the absolute or full path of the dump directory for diskless clients. The default is /export/dump/client_name.</p>
	<p>(正) -x dump=pathname</p> <p>(Optional) Specifies the absolute path of the dump directory for diskless clients. The default (and recommended) pathname is /export/dump/client_name.</p>
	<p>(誤) The following options are used to configure workstations on first boot by sysidtool(1M). They can either be specified on the command line, or in a sysidcfg(4) formatted file. Note: Use the sysidcfg(4) file to add a DNS client.</p> <p>(正) The following options are used to configure workstations on first boot by sysidtool(1M). They can either be specified on the command line, or in a sysidcfg(4) formatted file. Note: Use the sysidcfg(4) file to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>o Add a DNS client.</li> <li>o Specify use of the LDAP name service.</li> <li>o Specify a security policy.</li> </ul>
	<p>(誤) -x ns=NIS   NIS+   NONE   DNS</p>

該当箇所	修正内容
	<p>(Optional) Specifies the client's nameservice. This is one of NIS, NIS+, NONE (for /etc files), or DNS. The default is the server's name service. This is obtained by reading the server's nsswitch.conf(4) file.</p> <p>(正) -x ns=NIS   NIS+   NONE</p> <p>(Optional) Specifies the client's nameservice. This is one of NIS, NIS+, or NONE. Use a sysidcfg(4) file to specify DNS or LDAP. The default ns value is NONE, which results in the use of the files source in nsswitch.conf. See nsswitch.conf(4) for a description of the files source.</p>
	<p>(誤) -x security_policy=kerberos   none の説明</p> <p>(正) すべて無視してください。</p>
	<p>(誤) -x locale=locale</p> <p>(Optional) Specifies the client's system locale. The default is the server's locale.</p> <p>(正) -x locale=locale</p> <p>(Optional) Specifies the client's system locale. The default is the C locale.</p>
	<p>(誤) -x sysidcfg=path_to_sysidcfg_file の sysidcgf(4) キーワード、構文、例の説明</p> <p>(正) 「The keywords and syntab of sysidcfg(1) are as follows:」以下の説明は、すべて無視してください。</p>
delete および modify サブコマンドの引数の説明	<p>(誤) -o host_os</p> <p>(正) -o os_server</p>
Example 3 の内容	<p>(誤) The following command lists the diskless clients running on the OS server, osserve:</p> <p>(正) The following command lists the diskless clients running on the OS server, osserver:</p>



---

該当箇所	修正内容
ENVIRONMENT VARIABLES の内容	(誤) If this environment variable is not specified, the /usr/java location is used. See smc(1M).  (正) If this environment variable is not specified, the /usr/ java1.2 location is used. See smc(1M).

---



## CERT 勧告

この章には、CERT 勧告 (2000 年 1 月 6 日現在) のリストを記載します。

次の表に、CERT 勧告を示します。

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-96.01	UDP ポートメー ル攻撃	Solaris 2.5.1	詳細は CERT 勧告を 参照
CA-96.03	Kerberos 4 Key Server	なし	詳細は CERT 勧告を 参照
CA-96.04	ネットワークサー バーからの情報の破 壊	Solaris 2.5.1	Solaris 8 オペレー ティング環境には影 響なし
CA-96.05	Ja va	なし	Solaris 8 オペレー ティング環境には影 響なし
CA-96.06	NCSA/Apache CGI	なし	Solaris 8 オペレー ティング環境には影 響なし
CA-96.07	Java バイトコードベ リファイア	なし	詳細は CERT 勧告を 参照
CA-96.08	PCNFSD	なし	
CA-96.09	rps.statd	Solaris 2.5.1	

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-96.10	NIS+ 構成	Solaris 2.5.1	
CA-96.11	CGI bin のインタープリタ	なし	
CA-96.12	suidperl	なし	
CA-96.13	dip	なし	
CA-96.14	rdist	Solaris 2.6	
CA-96.15	KCMS	Solaris 2.6	
CA-96.16	admintool	Solaris 2.6	
CA-96.17	vold	Solaris 2.6	
CA-96.18	fm_fls	なし	
CA-96.19	expreserve	Solaris 2.5	
CA-96.20	sendmail 資源不足	Solaris 2.6	
CA-96.21	TCP SYN Flood	Solaris 2.6	
CA-96.22	bash	なし	
CA-96.23	workman	なし	
CA-96.24	sendmail デーモンモードの危険性	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-96.25	sendmail グループアクセス権	Solaris 2.6	
CA-96.26	ping	Solaris 2.6	
CA-96.27	HP ソフトウェアインストールプログラム	なし	
CA-97.01	FLEXlm	なし	

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-97.02	HP-UX newgrp	なし	
CA-97.03	csetup	なし	
CA-97.04	talkd	Solaris 2.6	
CA-97.05	MIME 変換バッファオーバーフロー	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-97.06	rlogin-term	Solaris 2.6	
CA-97.07	nph-test	なし	
CA-97.08	innd	なし	
CA-97.09	imap および pop	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-97.10	自然言語	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-97.11	libXt	Solaris 2.6	
CA-97.12	webdist.cgi	なし	
CA-97.13	xlock	Solaris 2.6	
CA-97.14	metamail	なし	
CA-97.15	SGI ログイン	なし	

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-97.16	ftpd	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-97.17	sperl	なし	

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-97.18	at	Solaris 2.6	
CA-97.19	bsdip	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-97.20	Javascript	なし	
CA-97.21	SGI バッファ	なし	
CA-97.22	bind	Solaris 7	
CA-97.23	rdist	Solaris 7	
CA-97.24	Count_cgi	なし	
CA-97.25	CGI_metachar	なし	
CA-97.26	statd	Solaris 2.6	
CA-97.27	FTP bound	Solaris 2.6	
CA-97.28	Teardrop および Land	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-98.01	smurf	なし	詳細は CERT 勧告を参照
CA-98.02	CDE	Solaris 7 および Solaris 8	
CA-98.03	ssh-agent	なし	
CA-98.04	Microsoft Windows	なし	
CA-98.05	bind_problems	Solaris 7	
CA-98.06	nisd	Solaris 7	
CA-98.07	PKCS	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-98.08	qpopper_vul	なし	
CA-98.09	imapd	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-98.10	Mime バッファオーバーフロー	Solaris 7	
CA-98.11	tooltalk	Solaris 7	
CA-98.12	mountd	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-99-01	Trojan-TC	なし	
CA-99-02	Trojan-Horse	なし	
CA-99-03	FTP バッファオーバーフロー	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-99-04	Melissa	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-99-05	statd-automountd	Solaris 7 (statd) Solaris 2.6 (automount)	
CA-99-06	exploresip	なし	Solaris 8 オペレーティング環境には影響なし
CA-99-07	IIS バッファオーバーフロー	なし	
CA-99-08	rpc.cmsd	Solaris 8	

CERT 勧告	トピック	修正が実装された OS バージョン	注
CA-99-09	arrayd	なし	
CA-99-10	cobalt.rag2	なし	



## パッチリスト (Intel 版)

---

この付録では、Solaris 8 1/01 オペレーティング環境に適用されているパッチを記載しています。次のいずれかの方法でパッチが適用されます。

- finish スクリプト

適用されたパッチは、Solaris 8 1/01 オペレーティング環境をインストールしたシステムの `/var/sadm/patch` ディレクトリにあります。

- フレッシュビット

パッチは、Solaris 8 1/01 オペレーティング環境の作成時に適用されています。これらのパッチは `/var/sadm/patch` ディレクトリにはありません。

`showrev -p` コマンドを使用すると、上記のどちらの方法でパッチがシステムに適用されているかに関係なく、システムに適用されているすべてのパッチのリストを表示できます。Solaris 8 1/01 オペレーティング環境にはテスト済みのパッチが含まれています。これらのパッチは、Solaris 8 1/01 オペレーティング環境からバックアウト (削除) することはできません。

---

## パッチリスト

以下にパッチ ID、パッチの説明、そのパッチによって修正されるバグ ID を示します。各項目の書式は、次のとおりです。

パッチ ID : パッチの説明  
          このパッチで修正されるバグ ID

108529-05 : SunOS 5.8\_x86: kernel update patch  
1256102 4044653 4226443 4233718 4234426 4259051 4261064 4262842 4262930 4265649  
4269556 4269582 4269845 4271733 4271738 4282158 4282212 4290073 4293528 4295776 4296081  
4296124 4298256 4298789 4298790 4298792 4298794 4299504 4299838 4300179 4301683 4302637  
4303474 4303649 4304033 4304696 4305365 4305709 4306004 4307475 4307771 4308242 4308245  
4308370 4309719 4309750 4311755 4312278 4312461 4312641 4313746 4313747 4314201 4314488  
4316672 4317007 4317174 4317476 4319122 4319440 4320338 4320394 4320653 4321803 4321810  
4323534 4323981 4324244 4324250 4324992 4325075 4325336 4325730 4325934 4327330 4328843  
4330206 4330301 4331306 4332219 4334198 4334346 4334348 4334505 4335837 4336182 4338028  
4338033 4339049 4341664 4341714 4343039 4343237 4343425 4343443 4345667 4347359 4349102  
4349393 4311804 4184090 4233832 4266124 4288248 4293692 4296770 4309330 4325641 4326110  
4333639 4336443 4336779 4337039 4337295 4337300 4339732 4340614 4341185 4349603 4354802  
4357245 4357919 4367625 4368026 4369543 4350574 4351877 4352611 4362141 4365336 4341378  
4382693 4380916 4377012 4389685 4346976

108653-21 : X11 6.4.1\_x86: Xsun patch  
4281374 4292395 4286682 4300866 1221324 4308554 4306350 4312517 4287741 4297581  
4297830 4299495 4306774 4308640 4308661 4308670 4311088 4312780 4312893 4305597 4310813  
4293861 4311804 4318777 4311685 4317727 4314304 4310120 4299667 4292075 4310536 4330738  
4332966 4107762 4323892 4333070 4185418 4336308 4336246 4346749 4332982 4323164 4338851  
4355797 4356265 4345609 4379301

108715-03 : CDE 1.4\_x86: libDtWidget patch  
4289349 4321189 4360030

108724-01 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/fs/lofs patch  
4126922

108726-02 : SunOS 5.8\_x86: st driver patch  
4180382 4258222 4270641 4319238

108728-04 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/fs/nfs patch  
4193748 4249187 4276984 4293528 4331346

108774-06 : SunOS 5.8\_x86: IIIM and X Input & Output Method patch  
4379997 4366559 4363883 4306958 4305501 4304989 4301739 4307230 4307224 4295996  
4325454 4313845 4342196 4332958 4339874

108782-01 : Solaris 8\_x86: Get UDCTool to work for zh\_TW  
4307173

108809-18 : SunOS 5.8\_x86: Manual Page updates for Solaris 8  
4356768 4356771 4360161 4361275 4377110 4382653 4383347 4384062 4311373 4372215  
4372924 4377107 4377110 4379596 4381797 4356775 4367587 4347481 4351085 4365567 4365858  
4369053 4370464 4358328 4360561 4359608 4360350 4317975 4352046 4353279 4338576 4314390  
4345863 4325356 4311374 4312130 4323321 4323394 4314114 4310895

108821-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/nss\_compat.so.1 patch  
4302441

108822-01 : SunOS 5.8\_x86: /boot/solaris/boot.bin patch  
4300016

108824-01 : SunOS 5.8\_x86: compress/uncompress/zcat patch  
4295877

108826-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/fs/cachefs/cfsadmin patch

(続く)

4207874

108828-05 : SunOS 5.8\_x86: libthread patch  
4091466 4288299 4307551 4311948 4336933

108836-02 : CDE 1.4\_x86: dtcm patch  
4285729 4320553

108870-02 : SunOS 5.8\_x86: snmpdx/mibiisa/libssasmp/snmplib patch  
4299328 4301970 4309416 4333417

108876-07 : SunOS 5.8\_x86: c2audit patch  
4224166 4290575 4307306 4308525 4322741 4325997 4336689 4336959 4339611 4344275

108883-02 : SunOS 5.8\_x86: mmu32/mmu36 patch  
4305696 4307800 4357919

108898-01 : X11 6.4.1\_x86: Xprint patch  
4305734

108900-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/ftp patch  
4294697

108902-03 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/sys/rpcmod and /kernel/strmod/rpcmod  
patch  
4107735 4321293 4330007

108915-01 : SunOS 5.8\_x86: localisation updates for different components

108920-04 : CDE 1.4\_x86: dtlogin patch  
4072784 4293300 4302209 4299160 4346072 4328385

108922-07 : CDE 1.4\_x86: dtwm patch  
4306589 4311842 4301522 4299651 4300013 4261430 4311753 4330496 4335592 4335971  
4332153

108924-01 : CDE 1.4\_x86: dtwm patch  
4261430 4310640 4311753

108934-01 : SunOS 5.8\_x86: bugfix for European locales, dtmail, dtcalc,  
SmartCard  
4308864 4304021 4301544

108941-12 : Motif 2.1.1\_x86: Runtime library patch for Solaris 8\_x86  
4299216 4294643 4320106 4318757 4322319 4299139 4312519 4322466 4327272 4327592  
4336559 4327637 4322728 4342603 4343099 4350517 4334155 4367450 4362266

108950-04 : CDE 1.4\_x86: litDtHelp/libDtSvc patch  
4298416 4307660 4345282 1191725

108955-01 : SunOS 5.8\_x86: localisation updates for different components

(続く)

108957-01 : SunOS 5.8\_x86: htt\_server dumps core on SCH's cm.so in utf-8 locales  
4314242

108963-01 : SunOS 5.8\_x86: XmlReader fails on an HTTP stream  
4314140

108965-04 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/snoop patch  
1110881 4297326 4297676 4304083 4313760 4315280 4317713 4321696 4321713 4321720  
4321721 4321723 4321725 4321726 4322042 4322055 4322058 4322060 4322064 4322200 4322670

108969-02 : SunOS 5.8\_x86: vol/vold/rmmount patch  
1206000 4108297 4145529 4205437 4211612 4254816 4255049 4285374 4286446 4292408  
4292563 4296452 4298451 4298465 4298563 4298567 4303430 4304283 4304289 4305067 4306425  
4307495 4307500 4307620 4307634 4312778 4313091

108971-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/fs/pcfs/fsck and /usr/lib/fs/pcfs/mkfs patch  
4145536 4210625 4250242 4256652

108973-04 : SunOS 5.8\_x86: /sbin/fdisk patch  
4221693 4304790 4347145

108976-03 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/rmformat and /usr/sbin/format patch  
4242879 4292212 4304790 4308431 4311553 4322206

108978-01 : SunOS 5.8\_x86: libsmedia patch  
4292214 4308431 4311553

108980-09 : SunOS 5.8\_x86: PCI HotPlug framework and devfsadm patch  
4272737 4276021 4303126 4306367 4307062 4307080 4307747 4307827 4309011 4309750  
4309802 4309818 4310864 4311126 4311134 4312937 4314121 4314936 4315098 4315100 4315101  
4318351 4318747 4319122 4320440 4320471 4321326 4322424 4328067 4329695 4330383 4330429  
4330774 4332425 4334198 4335003 4335935 4336443 4337039 4338633 4339732 4341185 4349603  
4357092 4357552 4359294 4364048 4365270 4367993 4372712 4386544

108986-02 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/in.rshd patch  
4158689 4305888 4335632

108988-02 : SunOS 5.8\_x86: Patch for patchadd and patchrm  
4115232 4278860 4292990 4299710 4303509 4304640 4311375 4319950 4330590

108990-02 : SunOS 5.8\_x86: acctctl & exactsys patch  
4305365 4312278 4313746 4313747 4314201

108992-06 : SunOS 5.8\_x86: libc and watchmalloc patch  
4193683 4225913 4291844 4292683 4303962 4310353 4312278 4314913 4366956 4375449

108994-01 : SunOS 5.8\_x86: nss and ldap patch  
4312278

108996-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/libproc.so.1 patch

(続く)

4312278

108998-03 : SunOS 5.8\_x86: libexacct and libproject patch  
4305365 4312278 4313746 4313747 4314201

109000-01 : SunOS 5.8\_x86: PAM patch  
4312278

109004-01 : SunOS 5.8\_x86: /etc/init.d/acctadm and /usr/sbin/acctadm patch  
4312278

109006-01 : SunOS 5.8\_x86: /sbin/su.static and /usr/bin/su patch  
4312278

109008-04 : SunOS 5.8\_x86: at/atrm/batch/cron patch  
4261967 4304184 4312278 4379735

109010-01 : SunOS 5.8\_x86: /etc/magic and /usr/bin/file patch  
4312278

109012-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/id and /usr/xpg4/bin/id patch  
4312278

109014-02 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/lastcomm patch  
4305365 4312278 4313746 4313747 4314201

109016-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/newtask patch  
4312278

109018-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/pgrep and /usr/bin/pkill patch  
4312278

109020-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/priocntl patch  
4312278

109022-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/projects patch  
4312278

109024-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/i86/ps patch  
4312278

109026-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/i86/truss patch  
4312278

109028-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/wracct patch  
4312278

109030-01 : SunOS 5.8\_x86: perl patch  
4312278

109032-01 : SunOS 5.8\_x86: projadd/projdel/projmod patch  
4312278

(続く)

- 109034-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/i86/prstat patch  
4312278
- 109036-01 : SunOS 5.8\_x86: useradd/userdel/usermod patch  
4312278
- 109038-01 : SunOS 5.8\_x86: /var/yp/Makefile and /var/yp/nicknames patch  
4312278
- 109042-02 : SunOS 5.8\_x86: sockfs patch  
4224166 4290575 4322741
- 109044-02 : SunOS 5.8\_x86: sonode adb macro patch  
4224166 4290575 4322741
- 109046-02 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/i86/crash patch  
4224166 4290575 4322741
- 109067-03 : SunOS 5.8\_x86: NCA Support for Apache Web Server patch  
4285881 4294231 4296334 4297125 4297126 4297294 4299951 4300202 4300429 4300836  
4301047 4303787 4306793 4307672 4307679 4307683 4308402 4311970 4312075 4312396 4313734  
4316564 4317634 4318360 4318365 4324351 4326195 4326198
- 109069-01 : Japanese CDE 1.4: update CDE help files for \_x86  
4302904
- 109071-02 : SunOS 5.8\_x86: WBEM 2.0  
4302909 4380748
- 109073-04 : CDE 1.4\_x86: (Japanese) New Feature patch  
4302027 4305195 4322170 4346025 4365384 4373355
- 109078-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/inet/in.dhcpd patch  
4313817
- 109088-01 : SunOS 5.8\_x86: atok8 terminates "Shell widget modeShell has  
zero..."  
4297016 4301750
- 109092-03 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/fs/ufs/ufsrestore patch  
4297558 4302943 4366956 4375449
- 109095-01 : SunOS 5.8\_x86: localisation updates for different components
- 109119-04 : SunOS 5.8\_x86: JFP message files patch  
4318917 4345727 4357764 4358930 4380324
- 109129-01 : SunOS 5.8\_x86: Provide conversion between codepages 1256 and  
ISO8859-6  
4301870
- 109132-05 : SunOS 5.8\_x86: JFP manpages patch

(続く)

4320935 4345069 4302905 4351981 4379437

109135-10 : SunOS 5.8\_x86: WBEM patch

4297248 4309319 4314792 4318408 4329995 4332540 4333798 4333799 4336708 4336719  
 4336764 4346486 4346810 4346974 4352831 4355958 4355986 4356000 4357738 4358748 4358807  
 4358814 4358855 4359098 4359109 4359136 4359580 4359722 4360208 4362256 4362879 4363471  
 4363474 4364065 4364250 4364642 4364742 4364795 4364806 4365026 4365215 4365386 4365462  
 4365763 4365811 4365940 4366652 4366809 4367110 4367132 4368018 4368410 4368421 4368575  
 4368608 4368626 4368682 4368756 4368777 4369122 4369554 4370171 4370176 4370212 4370711  
 4371192 4371214 4371217 4371519 4372191 4372647 4372914 4374771 4376028 4378375 4379554  
 4380882 4385381 4385396 4387991

109138-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sadm/install/bin/pkginstall patch  
 4318844

109143-03 : CDE 1.4\_x86: dtterm libDtTerm patch  
 4308751 4340259 4355107

109146-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/in.routed patch  
 4319852

109148-07 : SunOS 5.8\_x86: linker patch  
 4040628 4103449 4187211 4210412 4219652 4235315 4239213 4243097 4248250 4250694  
 4255943 4287274 4297563 4300018 4303609 4306415 4309212 4310324 4310901 4311226 4312449  
 4313765 4316531 4318162 4321634 4322528 4322581 4324134 4324324 4324775 4327653 4329785  
 4334617 4335801 4336102 4336980 4338812 4340878 4341496 4343417 4343801 4344528 4346001  
 4346144 4346615 4349137 4349563 4351197 4351715 4352233 4352330 4354500 4355795 4356879  
 4357805 4358751 4358862 4366905 4367118 4367405 4369068

109150-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/mkdevmaps patch  
 4316613

109155-01 : SunOS 5.8\_x86: vgate and terminal-emulator patch  
 4307285

109158-11 : SunOS 5.8\_x86: WOS Message Update and more bug fix for UR3  
 4350770 4351383 4332965 4343790 4334002 4337487 4337974 4338505 4341638 4323845  
 4362981

109160-01 : SunOS 5.8\_x86: the mapping of zh\_CN.euc%UTF-8 is consistent  
 4334099 4337362

109166-08 : CDE 1.4\_x86: dtfile patch  
 4257760 4256612 4256615 4256616 4256617 4297751 4259270 4287012 4292249 4303367  
 4297401 4302856 4305084 4305248 4303443 4291565 4308823 4306243 4291444 4286997 4310115  
 4302740 4301375 4312545 4314867 4312316 4310827 4292266 4316515 4314491 4317156 4317797  
 4314870 4322296 4318940 4325417 4335592 4331909 4331578 4339457 4343798 4353856 4346376

109168-01 : CDE 1.4\_x86: Desktop Help Updates Patch  
 4307183 4319636

109170-10 : CDE 1.4\_x86 GWM sdtgwm dumps core after selecting Window->Close Window:  
 Window Manager Enhancements Patch

(続く)

4301525 4301229 4303415 4304468 4308078 4310419 4311506 4312315 4311916 4312250  
 4311992 4312375 4305293 4316508 4299329 4321374 4327961 4321817 4328036 4328268 4327801  
 4330458 4327967 4332309 4330198 4331955 4328255 4330445 4336342 4360521 4376807

109180-03 : SunOS 5.8\_x86: localisation updates for Removable Media  
 4313061 4329376 4333754 4329372

109182-02 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/fs/cachefs patch  
 4103817 4166371 4292697 4299056 4299427 4308026 4308068

109190-04 : SunOS 5.8\_x86 : Extra Catalan Support required  
 4305956 4328876 4337258

109191-03 : SunOS 5.8\_x86 : ru.RU.KOI8-R Cannot cut/paste cyrrilic between  
 dtapps  
 4325497 4328876 4359095

109192-02 : SunOS 5.8\_x86 : Cut/Paste not functioning in ru\_RU.KOI8-R  
 4307614 4328876

109193-02 : SunOS 5.8\_x86 : Polish UTF-8 Support Solaris 8  
 4325497 4328876

109201-03 : SunOS 5.8\_x86: l10n updates  
 4336934 4313061 4327905 4333002

109222-05 : SunOS 5.8\_x86: Patch for sysidnet  
 4186765 4245794 4310379 4310705 4322703 4338255 4350971

109224-01 : SunOS 5.8\_x86: libgss.so.1 and libkadm5clnt.so.1 patch  
 4308978

109235-01 : SunOS 5.8\_x86: Apache/mod\_jserv patch  
 4312109

109239-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/i86/ipcs patch  
 4310353

109248-01 : SunOS 5.8\_x86: Bad translation causes core dump in German  
 install  
 4324017

109250-01 : SunOS 5.8\_x86: Help not localised for the dhcpgmr  
 4324311

109278-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/iostat patch  
 4313169

109280-08 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/ip patch  
 4291034 4299644 4299951 4302749 4303422 4305039 4306362 4308728 4310956 4311938  
 4317221 4320818 4323647 4323830 4324430 4333995 4335568 4336478 4337275 4338724 4339375  
 4347223 4387783

(続く)



109319-07 : SunOS 5.8\_x86: Admin/Install patch  
4299103 4302899 4313039 4324404 4325840 4334036 4337779 4351009 4351486 4355192  
4358804 4372310

109321-01 : SunOS 5.8\_x86: LP jumbo patch  
4188167 4235953 4260829 4263321 4265529 4281487 4302705 4310991

109323-02 : SunOS 5.8\_x86: libnsl patch  
4305859 4320661

109325-01 : SunOS 5.8\_x86: sh/jsh/rsh/pfsh patch  
4313399

109327-01 : SunOS 5.8\_x86: libresolv.so.2 patch  
4284409

109329-01 : SunOS 5.8\_x86: ypserv and ypxfr patch  
4203989

109355-04 : CDE 1.4\_x86: dtsession patch  
4239375 4344648 4316439 4335987

109385-01 : SunOS 5.8\_x86: libaio patch  
4253437

109401-01 : OpenWindows 3.6\_x86: Updated X Server video support.  
4302368 4302364 4330223 4309613 4326353 4322314 4319297 4286989 4308451 4330423

109412-02 : SunOS 5.8\_x86: dtmail prints garbage strings  
4326649 4350277

109442-02 : SunOS 5.8\_x86: sdtudctool patch  
4312994 4342214

109453-01 : SunOS 5.8\_x86: Window List, buttons unlocalised in Options  
dialog  
4329351

109455-01 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/fs/fifofs patch  
4302216

109459-01 : SunOS 5.8\_x86: ldterm patch  
4250344

109462-02 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/lwp/libthread.so.1 patch  
4305389 4336933

109471-02 : CDE 1.4\_x86: Actions Patch  
4326649 4353583

109473-03 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/tcp patch  
4291034 4299644 4308728 4310189 4311938 4319441 4330074 4332542

(続く)

109538-01 : SunOS 5.8\_x86: Unlocalised buttons on user-interface of dhcparm  
4324315

109553-01 : SunOS 5.8\_x86: FIGSS-UTF8, Removable media manager unlocalised  
4327983

109565-01 : SunOS 5.8\_x86: Removable Media Mgr, Missing floppy error  
unlocalised  
4329409

109574-01 : SunOS 5.8\_x86: dhcparm help graphics not displayed correctly  
4330902

109577-01 : SunOS 5.8\_x86: mountall and fsckall patch  
4260430

109583-01 : CDE 1.4\_x86: sdtaudio patch  
4305400

109588-02 : SunOS 5.8\_x86: Patch for spurious boot device change messages  
4256556 4345757

109608-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/include/iso/stdlib\_iso.h patch  
4300780

109610-01 : SunOS 5.8\_x86: UTF-8 Korean attached text becomes garbled  
4309015

109614-02 : CDE 1.4\_x86: dtmail patch  
4133950 4362276 4372376 4336922

109619-01 : SunOS 5.8\_x86: en\_US.UTF-8 locale patch  
4311444 4336840

109623-01 : SunOS 5.8\_x86: env LANG=zh\_TW dtterm doesn't work in zh\_TW.UTF-8  
4330770

109640-01 : SunOS 5.8\_x86: th locale error in / lacks some LC\_CTYPE  
definitions  
4314263

109643-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/include/sys/dkio.h patch  
4304790

109644-02 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/sd patch  
4304790 4348075

109668-02 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/inet/xntpd and /usr/sbin/ntpdate patch  
4279094 4330427

109681-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/nss\_nisplus.so.1 patch  
4244731

(続く)

- 109693-02 : SunOS 5.8\_x86: Information  
4339515 4345433 4350242
- 109705-02 : SunOS 5.8\_x86: Japanese iconv patch  
4350293 4344163 4344139 4340250 4340245 4227824
- 109728-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sadm/admin/printmgr/classes/pmclient.jar  
patch  
4326665
- 109730-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/cat patch  
4163406
- 109741-03 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/udp patch  
4291034 4299644 4302749 4303422 4306362 4308728 4310956 4311938 4317221 4320818  
4335568
- 109743-02 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/icmp patch  
4291034 4299644 4303422 4306362 4308728 4311938
- 109749-01 : CDE 1.4\_x86: sdtaudiocontrol patch  
4324012 4324019 4295904
- 109751-03 : SunOS 5.8\_x86: translation update and sync with base's PDA  
images  
4339505
- 109753-01 : SunOS 5.8\_x86: UI of admintool is lost in partail installation  
4347036
- 109756-01 : OpenWindows 3.6.1 (japanese)\_x86: update for power mgt util for  
s28u2  
4345748
- 109765-02 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/fs/hsfs patch  
4305026 4328133
- 109767-01 : SunOS 5.8\_x86: SUNWjxmft and SUNWjxcft patch for 8/10 dot font.  
4345078
- 109784-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/nfs/nfsd patch  
4305333 4325431
- 109786-01 : SunOS 5.8\_x86: /etc/inittab patch  
4273366
- 109798-01 : SunOS 5.8\_x86: /platform/i86pc/kernel/drv/ata patch  
4353406
- 109804-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/du and /usr/xpg4/bin/du patch  
4306228
- 109806-01 : SunOS 5.8\_x86: pam\_krb5.so.1 patch

(続く)

4330143

109808-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/dumpadm patch  
4340246

109810-01 : SunOS 5.8\_x86: timezone data patch for Australasia  
4313766

109814-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/include/memory.h patch  
4313659

109863-01 : X11 6.4.1\_x86: Font Server patch  
4314299 4323233 4335325 4335328 4336593 4345905

109866-03 : SunOS 5.8\_x86: elxl patch  
4351739 4355560 4256331 4202169 4292440 4273911

109869-03 : SunOS 5.8\_x86: WOS Help File Update  
4350353

109875-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/include/sys/ac97.h patch  
4271687 4304911 4307415 4329687

109878-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/include/sys/dma\_i8237A.h patch  
4333588

109884-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/include/sys/ecppsys.h patch  
1167460 4241460 4250652 4257428 4270674 4271686 4275074 4275092 4275119 4275200  
4275205 4276209 4295173 4297052 4299441 4299456 4299460 4299467 4299470 4299621 4299631  
4301029 4301079 4301556 4309750 4314412 4314419

109886-02 : SunOS 5.8\_x86: pci driver patch  
4261567 4262685 4271733 4271738 4278935 4284196 4290532 4302637 4307697 4322734  
4324244 4324250 4327135 4334348 4334505 4338033 4357092

109891-01 : SunOS 5.8\_x86: pmsserver.jar patch  
4308951

109895-01 : SunOS 5.8\_x86: lp driver patch  
4309750

109897-03 : SunOS 5.8\_x86: USB patch  
4179082 4207634 4257491 4278766 4282084 4284408 4284481 4288456 4290035 4290038  
4290048 4297451 4297991 4298047 4299321 4299711 4301110 4302435 4303153 4303369 4303371  
4304019 4304060 4304250 4304253 4304383 4304968 4305437 4305467 4305645 4305649 4305819  
4306676 4307085 4308510 4308511 4309328 4309368 4309566 4309916 4311023 4312163 4312381  
4314164 4314166 4317503 4317522 4317527 4317528 4320410 4323024 4328542 4329325 4329560  
4330021 4331700 4332033 4332613 4332707 4336235 4336592 4337149 4337561 4337816 4338525  
4339292 4341714 4341839 4342024 4342426 4342488 4343230 4343443 4344107 4344121 4344122  
4346963 4347288 4349013 4349282 4350113 4350901 4351268 4351426 4351707 4352101 4369166

109899-02 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/arp patch  
4291034 4299644 4302198 4308728 4311938

(続く)

109901-01 : SunOS 5.8\_x86: /etc/init.d/network and /etc/rcS.d/S30network.sh  
patch  
4291034 4299644 4308728 4311938

109903-03 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/inet/in.ndpd patch  
4291034 4299644 4308728 4311938 4347223 4386544

109905-04 : SunOS 5.8\_x86: /etc/default/mpathd and /sbin/in.mpathd patch  
4291034 4299644 4308728 4311938 4314132 4328423 4338258 4338530 4347223 4369240  
4386544

109907-04 : SunOS 5.8\_x86: /sbin/ifconfig and /usr/sbin/ifconfig patch  
4218277 4291034 4299644 4308728 4311938 4347223 4386544

109909-01 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/misc/scsi patch  
4325730 4328843

109911-01 : SunOS 5.8\_x86: CDE help for Winlst, Rem. Media Mgr. & Workspace  
Mgr.  
4329353 4329355 4339080

109921-04 : SunOS 5.8\_x86: pcic driver patch  
4243709 4286161 4337039 4347834 4352356 4352663 4367607

109923-02 : SunOS 5.8\_x86: pcelx, pcser and cs driver patch  
4090692 4243709 4308863 4308870 4320108 4352663

109925-02 : SunOS 5.8\_x86: pcata driver patch  
4287520 4303758 4352663

109927-02 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/pem patch  
4243709 4303863 4332477 4352663

109929-02 : SunOS 5.8\_x86: pcmem and pcmcia patch  
4243709 4265532 4280422 4303875 4337357 4352663

109932-01 : CDE 1.4\_x86: sdtimage Patch  
4345373

109934-01 : SunOS 5.8\_x86: mv, cp, ln patch  
4264701

109937-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/diff patch  
4338744

109952-01 : SunOS 5.8\_x86: jserver buffer overflow  
4352777

109955-01 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/sys/pset patch  
4352049

109961-01 : CDE 1.4\_x86: sdtperfmeter patch

(続く)

4341412 4290470 4280252

109991-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/ccs/bin/dis patch  
4015840 4350263

110020-02 : SunOS 5.8\_x86: JFP install/sysadm messages patch  
4354350 4375794

110045-01 : SunOS 5.8\_x86: iswalpha() can't work well in zh.GBK locale  
4355229

110064-01 : SunOS 5.8\_x86: New features added to install  
4357775

110069-01 : CDE 1.4\_x86: PDASync patch  
4341358

110076-01 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/devinfo patch  
4341354

110078-02 : SunOS 5.8\_x86: sysevent framework patch  
4336779 4365737 4367650

110089-01 : CDE 1.4\_x86: DtPower patch  
4354583

110145-06 : SunOS 5.8\_x86 SPECIAL PATCH  
4299534 4313955 4296770 4363888 4351739 4355560 4256331 4202169 4292440 4273911

110147-02 : SunOS 5.8\_x86 SPECIAL PATCH  
4299534 4296770 4351739 4355560 4256331 4202169 4292440 4273911

110166-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/bin/sed patch  
4287555

110207-01 : UTF-8 Windows List Application and Windows mgr (sdtgwm)  
unlocalised:  
4352800 4352861 4342970

110270-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/libnisdb.so.2 patch  
4318294

110273-03 : SunOS 5.8\_x86: Figgs Custom install new features and install help  
4367029

110284-03 : SunOS 5.8\_x86: mkfs and newfs patch  
4297460 4333516 4339330 4344221 4380132 4374181

110287-01 : OpenWindows 3.6.2\_x86: Tooltalk patch  
4334998

110315-02 : SunOS 5.8\_x86 SPECIAL PATCH  
4368385

(続く)

110323-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/lib/netshvc/yp/ypbind patch  
4362647

110325-01 : SunOS 5.8\_x86: /kernel/drv/asy patch  
4247612

110327-01 : CDE 1.4\_x86: dtstyle patch  
4321874

110365-02 : SunOS 5.8\_x86: Add L10N dttypesbinder files  
4366984 4383627

110396-03 : SunOS 5.8\_x86: udp ip mipagent  
4302749 4310956 4317221 4320818 4335568 4375915 4377368 4377693 4377694 4378163  
4386544

110397-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4233832 4326110 4336779 4357245

110398-03 : SunOS 5.8\_x86: RCM libnvpair serengeti sysevent  
4233832 4326110 4336779 4357245 4363985 4364006 4364129 4375059 4375416 4386544

110399-03 : SunOS 5.8\_x86: RCM libnvpair serengeti sysevent  
4233832 4326110 4336779 4357245 4375059 4375416 4386544

110400-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4311781 4313955

110401-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4311781 4313955

110402-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4296770

110403-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4296770

110404-01 : SunOS 5.8\_x86: file systems should support snapshots for online  
bkups  
4296770

110405-01 : SunOS 5.8\_x86: file systems should support snapshots for online  
bkups  
4296770

110406-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4310379

110408-02 : CDE 1.4\_x86: Sdtypes patch  
4313855 4329990 4357804 4365790 4374350

110417-02 : SunOS 5.8\_x86: ATOK12 patch

(続く)

4361738 4372858 4384092

110454-01 : SunOS 5.8\_x86: admintool patch  
4354306

110459-01 : SunOS 5.8\_x86:  
4313067

110669-01 : SunOS 5.8\_x86: /usr/sbin/in.telnetd patch  
4366956 4375449

110671-01 : SunOS 5.8\_x86: usr/sbin/static/rcp patch  
4366956 4375449